

Dai-ichi Life Investment Report

2023年度第4四半期 特別勘定運用のご報告

(対象期間: 2024年1月1日～2024年3月31日)

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

 Dai-ichi Life Group

当報告書について

- 当報告書は、2013年7月の改正「保険業法施行規則」の施行に伴い、対象期間における運用状況、期初運用方針及び当該運用方針に従った投資が行われたかについての分析、対象期間の翌日以後における運用方針等をご報告するものです。
- 当報告書と併せまして、同封しております「特別勘定資産運用状況報告書」にて、お客さまの特別勘定に属する財産の運用経過等をご確認下さい。

【投資対象別口をご採用のお客さまへのお願い】

「特別勘定資産運用状況報告書」では、各特別勘定の残高や構成割合より、お客さまのご指示通りに資金振替が行われているかどうかをご確認いただけます。ご確認いただいた際にご不明点等がございましたら当社担当者宛にご照会くださいますようお願いいたします。

特別勘定特約の基本方針

- ① 保険契約事務の適正な遂行
保険契約の履行に伴う事務（資産運用に係る事務を含む）について、十分な注意をもって適正に行います。
- ② 適正な情報開示の実施
当特別勘定資産の運用状況に関して、適正な情報開示を行います。
- ③ 運用手法の明確化
当特別勘定資産の運用手法を明確にし、その運用手法はみだりに変更しません。運用手法を変更するにあたっては、ご通知します。
- ④ 分散投資の実施
当特別勘定資産の運用にあたっては、分散投資に留意します。
- ⑤ 同一の者への過度な投資の禁止
同一の者が発行する有価証券の取得及び同一の者への貸付などについては、限度を定め、過度な投資を行いません。
- ⑥ 投資の判断基準
有価証券への投資にあたっては、合理的な投資判断にて行います。
- ⑦ 適正な売買発注の実施
適正な判断に基づき、有価証券の売買発注を行います。
- ⑧ 流動性の確保
当特別勘定資産の運用にあたっては、十分な流動性を確保するよう留意します。
- ⑨ 情報の適切な管理
利益相反取引の発生によりお客さまの利益が不当に害されることを防止するため、特別勘定において知り得たお客さまの有価証券取引に係る情報等を、特別勘定以外の有価証券投資を行う部門に伝達しません。

目次

1年間の市場イベント	1
市場概況	2
市場概況 主要指標の推移	4
運用方針 総合口（2023年度第4四半期）	5
運用方針 投資対象別口（2023年度第4四半期）	8
運用概況 総合口	10
運用概況 第2総合口	12
運用概況 第3総合口	14
運用概況 総合口戦略的資産配分型	16
運用概況 債券総合口	18
運用概況 年金債務対応総合口	20
運用概況 ヘッジ外債総合口Ⅰ型	22
運用概況 グローバル株式総合口Ⅰ型	24
運用概況 マルチストラテジー総合口Ⅰ型	26
運用概況 指数連動型配当口	28
運用概況 投資対象別口	32
長期のパフォーマンス状況	33
経済・市場見通し	34
運用方針 総合口（2024年度）	44
運用方針 投資対象別口（2024年度）	49
運用実績の推移	50
受託実績の推移	52
運用体制／売買執行体制等	54
「日本版スチュワードシップ・コード」に関する取組	55
「企業年金受託業務に係る内部統制報告書」にかかる外部監査の対象及び結果の概要	58
「財務諸表監査」及び「内部統制監査」にかかる外部監査の対象及び結果の概要	59
リスク管理基準	60
各種情報発信のご案内／要因分析の見方	61
特別勘定特約に関する重要なお知らせ	62

当資料をごいただくにあたってのご注意

- 総合口 国内債券、為替ヘッジ外債及び国内債券計の記載について
国内金利リスク分散の観点から、短期基本ポートフォリオに国内債券とは別に為替ヘッジ外債を設定し組み入れています。このため、当資料ではそれぞれの資産を個別にレポートすることを原則としていますが、一部「国内債券計」として、上記2資産の時価総額や収益率を合算した数値も表示しています。
- 総合口 国内株式の先物取引について
総合口 国内株式において、現物の一部代替として先物の組み入れを行っています。当該資産の時価構成比及び収益率は、先物を含めて算出しています。
- 総合口 外国株式、アジア新興国株式及び外国株式計の記載について
収益機会の多様化の観点から、短期基本ポートフォリオに外国株式とは別にアジア新興国株式の組み入れを行っています。このため、当資料ではそれぞれの資産を個別にレポートすることを原則としていますが、一部「外国株式計」として、上記2資産の時価総額や収益率を合算した数値も表示しています。
- 収益率の表記について、ファンド合計についてはユニット価格伸び率を算出しこれを表示していますが、その内訳である要因分析や資産別収益率（総合口、第2総合口、債券総合口）については時間加重収益率（厳密法）により測定しこれを表示しています。
- 特段の記載がない限り、当資料は当社の運用実績をお知らせするために作成されたものであり、保険募集を目的とするものではありません。
- 市場データについては当社が信用できると判断した情報源より作成しておりますが、正確性・完全性について当社が保証するものではありません。
- 将来の見通し及び予測・方針等につきましては、特別勘定の運用のために特別勘定運用部にて策定したものです。加えて、当該見通し及び予測・方針等は資料作成時点のものであり、以後の市場環境などの動向に応じて変更することがあります。
- 当資料に関わる一切の権利は、他社資料などの引用部分を除き第一生命に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りいたします。なお、当資料の内容などに関してご不明な点、疑問に思われる点などがございましたら、当社担当者宛にご照会くださいますようお願い申し上げます。

1年間の市場イベント

市場へのインパクト材料

プラス材料

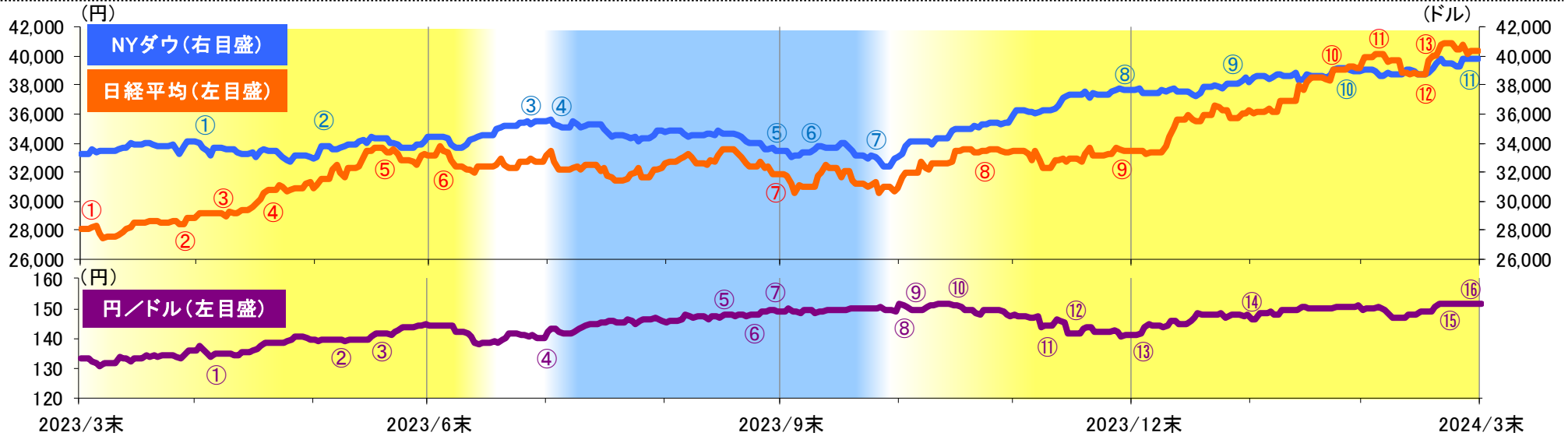
マイナス材料

国内企業資本効率改善・経済活動正常化期待
米国景気減速懸念の後退

主要中銀の金融引き締め
政策長期化観測

主要中銀の利上げ終了観測

AI関連需要の拡大期待
米国経済の底堅い推移



マーケット材料<NYダウ>

2023	①	5/1	米地銀ファースト・リパブリック・バンクが経営破綻し、JPモルガン・チェースによる買収が決定
	②	6/2	政府債務上限の効力を停止する法案が議会を通過したことを受けてNYダウは701ドルの大幅上昇
	③	7/26	NYダウが1987年以来となる13連騰を記録
	④	8/1	大手格付会社が米国債の格付を最上位の「AAA」から1段階引き下げ
	⑤	9/27	米長期金利が一時4.64%と約16年ぶりの高水準を記録
	⑥	10/7	イスラム組織ハマスがイスラエルに対して大規模攻撃を実施
	⑦	10/23	米長期金利が一時5%を上回り、約16年ぶりの高水準を更新
	⑧	12/28	NYダウが37,710ドルで取引を終え、史上最高値を更新
2024	⑨	1/25	2023年10-12月期の米実質GDP成長率が市場予想を上回り、NYダウは史上最高値を更新
	⑩	2/23	米NVIDIAの時価総額が一時2兆ドルを突破
	⑪	3/28	NYダウが39,807ドル、S&P500が5,254ポイントとそれぞれ史上最高値を更新

マーケット材料<日経平均>

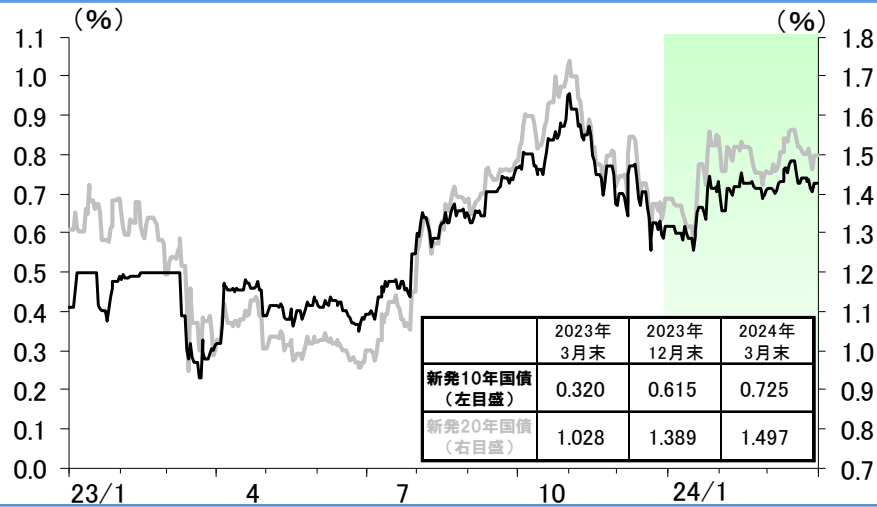
2023	①	3/31	東証が上場企業に資本効率や株価を意識した経営対応を求める方針を開示
	②	4/28	植田日銀総裁の就任後初となる金融政策決定会合で現行の大規模金融緩和の維持を決定
	③	5/8	政府は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを「2類相当」から「5類」に引き下げ
	④	5/17	約1年8ヵ月ぶりに日経平均が終値で3万円を回復
	⑤	6/16	日銀が金融政策決定会合で現状維持を決定。日経平均は約33年ぶりの高値を更新
	⑥	7/3	日経平均は1990年以降の高値を更新
	⑦	9/29	国内長期金利が約10年ぶりとなる0.77%台まで上昇
	⑧	11/20	日経平均が一時33,853円をつけ1990年以降の高値を更新
	⑨	12/29	日経平均は2023年の取引を33,464円で終え、年間で28%の上昇を記録
2024	⑩	2/22	日経平均が1989年12月に付けた史上最高値を約34年2ヵ月ぶりに更新
	⑪	3/4	日経平均が初の40,000円台に到達
	⑫	3/15	2024年春闘・1次集計の賃上げ率は平均+5.28%となり、33年ぶりの高水準
	⑬	3/19	日銀が金融政策決定会合でマイナス金利政策を含む大規模緩和の解除を決定

マーケット材料<円/ドル>

2023	①	5/3~4	FRB・ECBがそれぞれ0.25%の利上げを決定
	②	6/6~7	オーストラリア準備銀行・カナダ中銀が市場予想に反し、それぞれ利上げを決定
	③	6/14~15	FRBが11ヵ月ぶりに利上げを見送った一方、ECBは8ヵ月連続となる利上げを決定
	④	7/28	日銀がイールドカーブ・コントロールの運用柔軟化を決定し、指値オペの水準を1%に引き上げ
	⑤	9/14	ECBが10ヵ月連続での利上げを決定
	⑥	9/20	FOMCで政策金利の据え置きを決定した一方、2024年以降の政策金利見通しを引き上げ
	⑦	9/27	約11ヵ月ぶりの水準となる1ドル=149円台後半まで円安ドル高が進行
	⑧	10/31	日銀がイールドカーブ・コントロールのさらなる運用柔軟化を決定し、事実上の上限であった1%を「めど」に修正
	⑨	11/1	FOMCで政策金利据え置きを決定し、長期金利の上昇により利上げの必要性低下と示唆
	⑩	11/13	1ドル=151円台後半まで円安ドル高が進行
	⑪	12/7	「年末から来年にかけて一段とチャレンジングになる」との植田日銀総裁の発言を受け、一時141円台まで円高ドル安が進行
	⑫	12/13	FOMCで3ヵ月連続の政策金利据え置きを決定し、2024年の政策金利見通しを下方修正
2024	⑬	1/1	石川県能登地方で最大震度7の地震が発生
	⑭	1/31	FOMCで4ヵ月連続での政策金利据え置きを決定し、早期利下げに対して慎重姿勢を示す
	⑮	3/20	FOMCで5ヵ月連続での政策金利据え置きを決定し、2024年内3回の利下げ見通しを維持
	⑯	3/27	一時1ドル=151.97円と約34年ぶりの水準まで円安ドル高が進行

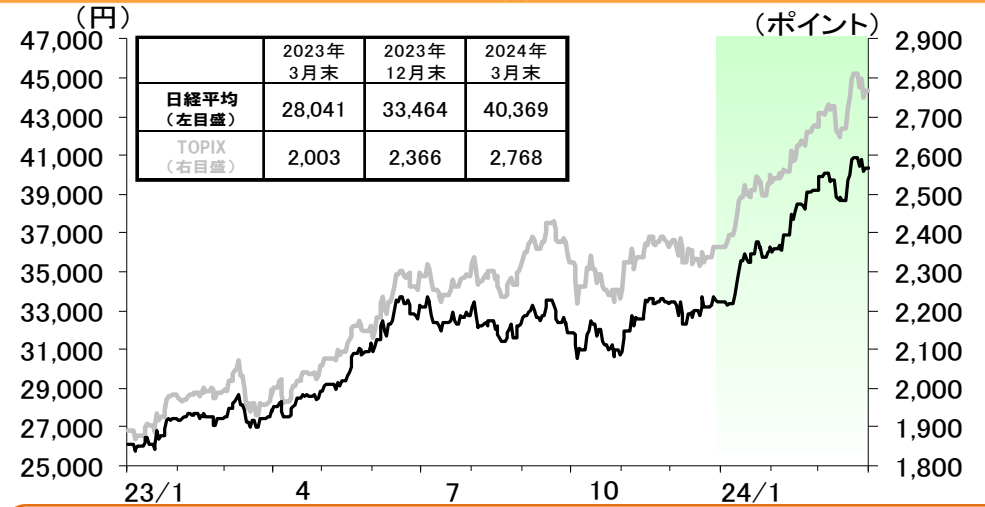
2023年度第4四半期 市場概況 — 日本・米国 —

国内金利



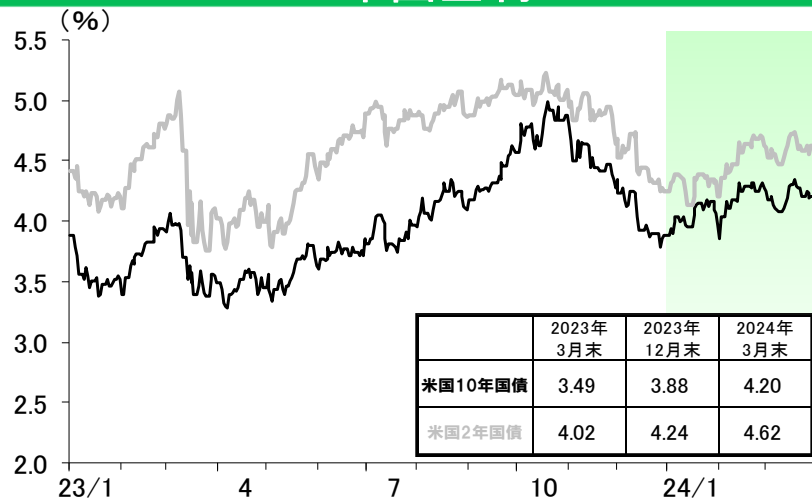
日銀の早期金融政策正常化観測が高まったことや、米国金利が上昇したことなどから上昇。

国内株式



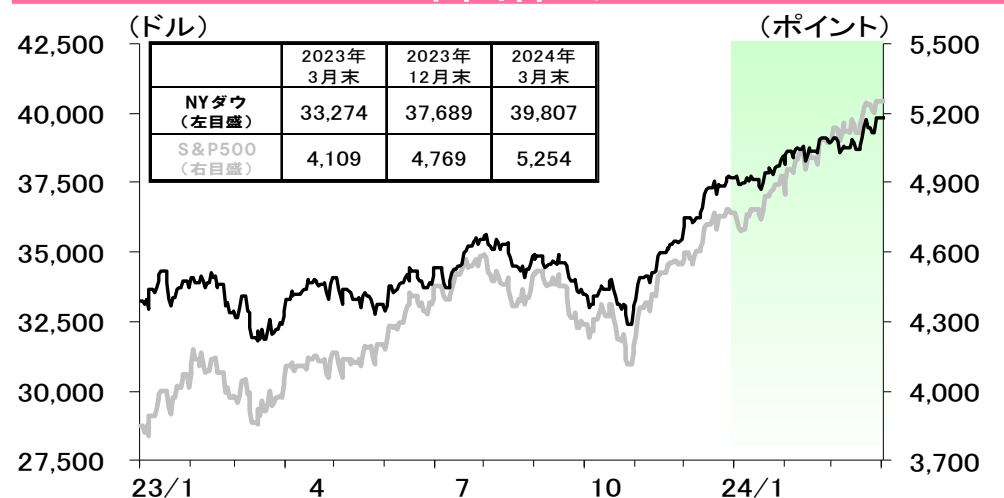
緩和的な金融環境が当面続くとの見方が広がったことや、円安を受けて業績改善期待が高まったことなどから上昇。

米国金利



米国経済の底堅い推移や、インフレ減速ペースの鈍化等を背景に、FRBの利下げ観測が後退したことなどから上昇。

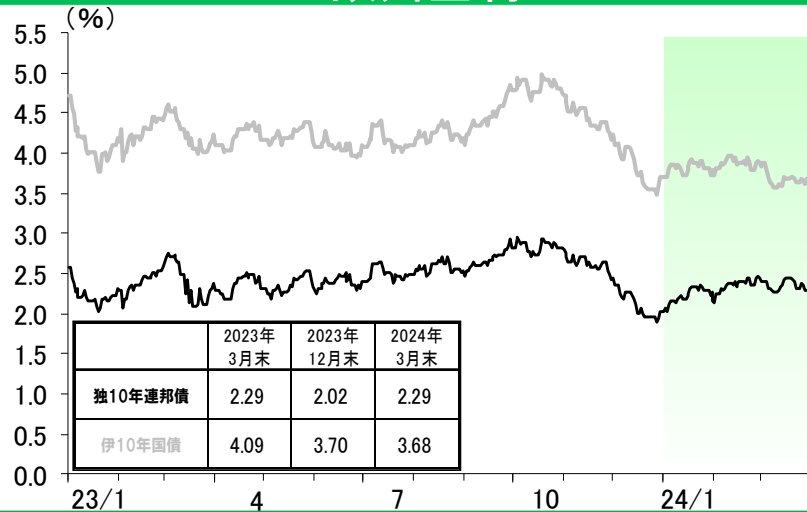
米国株式



金利上昇が株価の重しとなったものの、ハイテク株の決算内容などが好感され上昇。

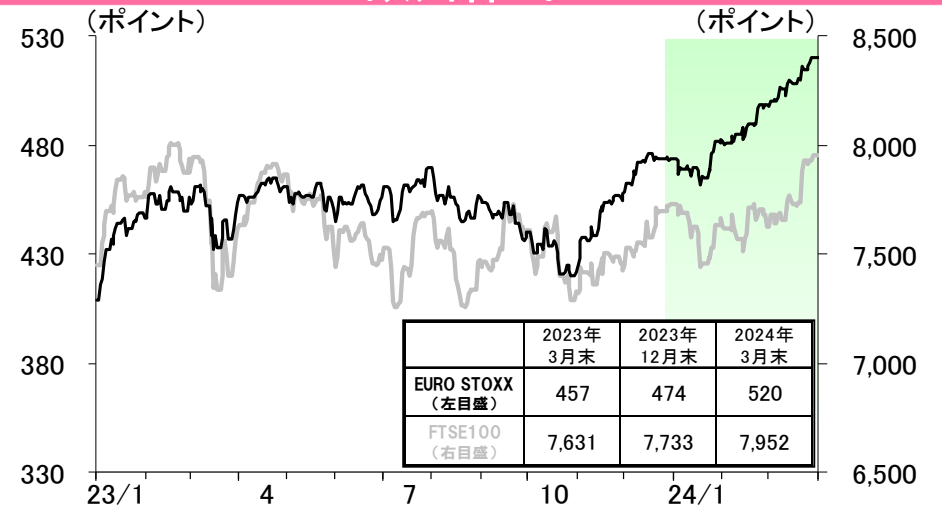
2023年度第4四半期 市場概況 — 欧州・新興国・為替 —

欧州金利



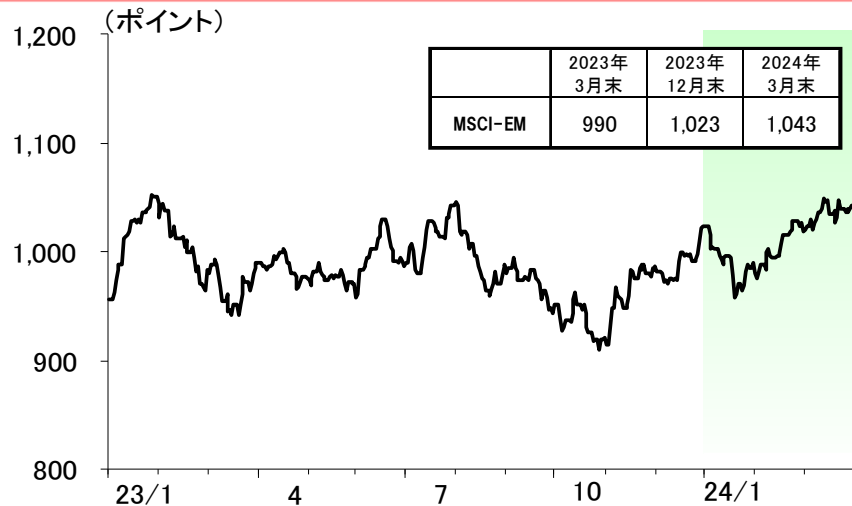
ECBの利下げ観測後退等を背景にドイツ金利は上昇した一方、良好なリスクセンチメント等を背景にイタリア金利は横ばい。

欧州株式



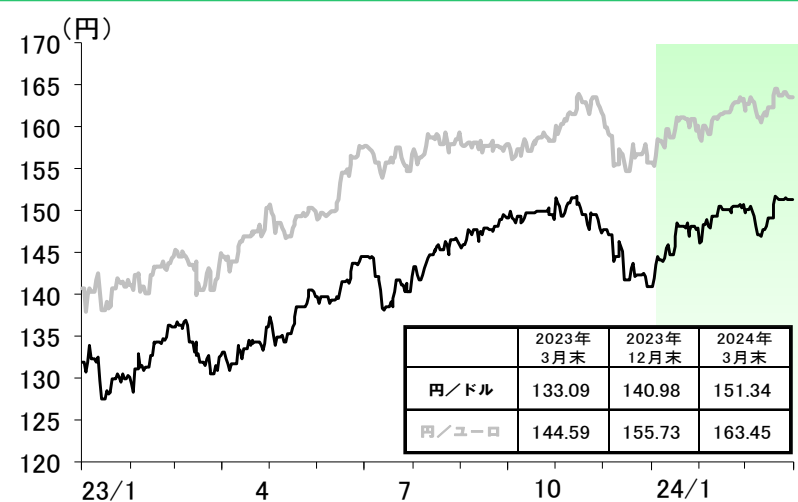
ECBによる早期利下げ観測の後退が嫌気されたものの、米ハイテク株高やユーロ圏景況感の改善などを受けて上昇。

新興国株式



中国景気の悪化懸念から一時下落するも、中国当局の株価支援策や半導体需要回復への期待感などから上昇。

為替



主要国との金利差拡大等を背景に主要通貨に対する円安が進行。

市場概況 — 主要指標の推移 —

資産	指標	2022年度末		2023年度第4四半期末		
			前年度末比(%)		前四半期末比(%)	前年度末比(%)
国内債券	新発10年国債 (%)	0.320	注) 0.11	0.725	注) 0.11	注) 0.41
国内株式	日経平均 (円)	28,041.48	0.79	40,369.44	20.63	43.96
	TOPIX (ポイント)	2,003.50	2.93	2,768.62	17.00	38.19
外国債券	米国10年国債 (%)	3.49	注) 1.17	4.20	注) 0.32	注) 0.71
	独10年連邦債 (%)	2.29	注) 1.74	2.29	注) 0.27	注) 0.01
	英国10年国債 (%)	3.49	注) 1.88	3.93	注) 0.40	注) 0.44
外国株式	N Y ダ ウ (ドル)	33,274.15	▲ 4.05	39,807.37	5.62	19.63
	S & P 5 0 0 (ポイント)	4,109.31	▲ 9.29	5,254.35	10.16	27.86
	D A X (ポイント)	15,628.84	8.42	18,492.49	10.39	18.32
	F T S E 1 0 0 (ポイント)	7,631.74	1.54	7,952.62	2.84	4.20
	E U R O S T O X X (ポイント)	457.15	5.12	520.21	9.72	13.79
為替	円 / ドル (円)	133.09	9.65	151.34	7.35	13.72
	円 / ユーロ (円)	144.59	7.07	163.45	4.96	13.04
	円 / ポンド (円)	164.55	2.97	191.18	6.38	16.18
	ドル / ユーロ (ドル)	1.0864	▲ 2.35	1.0800	▲ 2.23	▲ 0.59
	ドル / ポンド (ドル)	1.2364	▲ 6.09	1.2632	▲ 0.91	2.17

注) 前四半期末比および前年度末比の数値は、国内債券・外国債券の各指標については変化幅を、その他の指標については変化率を記載しています。

(単位: %)

資産	指標	2022年度 収益率	2023年度	
			1月-3月 収益率	4月-3月 収益率
国内債券	NOMURA-BPI 総合	▲ 1.65	▲ 0.51	▲ 2.20
為替ヘッジ外債	FTSE-WGBI (除く日本、円ヘッジ・円ベース)	▲ 10.25	▲ 1.90	▲ 3.39
国内株式	TOPIX (配当込み)	5.81	18.14	41.34
外国債券	FTSE-WGBI (除く日本、円ベース)	▲ 0.50	5.48	15.27
外国株式	MSCI-KOKUSAI (円ベース、配当再投資、GROSS)	2.36	16.87	42.92
新興国債券	J. P. モルガンEMBIプラス (円ベース)	0.42	9.84	25.98
新興国株式	MSCI-EM (円ベース、配当再投資、GROSS)	▲ 1.64	9.97	23.49
アジア新興国株式	MSCI-EM ASIA (円ベース、配当再投資、GROSS)	▲ 0.26	11.03	21.33
REIT	S&P Developed REIT (円ベース、配当込み)	▲ 11.98	6.33	23.63
短期資産	コールレート (無担保、翌日)	▲ 0.03	▲ 0.00	▲ 0.03

2023年度第4四半期 運用方針 — 総合口・第2総合口・第3総合口 —

運用方針	
総合口	<ul style="list-style-type: none"> 「マクロ経済分析」や「財政・金融政策」、「各市場ごとの需給動向」などの判断に基づく資産配分、ならびに個別資産ごとの銘柄選択効果により、安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。 総合口の運用に際しては、長期的なマクロ経済の分析・市場予測をベースとした長期基本ポートフォリオ(10年程度)を設定した上で、各資産の1年程度の市場見通しを考慮し、当年度における資産配分のベンチマークとして短期基本ポートフォリオを設定します。 金利分散の強化の観点から、長期基本ポートフォリオ上の円貨建公社債の一部として、為替ヘッジ付外貨建公社債を組み入れます。また、収益機会の多様化の観点から、外国株式の一部として、アジア新興国株式を組み入れます。 ベンチマークは、総合口の短期基本ポートフォリオと各資産のベンチマークを基に算出した複合ベンチマークとします。 資産配分については、国内株式のアンダーウェイトを解消のうえ中立とし、外国株式をオーバーウェイト、国内債券をアンダーウェイトとしたポジションを基本としますが、各国金融政策の動向、企業業績等を注視し、機動的な売買を実施する方針です。 各資産別の運用方針については、投資対象別口の内容をご確認ください。
第2総合口	<ul style="list-style-type: none"> 定量分析の活用により、高度なリスク分散を図った資産配分戦略と高利回りかつ低リスクを追求した個別資産戦略を実施し、価格下落リスクを抑制しつつ、中長期的に年率3%程度の期待収益率を目標とした運用をします。 資産配分比率は、ファンド全体の目標リスク(年率3%~4%)をターゲットに月次で見直しを行います。また、市場リスクが高まったと判断した際には、短期資金への資金移動を速やかに実施します。 投資対象は、リスク分散を高度に行うために、先進国国債、先進国株式、新興国国債、新興国株式、REIT、短期資金とします。 先進国国債、先進国株式、新興国株式、REITについては、地域・銘柄等の分散を図りつつ、高利回り・低リスクを追求した運用を行います。新興国国債については、参照ベンチマークから信用リスクの高い銘柄を除いて、低リスクを追求した運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。
第3総合口	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオの大幅な損失を抑制すると同時に利益の獲得を追求することで、中長期的な収益の最大化を目指した運用を行います。 オプション市場の情報を活用した独自の投資魅力度に基づき資産配分を行います。原則として週次でリバランスを行います。市場リスクが極端に高まったと判断される場合には、機動的に配分比率を変更します。 資産配分の決定に際しては、過去12ヵ月の収益率による実績ドローダウンに応じて運用リスクを調整します。 投資対象は、先進国株式、先進国国債、新興国株式、新興国国債、クレジット等を対象とする先物および上場投資信託(ETF)とし、市場環境に応じて適宜組み入れ銘柄の見直しを図ります。 株式の配分においては一定の制約の下で投資魅力度が最大化するよう銘柄選択を行い、債券の配分についてはデュレーションあたりの利回りを重視した運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。

2023年度第4四半期 運用方針－総合口戦略的資産配分型・債券総合口・年金債務対応総合口－

運用方針	
総合口戦略的 資産配分型	<ul style="list-style-type: none"> 運用者の投資ノウハウを定量化するテクノロジーを活用した複数の戦略を組み合わせることで、安定的な収益獲得および高い投資効率を目指した運用を行います。中長期的に4.0%程度の期待収益率を目標とした運用を行います。 ファンド全体の目標リスクは年率4%程度とします。 資産配分は、収益源泉の異なる複数の戦略を組み合わせた上で、シャープレシオが最大となるように調整し、市場動向に応じて随時リバランスを実施します。また、市場リスクが高まる際には、ポジションを縮小することでポートフォリオ全体のリスク抑制を図ります。 アセットマネジメントOneが設定する円貨建証券投資信託にて投資を行います。 上記投資信託の実質的な投資対象は、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券、短期資金とします。各資産の組入れ制約については、グロスエクスポージャーは株式150%以下、債券400%以下とし、各戦略を組み合わせた後のネットエクスポージャーでは資産クラス毎及びファンド全体で0～100%の範囲内とします。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。
債券総合口	<ul style="list-style-type: none"> グローバルに投資適格債券を投資対象とし、為替リスクはヘッジリスク抑制に重点を置きつつ、中長期的に国内短期金利+2.0～2.5%の期待収益率を目標とした運用をします。 投資対象は、先進国国債、新興国国債、グローバル社債、短期資金とします。 資産配分については、70%を「コア・ポートフォリオ」とし、先進国国債、新興国国債、グローバル社債をそれぞれ一定の比率とします。30%については、「動的配分ポートフォリオ」とし、各資産の投資魅力度(リスク対比のインカム利回り)をもとに配分します。 ファンド全体のリスクについては、年率3%程度をターゲットとしますが、市場リスクが高まったと判断した際には、リスクを抑制します。 「コア・ポートフォリオ」運用にあたっては、先進国国債は、地域・銘柄の分散を図りつつ、投資魅力度等をもとに運用を行います。新興国国債は、参照ベンチマークから信用リスクの高い国を除くことにより、リスクを抑制した運用を行います。グローバル社債は、アクティブ運用とし、分散投資を図りつつ合理的な投資判断に基づき運用を行います。また、「動的配分ポートフォリオ」運用にあたっては、機動性、流動性を高めた運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。
年金債務対応 総合口	<ul style="list-style-type: none"> 年金財政上の運用目標(予定利率)を達成することに加え、サープラス(年金資産と企業会計上の年金債務との差)の変動を抑えることを目標とした運用を行います。 投資対象は、国内債券、為替ヘッジ外債、グローバル社債、国内株式、外国株式、短期資産とします。 資産別の期待収益率・リスク等は、独自のマクロ経済金融環境シナリオ生成モデルにて算出し、原則四半期ごとにポートフォリオの見直しを行います。 各資産の運用にあたっては、国内債券は、超長期ゾーンも含め負債変動を考慮した運用を行います。為替ヘッジ外債は、地域・銘柄等の分散を図りつつ、投資魅力度(インカム利回り)等をもとに運用を行います。グローバル社債は、アクティブ運用とし、分散を図りつつ合理的な投資判断に基づき運用します。国内株式および外国株式は、地域・銘柄等の分散を図りつつ、下方リスクを抑制した運用を行います。なお、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。

2023年度第4四半期 運用方針

ーヘッジ外債総合口 I 型・グローバル株式総合口 I 型・マルチストラテジー総合口 I 型・指数連動型配当口ー

運用方針	
ヘッジ外債 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 米国の主要な債券セクター(国債、政府系MBS、非政府系MBS、CMBS、ABS、CLO、バンクローン、ハイイールド債券、米ドル建エマージング債券等)および米国以外の国債を実質的な投資対象とし、安定的な高インカムの獲得と金利上昇による元本毀損の抑制をめざした運用を行います。 中長期的に国内短期金利+2.0~2.5%の期待収益率を目標とした運用を行います。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をダブルライン・キャピタル・エルピー(以下、ダブルライン社)に委託します。 投資にあたっては、ダブルライン社が市場動向や経済動向、政治動向等に関する見通しに基づいて、債券種別の配分比率等を変更します。ダブルライン社はシナリオ分析やクレジット分析等を基に、組入銘柄の選択を行います。 原則として為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減をはかります。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。
グローバル株式 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 世界の上場企業を実質的な投資対象とし、集中投資型の運用を行うことで、ベンチマークを上回る運用を目指します。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をWCMインベストメント・マネジメント(以下、WCM社)に委託します。 投資にあたっては、WCM社が参入障壁の方向性や企業文化、構造的成長力等に着目した銘柄選択を行い、銘柄の組入比率等を変更します。 ベンチマークは、「MSCI-ACWI(円ベース、配当再投資、GROSS)」とします。
マルチストラテジー 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 世界の株式、債券、通貨、商品及びそれらに関連する金融派生商品(オプション、先物、スワップ、ワラント等)等を実質的な投資対象とし、複数の運用戦略を活用することで安定的な収益の獲得をめざした運用を行います。 中長期的に国内短期金利+7.0%の期待収益率を目標とした運用を行います。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・UK・リミテッドに委託します。 原則として為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減をはかります。
指数連動型 配当口	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の株式・債券等先物取引から構成される所定の指数に連動した収益を分配します。 一般勘定と組み合わせたフロアセットプランとして、10年間で年平均収益率1.25%以上の運用成果を目指します。 投資対象とする、円貨建証券投資信託(私募)は、シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が設定します。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 新規に設定されるいずれの単位保険口についても同様の運用方針とします。

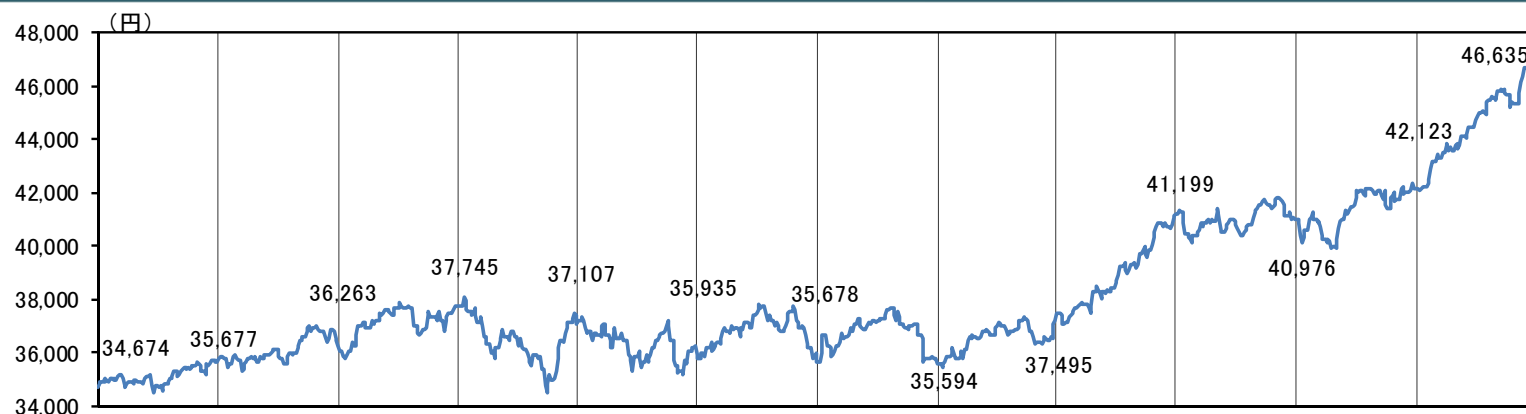
2023年度第4四半期 運用方針 — 投資対象別口 —

運用方針	
国内債券口	<ul style="list-style-type: none"> 日銀の金融政策正常化の条件は整いつつあると考えられ、日銀の政策修正タイミングを巡り、金利はボラティリティを伴いながらも上昇していくものと見込み、デュレーションは短期化を軸にコントロールする方針です。また、需給動向や国内物価動向等を睨みつつ、物価連動国債のウェイトをコントロールします。キャリーの獲得や日銀の社債等買入活用の観点から、事業債のオーバーウェイトを維持する方針です。
為替ヘッジ外債口	<ul style="list-style-type: none"> インフレのピークアウト等を背景に主要中銀の利上げサイクルは終了し、今後は利下げに転じるものと想定され、また積極的な金融引き締めによる経済への悪影響が顕在化し、景気は減速感を強めていくものと考えられることなどから、欧米長期金利は低下基調で推移するものと見込み、デュレーションは長期化を軸にコントロールします。
国内株式口1型	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に業績拡大が期待でき、かつ、バリュエーションが割安な銘柄への選別投資を行います。また、マクロ経済や各国の金融・財政政策の動向などにより物色動向が急激に変化するリスクがあることから、業種リスクは抑制し、類似業種内での銘柄選択に注力します。
国内株式口2型	<ul style="list-style-type: none"> 定量モデルを用いて、多様なバリュー尺度（フローバリューおよびストックバリュー、時系列比較およびクロスセクション比較など）を用いて割安度を判定し銘柄選択を実施します。加えて、企業のクオリティ（収益性、業績安定性、株主還元など）に関連するファクターや株価の方向性に大きな影響を及ぼすファクター（空売り比率など）を考慮し多面的に銘柄を評価する事により、安定的な超過収益獲得を目指します。
外国債券口	<ul style="list-style-type: none"> FRBが利下げに転じる可能性が高まるなか、米ドル安が進行するものと見込み、ユーロ等をオーバーウェイトとしつつも、局面に応じて機動的にコントロールする方針です。 インフレのピークアウト等を背景に主要中銀の利上げサイクルは終了し、今後は利下げに転じるものと想定され、また積極的な金融引き締めによる経済への悪影響が顕在化し、景気は減速感を強めていくものと考えられることなどから、欧米長期金利は低下基調で推移するものと見込み、デュレーションは長期化を軸にコントロールします。
外国株式口	<ul style="list-style-type: none"> 地域別配分は米国・欧州のオーバーウェイトを維持する方針です。業種配分は、情報技術など成長性の高い業種のオーバーウェイトを維持しますが、その他の業種についてはそれぞれの業界動向、リスク要因、バリュエーションを勘案し、機動的にコントロールします。銘柄選択については、中長期の成長性だけでなく、短期的な業績回復といった個別要因による投資アイデアにも積極的に取り組みます。

注)アクティブファンド(短期資金口を除く)を記載しています。

2023年度第4四半期 運用概況 — 総合口 —

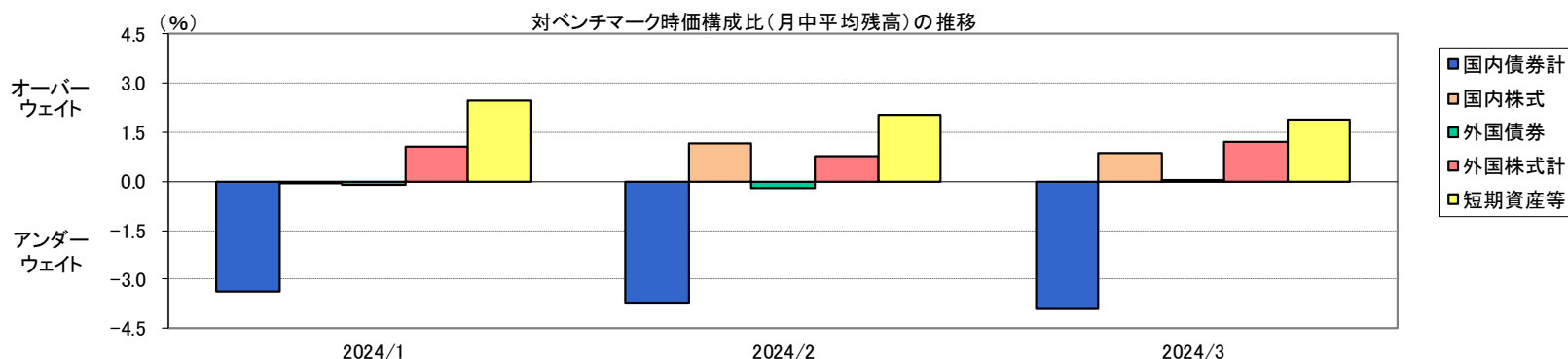
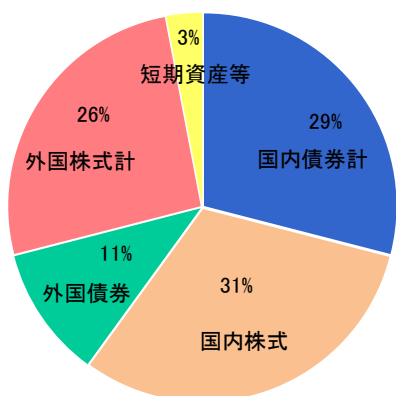
1. ユニット価格の推移



伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				2023年度 単月伸び率			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	年度累計	1月	2月	3月
	2.89	1.64	4.09	▲ 1.69	▲ 3.16	▲ 0.72	▲ 0.24	5.34	9.88	▲ 0.54	2.80	10.71	24.38	3.62	4.17	2.57

2. 投資行動

2023年度基本ポートフォリオ



1Q	国内債券・国内株式のアンダーウェイト、外国株式のオーバーウェイトを維持した一方、期末にかけて外国債券のアンダーウェイト方針を中立としました。	2Q	国内株式・国内債券をアンダーウェイト、外国株式をオーバーウェイトとしたポジションを維持しました。
3Q	国内株式・国内債券をアンダーウェイト、外国株式をオーバーウェイトとしたポジションを維持しました。	4Q	国内債券のアンダーウェイト、外国株式のオーバーウェイトを維持した一方、国内株式のアンダーウェイト方針を中立としました。

3. パフォーマンス要因分析

(単位:%)

四半期	ファンド		ベンチマーク		超過収益	超過収益の要因分析		
	構成比	収益率	構成比	収益率		資産配分	個別資産	複合効果
国内債券	21.6	▲ 0.40	24.5	▲ 0.51	0.12	0.32	0.03	▲ 0.00
為替ヘッジ外債	3.2	▲ 2.11	3.9	▲ 1.90	▲ 0.21	0.10	▲ 0.01	0.00
国内債券計	24.8	▲ 0.59	28.4	▲ 0.70	0.11	0.43	0.02	0.00
国内株式	31.9	19.41	31.3	18.14	1.27	0.03	0.36	0.02
外国債券	10.8	5.05	10.9	5.48	▲ 0.44	0.01	▲ 0.05	0.00
外国株式	26.3	16.51	24.4	16.87	▲ 0.36	0.12	▲ 0.08	▲ 0.01
アジア新興国株式	1.2	11.23	2.0	11.03	0.20	▲ 0.01	0.00	▲ 0.00
外国株式計	27.4	16.28	26.4	16.43	▲ 0.15	0.11	▲ 0.07	▲ 0.01
短期資産等	5.1	0.10	2.9	0.00	0.10	▲ 0.23	0.00	0.00
合計	100.0	10.71	100.0	10.10	0.62	0.34	0.27	0.01

(単位:%)

年度累計	ファンド		ベンチマーク		超過収益	超過収益の要因分析		
	構成比	収益率	構成比	収益率		資産配分	個別資産	複合効果
国内債券	23.0	▲ 1.75	24.8	▲ 2.20	0.45	0.56	0.14	▲ 0.01
為替ヘッジ外債	3.2	▲ 4.26	4.0	▲ 3.39	▲ 0.87	0.20	▲ 0.04	0.01
国内債券計	26.2	▲ 2.03	28.7	▲ 2.36	0.32	0.76	0.10	0.00
国内株式	31.0	45.41	31.2	41.34	4.07	▲ 0.01	1.10	0.00
外国債券	10.7	14.83	10.9	15.27	▲ 0.44	0.03	▲ 0.05	▲ 0.00
外国株式	26.0	40.80	24.1	42.92	▲ 2.13	0.31	▲ 0.43	▲ 0.04
アジア新興国株式	1.4	20.28	2.0	21.33	▲ 1.04	0.01	▲ 0.02	▲ 0.00
外国株式計	27.4	39.61	26.1	41.19	▲ 1.57	0.32	▲ 0.46	▲ 0.05
短期資産等	4.7	0.24	3.0	▲ 0.03	0.27	▲ 0.53	0.01	0.01
合計	100.0	24.38	100.0	23.14	1.24	0.57	0.71	▲ 0.04

注1) ファンドの収益率の合計欄には、ユニット価格伸び率を記載しています。

注2) 外貨建資産(外国債券や外国株式)の売買に伴う為替予約などの評価損益や実現損益が「短期資産等」の区分に計上されるため、「短期資産等」の収益率が大きく振れることがあります。

投資行動・実績(まとめ)

総合口 合計	四半期	資産配分	国内債券のアンダーウェイト等がプラスに寄与しました。
		個別資産	国内株式の銘柄選択等がプラスに寄与しました。
	年度	資産配分	国内債券のアンダーウェイト、外国株式のオーバーウェイト等がプラスに寄与しました。
		個別資産	国内株式の銘柄選択等がプラスに寄与しました。
国内債券	四半期	デュレーション短期化、物価連動国債への投資、事業債のオーバーウェイト、事業債の銘柄選択等がプラスに寄与しました。	
	年度	デュレーション短期化、イールドカーブ戦略、物価連動国債への投資、事業債のオーバーウェイト、事業債の銘柄選択等がプラスに寄与しました。	
為替ヘッジ外債	四半期	地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。	
	年度	米国のデュレーション長期化や、地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。	
国内株式	四半期	業種配分効果がマイナスに影響した一方で、化学を中心に銘柄選択効果がプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。	
	年度	業種配分効果がマイナスに影響した一方で、電気機器や化学を中心に銘柄選択効果がプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。	
外国債券	四半期	地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。	
	年度	通貨配分における中国元の非保有等がプラスに寄与した一方、米国のデュレーション長期化や、地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。	
外国株式	四半期	情報技術のオーバーウェイト等により業種配分効果がプラスに寄与した一方で、銘柄選択効果がマイナスに影響し、ベンチマークを下回りました。	
	年度	情報技術のオーバーウェイト等により業種配分効果がプラスに寄与した一方で、銘柄選択効果がマイナスに影響し、ベンチマークを下回りました。	
アジア新興国株式	四半期	国別配分は概ね中立に寄与、銘柄選択効果は台湾がプラスに寄与し、全体ではベンチマークを上回りました。	
	年度	国別配分は概ね中立に寄与、銘柄選択効果はマイナスに影響し、全体ではベンチマークを下回りました。	

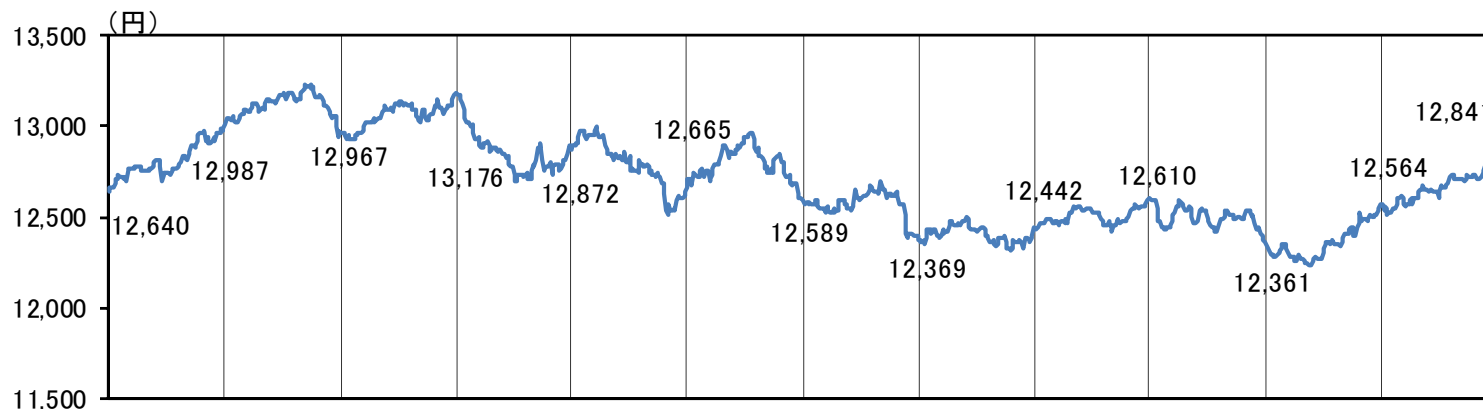
注) 短期資産等を除いて記載しています。

2023年度第4四半期 運用概況 — 第2総合口 —

第2総合口（高度リスク分散・安定型バランスファンド）

中長期的に年率3%の安定的な収益の確保を目指します。
(ダウンサイドリスク抑制戦略つき)

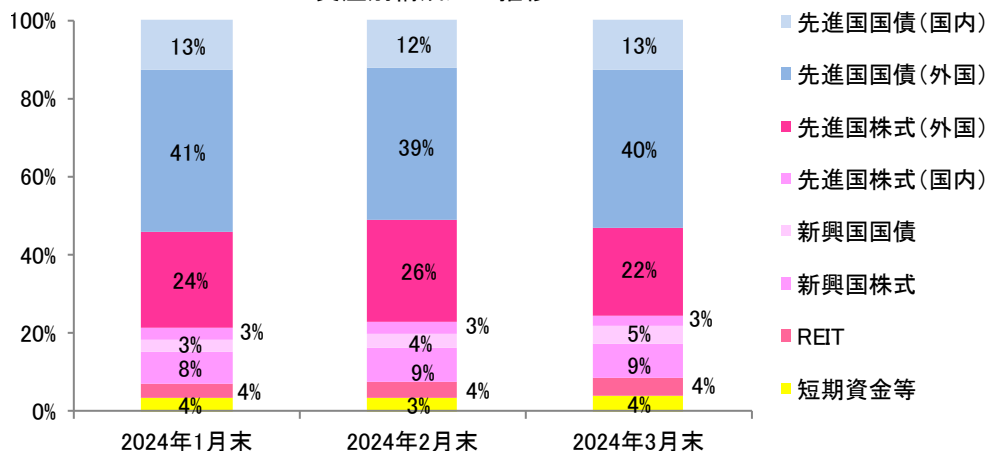
1. ユニット価格の推移



伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				年度累計	2023年度 単月伸び率		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		1月	2月	3月
	2.75	▲ 0.15	1.61	▲ 2.31	▲ 1.61	▲ 0.60	▲ 1.75	0.59	1.35	▲ 1.97	1.64	2.20	3.21	0.72	0.40	1.06

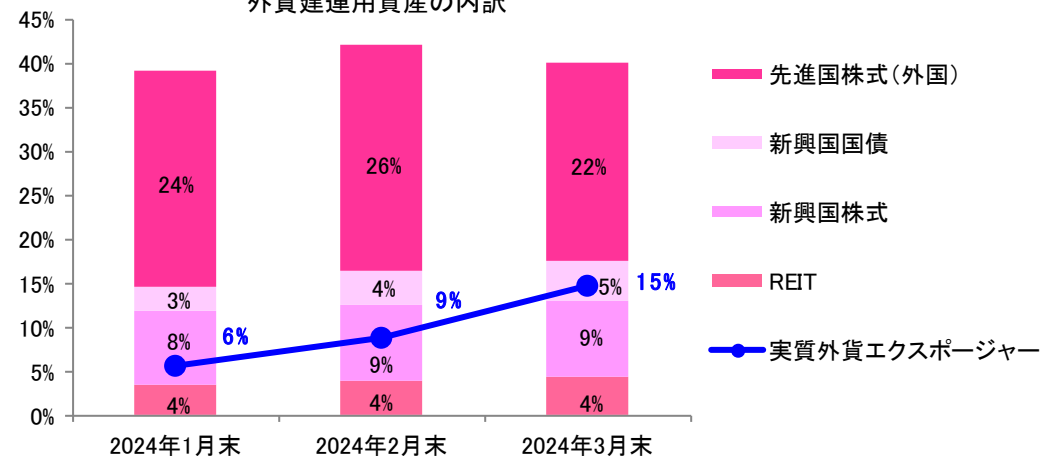
2. 投資行動

資産別構成比の推移



注) 第2総合口においては一部先物を活用しており、先物は想定元本を含めて構成比を算出しています。

外貨建運用資産の内訳



注1) 新興国債、新興国株式、REITについては、私募投資信託で運用を行っており、一部に円貨建資産を含みます。
注2) 先進国債(外国)は、先物を利用し、為替リスクをとらない運用を行っているため、上記のグラフには含めておりません。
注3) 実質外貨エクスポージャーは、ファンド全体の時価残高に対する割合を表しています。

3. パフォーマンス要因分析

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
第2総合ロユニット価格伸び率	0.68	▲0.61	1.28	1.35	▲0.44	▲0.14	▲1.41	▲1.97	▲0.91	1.09	1.46	1.64	0.72	0.40	1.06	2.20	3.21
戦略別寄与度																	
主戦略	0.70	▲0.45	1.03	1.28	▲0.33	0.01	▲1.37	▲1.69	▲1.31	2.14	1.55	2.36	0.73	0.40	1.06	2.21	4.16
ダウンサイドリスク抑制戦略	▲0.02	▲0.16	0.25	0.07	▲0.10	▲0.15	▲0.04	▲0.29	0.41	▲1.05	▲0.08	▲0.72	▲0.01	—	0.00	▲0.01	▲0.95

注1) ダウンサイドリスク抑制戦略は、測定期間毎に、ユニット価格伸び率から主戦略(リスク要因分散戦略、低リスク・高インカム運用戦略)の効果を差し引いて算出しております。

注2) 複数期間の累積寄与度を求める際に発生するリンク誤差(複利効果)を各効果に按分して算出しております。

4. 資産別収益率(ダウンサイドリスク抑制戦略を除く)

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
資産別収益率(ダウンサイドリスク抑制戦略を除く)																	
先進国国債	0.08	▲0.62	▲0.52	▲1.06	▲0.46	0.11	▲1.32	▲1.67	▲0.84	1.74	1.51	2.41	▲0.43	▲0.95	0.23	▲1.16	▲1.52
先進国株式	4.87	▲0.73	6.83	11.21	▲0.85	1.04	0.04	0.21	0.11	2.62	▲1.66	1.03	6.43	4.03	3.73	14.85	29.32
新興国国債	1.52	2.86	4.60	9.23	▲1.82	2.27	▲1.72	▲1.32	▲1.60	4.66	1.19	4.22	1.78	1.48	1.94	5.29	18.28
新興国株式	2.15	3.81	4.63	10.96	0.91	0.01	1.04	1.97	▲2.88	3.42	0.21	0.65	3.36	6.10	1.37	11.16	26.59
REIT	1.59	1.17	5.01	7.93	▲0.22	0.90	▲5.11	▲4.47	▲4.81	6.37	4.78	6.10	▲0.75	0.20	4.10	3.52	13.25
(参考)インデックス伸び率																	
FTSE - WGBI (日本含む・円ヘッジ・円ベース)	▲0.09	▲0.93	▲0.75	▲1.76	▲0.77	▲0.65	▲2.40	▲3.79	▲1.10	2.64	2.52	4.07	▲0.84	▲1.21	0.28	▲1.77	▲3.37
MSCI World Index (円ベース)	4.16	1.66	9.75	16.21	1.63	0.06	▲1.89	▲0.23	▲1.43	6.82	0.08	5.37	4.95	6.77	4.43	17.02	42.96

注1) 資産別収益率は、ダウンサイドリスク抑制戦略の効果を除いて算出しております。また、株式については、現物の収益率を算出しております。

注2) FTSE-WGBI: FTSE-World Government Bond Index

注3) MSCI World Indexは、先進国株式全体の動きを表す株価指数。

5. リスクの推移

(単位:%)

	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
リスク値	3.69	3.68	3.75	3.76	3.76	3.84	3.83	3.77	3.86	3.89	3.75	3.75

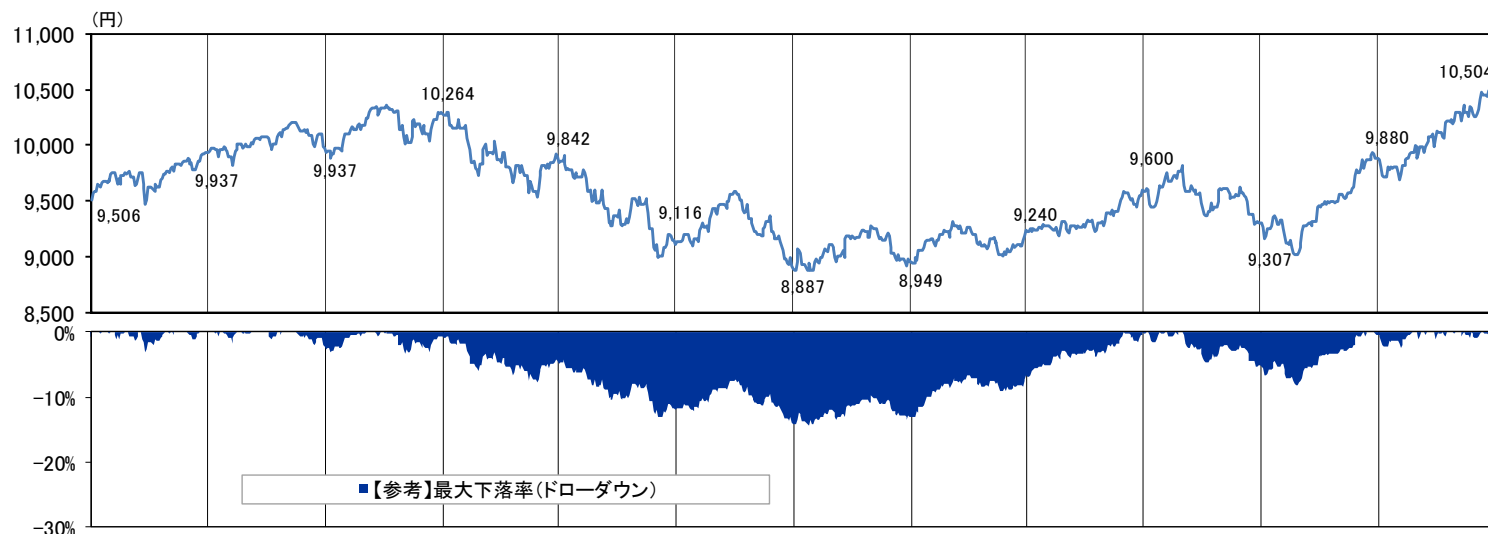
注) リスク値には、直近3年分の収益率の標準偏差(月次ベース・年率換算)を掲載しております。

2023年度第4四半期 運用概況 — 第3総合口 —

第3総合口（複利リターン追求型バランスファンド）

ポートフォリオの大幅なマイナスリターンを抑制すると同時に、大幅なプラスリターンの獲得を追求することで、中長期的なリターン（複利リターン）の最大化を目指します。

1. ユニット価格の推移



伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				年度累計
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
	4.53	0.00	3.29	▲ 4.11	▲ 7.38	▲ 2.51	0.70	3.25	3.90	▲ 3.05	6.16	6.32	13.68

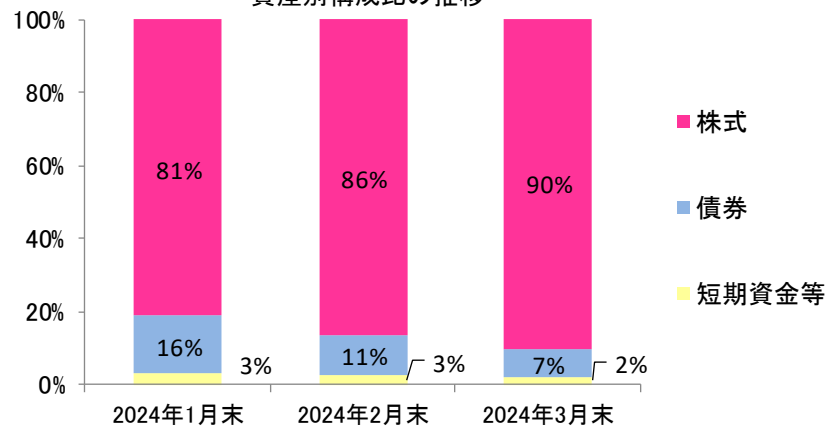
2023年度 単月伸び率		
1月	2月	3月
0.03	3.40	2.79

注)ドローダウンとは、評価時点から過去1年間のユニット価格最高値からみた下落率を表します。計算式は以下のとおりです。

$$\text{ドローダウン} = \frac{(\text{評価時点のユニット価格} - \text{過去1年間のユニット価格最高値})}{\text{過去1年間のユニット価格最高値}}$$

2. 投資行動

資産別構成比の推移



3. パフォーマンス要因分析

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
第3総合口ユニット価格伸び率	0.89	▲ 0.46	3.46	3.90	2.29	▲ 2.21	▲ 3.08	▲ 3.05	▲ 2.44	4.65	3.98	6.16	0.03	3.40	2.79	6.32	13.68
資産別寄与度																	
株式	0.81	▲ 0.08	3.84	4.57	2.38	▲ 2.22	▲ 2.43	▲ 2.30	▲ 2.07	4.09	3.50	5.48	0.08	3.52	2.77	6.46	14.54
債券	0.06	▲ 0.45	▲ 0.36	▲ 0.75	▲ 0.10	0.02	▲ 0.66	▲ 0.75	▲ 0.32	0.62	0.64	0.93	▲ 0.10	▲ 0.18	0.10	▲ 0.18	▲ 0.71
その他	0.02	0.07	▲ 0.01	0.07	0.01	▲ 0.01	0.00	0.00	▲ 0.04	▲ 0.06	▲ 0.16	▲ 0.26	0.05	0.06	▲ 0.07	0.03	▲ 0.15

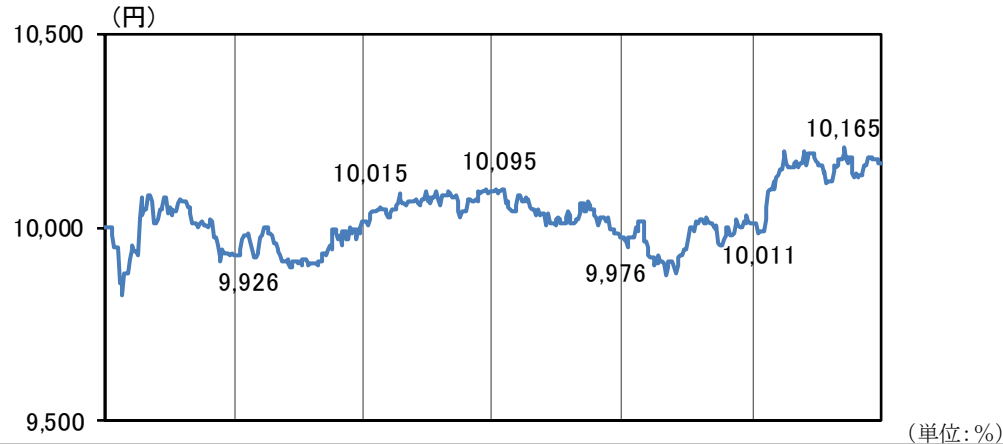
注) 複数期間の累積寄与度を求める際に発生するリンク誤差(複利効果)を各効果に按分して算出しております。

2023年度第4四半期 運用概況 — 総合口戦略的資産配分型 —

総合口戦略的資産配分型

運用者の投資ノウハウを定量化した複数の戦略を組み合わせることで、中長期的に年率4%の安定的な収益の確保を目指します。

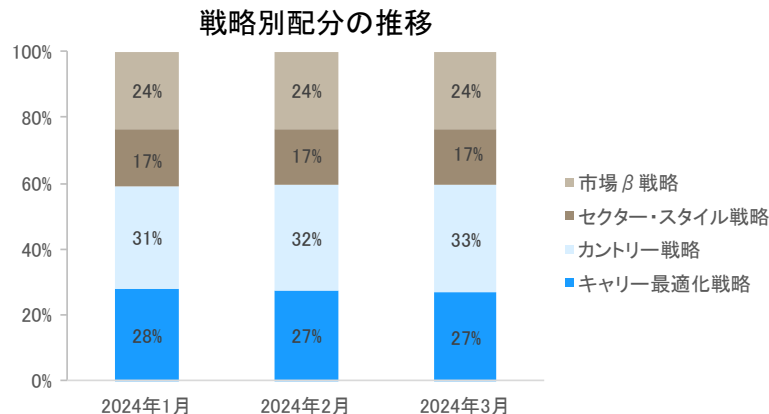
1. ユニット価格の推移



（単位：%）

1月	2月	3月
1.62	▲ 0.14	0.06

2. 投資行動



注1) アセットマネジメントOne社からの提供データに基づいて作成しております。
 注2) 戦略別配分はすべて総合口戦略的資産配分型が投資対象とする投資信託「マルチストラテジー型アセットアロケーションマザーファンド」の数値です。

資産別構成比 (単位：%)

	1月末	2月末	3月末
国内株式	7.8	7.4	8.0
外国株式	—	—	—
国内債券	41.0	40.8	38.4
外国債券	0.0	0.0	0.0
キャッシュ等	51.1	51.9	53.6

注1) アセットマネジメントOne社からの提供データに基づいて作成しております。
 注2) 同資産区分内にて買建(+)と売建(-)を合算した構成比を表示しています。
 注3) 資産別構成比はすべて総合口戦略的資産配分型が投資対象とする投資信託「マルチストラテジー型アセットアロケーションマザーファンド」の数値です。
 注4) 数値は概算値です。

3. 戦略別寄与度

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
投資基準価額伸び率	0.51	0.28	0.05	0.85	▲ 0.65	0.04	▲ 0.60	▲ 1.21	▲ 1.01	1.47	▲ 0.06	0.38	1.68	▲ 0.13	0.07	1.61	1.62
戦略別寄与度																	
ベース戦略	0.68	0.41	0.06	1.14	▲ 0.54	0.23	▲ 0.49	▲ 0.80	▲ 0.89	1.70	0.04	0.86	1.80	▲ 0.03	0.18	1.95	3.14
キャリー最適化戦略	0.33	0.11	0.37	0.82	▲ 0.28	▲ 0.14	▲ 0.45	▲ 0.87	▲ 1.17	1.50	0.29	0.61	0.50	0.42	0.28	1.20	1.74
カントリー戦略	0.26	0.16	0.02	0.44	▲ 0.28	0.50	0.14	0.36	0.01	▲ 0.10	▲ 0.17	▲ 0.25	1.00	▲ 0.15	0.05	0.92	1.47
セクター・スタイル戦略	0.12	0.17	▲ 0.31	▲ 0.02	0.03	0.05	▲ 0.14	▲ 0.06	0.34	0.37	▲ 0.08	0.64	0.29	▲ 0.04	▲ 0.15	0.09	0.66
市場β戦略	▲ 0.04	▲ 0.03	▲ 0.03	▲ 0.10	▲ 0.01	▲ 0.18	▲ 0.05	▲ 0.24	▲ 0.06	▲ 0.07	—	▲ 0.14	—	▲ 0.26	▲ 0.00	▲ 0.26	▲ 0.73
ダウンサイドリスク抑制戦略	—	—	—	—	—	▲ 0.01	▲ 0.00	▲ 0.01	0.09	▲ 0.08	—	0.01	—	—	—	—	▲ 0.00
その他(コスト複合効果等)	▲ 0.16	▲ 0.13	▲ 0.01	▲ 0.29	▲ 0.12	▲ 0.18	▲ 0.10	▲ 0.39	▲ 0.21	▲ 0.15	▲ 0.11	▲ 0.49	▲ 0.11	▲ 0.11	▲ 0.11	▲ 0.33	▲ 1.51

注1) アセットマネジメントOne社からの提供データに基づいて作成しております。

注2) 各戦略毎の寄与度は概算値です。「その他(コスト複合効果等)」には、投資基準価額伸び率と概算値による伸び率の差異を含みます。

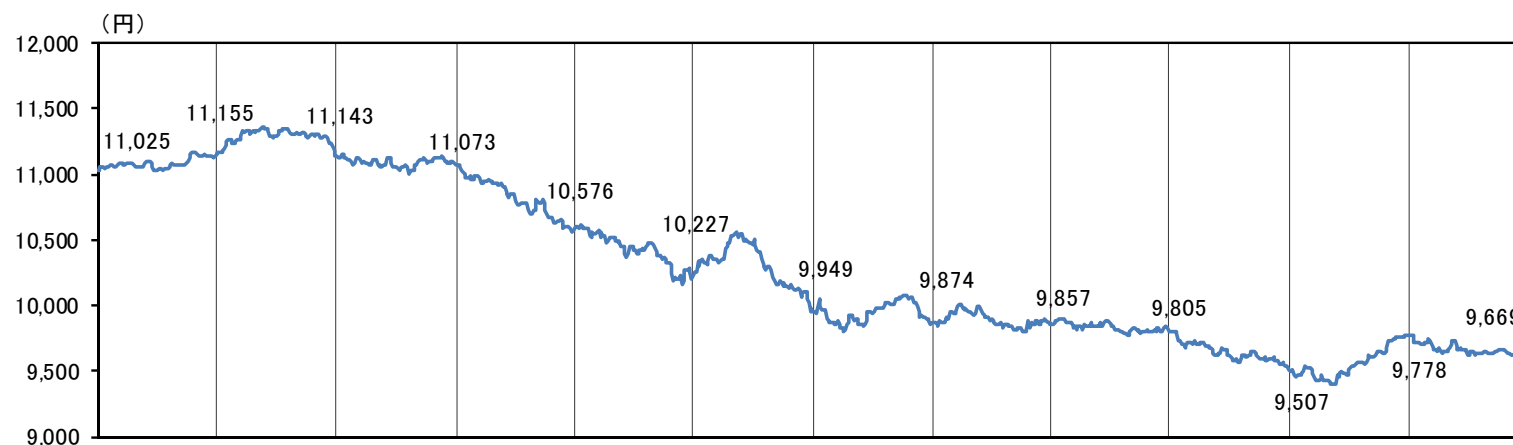
注3) 寄与度はすべて総合口戦略的資産配分型が投資対象とする投資信託「マルチストラテジー型アセットアロケーションマザーファンド」の数値です。

2023年度第4四半期 運用概況 — 債券総合口 —

債券総合口（高インカム債券ファンド（為替ヘッジ））

世界の投資適格債券(為替ヘッジ)への分散投資により、中長期的に国内短期金利+2.0~2.5%の安定的な収益の確保を目指します。

1. ユニット価格の推移



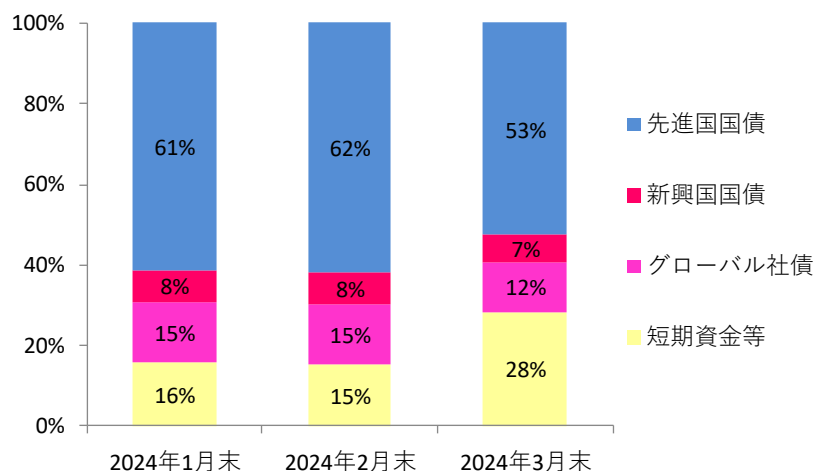
(単位:%)

(単位:%)

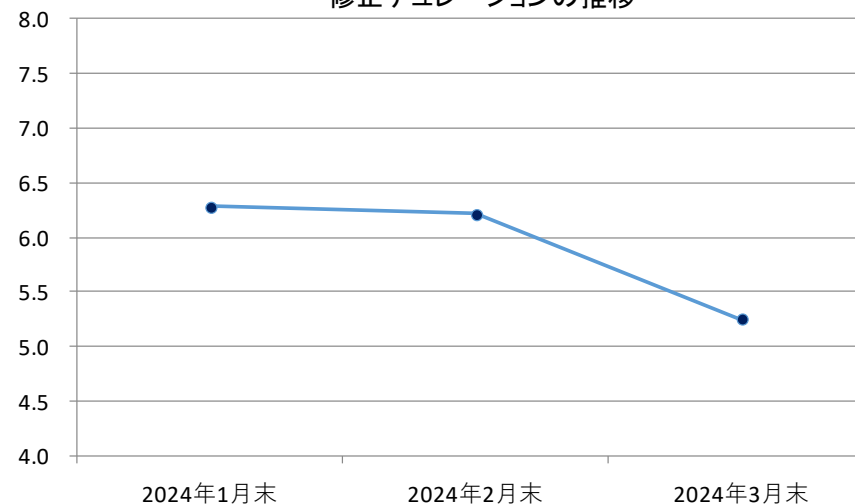
伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				2023年度 単月伸び率			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	年度累計	1月	2月	3月
	1.18	▲ 0.11	▲ 0.63	▲ 4.49	▲ 3.30	▲ 2.72	▲ 0.75	▲ 0.17	▲ 0.53	▲ 3.04	2.85	▲ 1.11	▲ 1.91	▲ 1.08	▲ 0.33	0.30

2. 投資行動

資産別構成比の推移



修正デュレーションの推移



注) 各資産の修正デュレーションを、ウェイト(ダウンサイドリスク抑制戦略含む)で加重平均して算出しております。

3. パフォーマンス要因分析

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
債券総合ロユニット価格伸び率	▲ 0.18	▲ 0.42	0.07	▲ 0.53	▲ 1.31	▲ 0.57	▲ 1.20	▲ 3.04	▲ 1.01	2.26	1.60	2.85	▲ 1.08	▲ 0.33	0.30	▲ 1.11	▲ 1.91
戦略別寄与度																	
基本戦略効果	▲ 0.01	▲ 0.21	▲ 0.08	▲ 0.30	▲ 0.71	▲ 0.37	▲ 1.68	▲ 2.72	▲ 1.34	2.63	1.76	3.04	▲ 1.03	▲ 0.33	0.49	▲ 0.87	▲ 0.94
ダウンサイドリスク抑制効果	▲ 0.17	▲ 0.21	0.15	▲ 0.23	▲ 0.60	▲ 0.20	0.48	▲ 0.31	0.33	▲ 0.36	▲ 0.16	▲ 0.19	▲ 0.05	—	▲ 0.19	▲ 0.24	▲ 0.97
金利上昇シグナル	▲ 0.17	▲ 0.21	0.15	▲ 0.23	▲ 0.60	▲ 0.20	0.48	▲ 0.31	0.33	▲ 0.34	▲ 0.16	▲ 0.17	▲ 0.05	—	▲ 0.19	▲ 0.24	▲ 0.94
信用リスク対応シグナル	—	—	—	—	—	—	—	—	0.00	▲ 0.02	—	▲ 0.02	—	—	—	—	▲ 0.02
(参考)インデックス伸び率																	
NOMURA-BPI 総合	0.23	▲ 0.09	0.27	0.41	▲ 1.56	▲ 0.72	▲ 0.72	▲ 2.97	▲ 1.59	2.11	0.41	0.89	▲ 0.72	0.32	▲ 0.11	▲ 0.51	▲ 2.20
FTSE - WGBI (日本含む・円ヘッジ・円ベース)	▲ 0.09	▲ 0.93	▲ 0.75	▲ 1.76	▲ 0.77	▲ 0.65	▲ 2.40	▲ 3.79	▲ 1.10	2.64	2.52	4.07	▲ 0.84	▲ 1.21	0.28	▲ 1.77	▲ 3.37
ブルームバーグ・グローバル総合インデックス(日本含む・円ヘッジ・円ベース)	0.03	▲ 0.88	▲ 0.56	▲ 1.41	▲ 0.38	▲ 0.67	▲ 2.23	▲ 3.25	▲ 1.21	2.86	2.54	4.20	▲ 0.66	▲ 1.20	0.47	▲ 1.39	▲ 1.99

注1) 複数期間の累積寄与度を求める際に発生するリンク誤差(複利効果)を各効果に按分して算出しております。

注2) FTSE-WGBI: FTSE-World Government Bond Index

注3) ブルームバーグ・グローバル総合インデックスは、世界の債券市場を的確に表すことを目的とした、国債、社債等を含んだ総合型の債券インデックスです。

4. 資産別収益率

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
資産別収益率																	
先進国国債(コア部分)	▲ 0.17	0.16	▲ 0.03	▲ 0.04	▲ 1.10	▲ 0.27	▲ 1.51	▲ 2.85	▲ 1.39	2.66	1.67	2.92	▲ 1.09	▲ 0.03	0.48	▲ 0.64	▲ 0.70
新興国国債(コア部分)	1.09	▲ 2.04	0.26	▲ 0.71	▲ 0.35	▲ 1.94	▲ 4.99	▲ 7.16	▲ 2.88	5.69	4.33	7.09	▲ 2.70	▲ 1.02	1.10	▲ 2.63	▲ 3.87
グローバル社債(コア部分)	0.14	▲ 1.13	▲ 0.46	▲ 1.45	0.29	▲ 1.01	▲ 2.63	▲ 3.33	▲ 1.29	4.41	3.27	6.44	▲ 1.25	▲ 1.34	0.94	▲ 1.66	▲ 0.28

5. リスクの推移

(単位:%)

	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
リスク値	4.00	3.95	3.95	3.91	3.91	3.90	3.90	4.17	4.32	4.34	4.30	4.32

注) リスク値には、直近3年分の収益率の標準偏差(月次ベース・年率換算)を掲載しております。

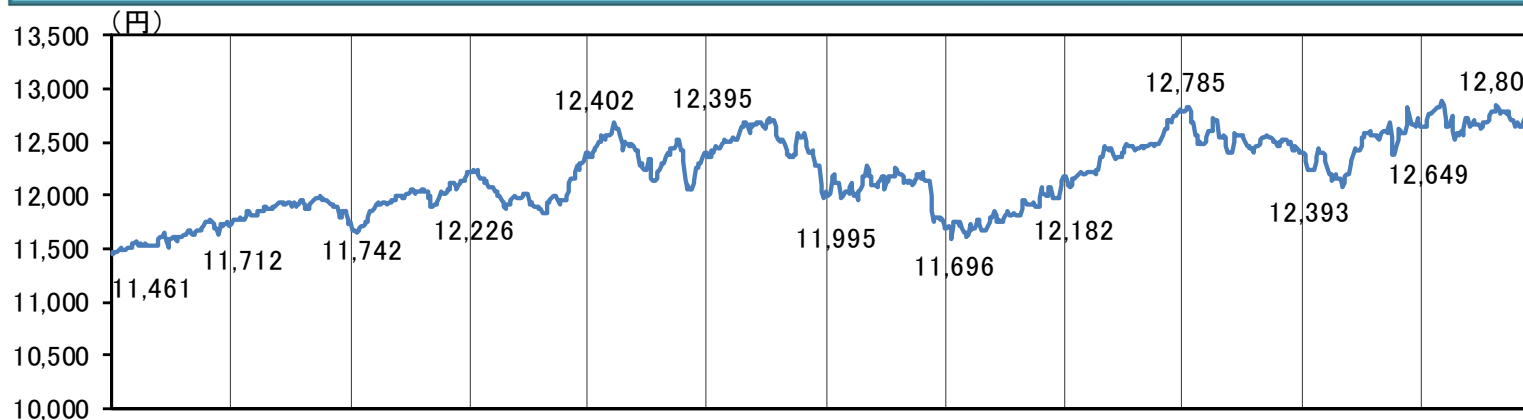
2023年度第4四半期 運用概況 — 年金債務対応総合口 —

年金債務対応総合口

年金財政上の運用目標(予定利率)を満たしつつ、企業会計上の年金資産と年金債務の差額(サープラス)の変動を抑制することを目指します。

※当社が設定する標準的な企業年金の負債属性を前提としています。

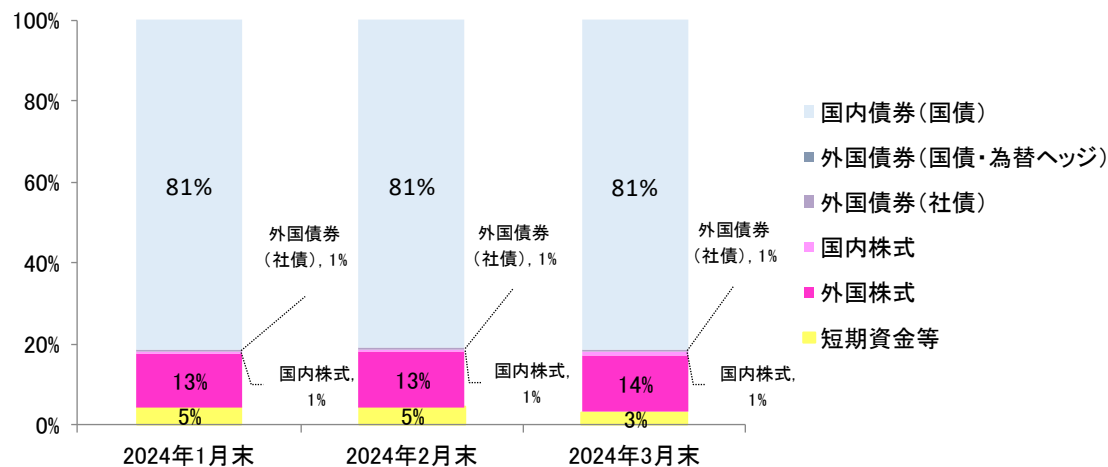
1. ユニット価格の推移



伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				2023年度 単月伸び率			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	年度累計	1月	2月	3月
	2.19	0.26	4.12	1.44	▲ 0.06	▲ 3.23	▲ 2.49	4.16	4.95	▲ 3.07	2.07	1.20	5.08	▲ 0.66	1.63	0.23

2. 投資行動

資産別構成比の推移



3. パフォーマンス要因分析

(単位:%)

	4月	5月	6月	1Q	7月	8月	9月	2Q	10月	11月	12月	3Q	1月	2月	3月	4Q	累計
年金債務対応総合ロユニット価格伸び率	1.37	0.83	2.67	4.95	▲ 1.96	0.09	▲ 1.21	▲ 3.07	▲ 2.60	4.24	0.52	2.07	▲ 0.66	1.63	0.23	1.20	5.08
資産別寄与度																	
安全性資産	0.40	▲ 0.15	0.23	0.47	▲ 1.61	▲ 0.97	▲ 0.64	▲ 3.18	▲ 2.21	2.74	0.47	0.88	▲ 1.70	1.04	▲ 0.27	▲ 0.95	▲ 2.83
リスク性資産	0.97	0.99	2.45	4.48	▲ 0.35	1.06	▲ 0.57	0.11	▲ 0.39	1.50	0.06	1.18	1.04	0.59	0.50	2.15	7.92

年金債務の変化率 注2)	1.01	▲ 0.05	0.07	1.03	▲ 2.40	▲ 1.04	▲ 1.49	▲ 4.85	▲ 2.67	3.87	0.45	1.56	▲ 1.34	0.88	注4) ▲ 0.34	注4) ▲ 0.81	注4) ▲ 3.16
サープラスの変化率 注3)	0.49	0.88	2.61	4.05	0.05	0.96	0.02	1.01	▲ 0.40	1.05	0.15	0.78	0.44	0.92	注4) 0.51	注4) 1.86	注4) 7.84

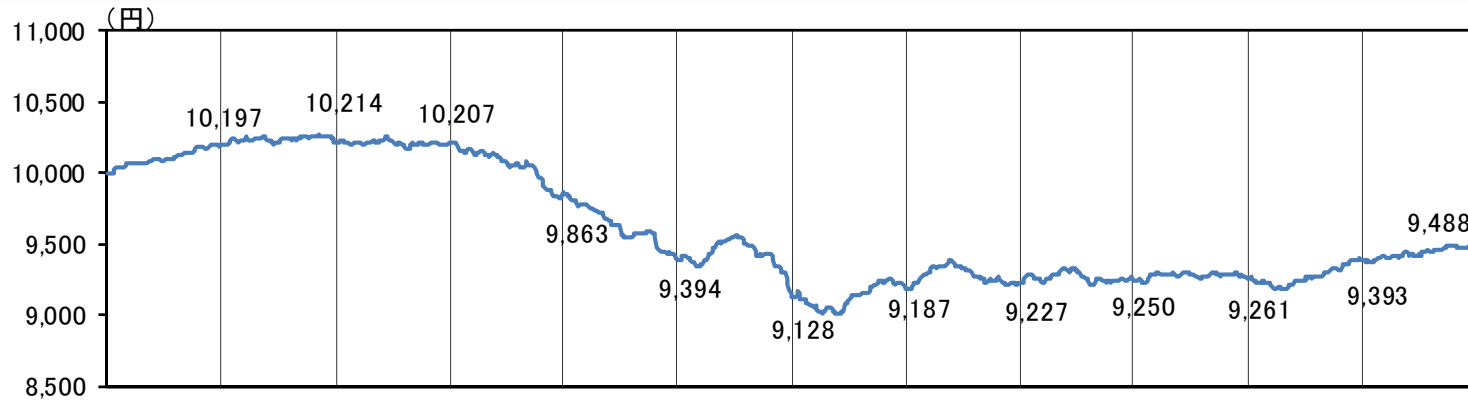
- 注1) 資産別寄与度の算出にあたり、国内債券(国債)、外国債券(国債・為替ヘッジ)を安全性資産に分類し、外国債券(社債)、国内株式、外国株式をリスク性資産に分類しています。左記の各資産に紐づかない効果や、複数期間の累積寄与度を求める際に発生するリンク誤差(複利効果)を各効果に按分して算出しています。
- 注2) 年金債務は、退職給付債務(PBO)を想定しています。年金債務の変化率は、当社が設定する標準的な企業年金の負債構造(デュレーション:14年程度)を前提に、金利変化による変動、およびインフレ水準に応じた変動を考慮し、当社にて推計しています。市場環境の変化による影響を捉えることを主眼としており、実際の年金運営上の設定(割引率の重要性基準等)とは異なる可能性がございます。
- 注3) サープラスとは、企業会計上の年金資産額と年金債務額の差額を指します。サープラスの変化率は、2017年4月初より年金資産額10,000、年金債務額11,000にて運用を開始したモデルケースを前提とし、測定期間のサープラス変化額を測定期始の年金資産額で除した値を掲載しています。
- 注4) 「年金債務の変化率」および「サープラスの変化率」における直近月、直近四半期、年度累計の数値は、2024年4月上旬時点で判明しているデータを元に算出しているため、速報値となります。

2023年度第4四半期 運用概況 — ヘッジ外債総合口I型 —

ヘッジ外債総合口I型（債券アンコンストレインド戦略）

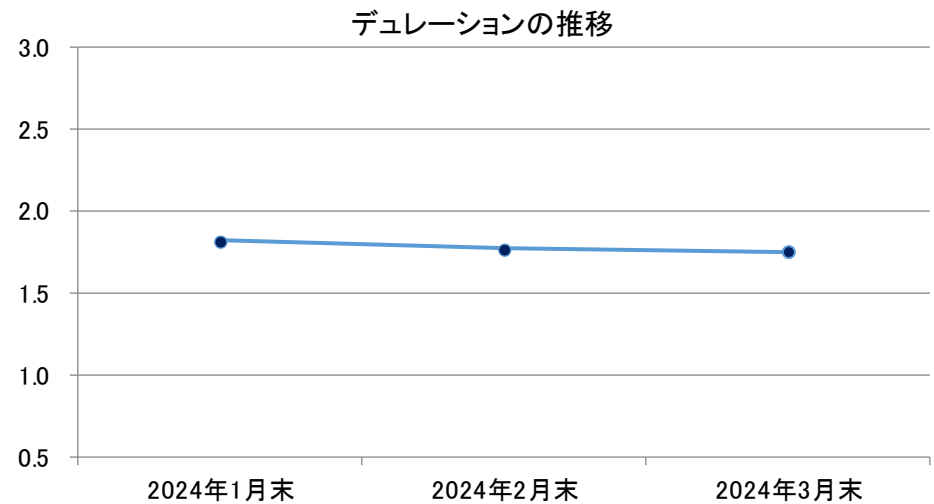
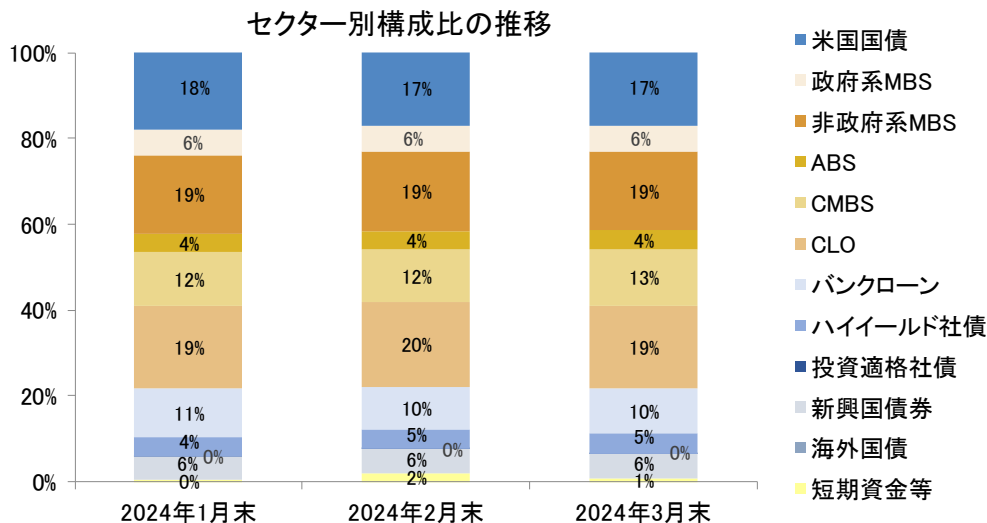
米国の主要な債券セクターを投資対象とし、中長期的に国内短期金利+2.0~2.5%（年率）のリターンを目指します。

1. ユニット価格の推移



伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				2023年度 単月伸び率			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	年度累計	1月	2月	3月
	1.97	0.17	▲ 0.07	▲ 3.37	▲ 4.76	▲ 2.83	0.65	0.44	0.25	0.12	1.43	1.01	2.83	0.31	0.40	0.30

2. 投資行動



注1)セクター別構成比の推移・デレーションの推移は、ヘッジ外債総合口I型が投資している外国投資信託の運用状況です。(出所:ダブルライン社)

注2)短期資金等には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

注3)債券先物を使用した場合、債券先物のセクター構成比はファンド全体の純資産額に占める債券先物損益を「米国国債」に含めて表示しています。

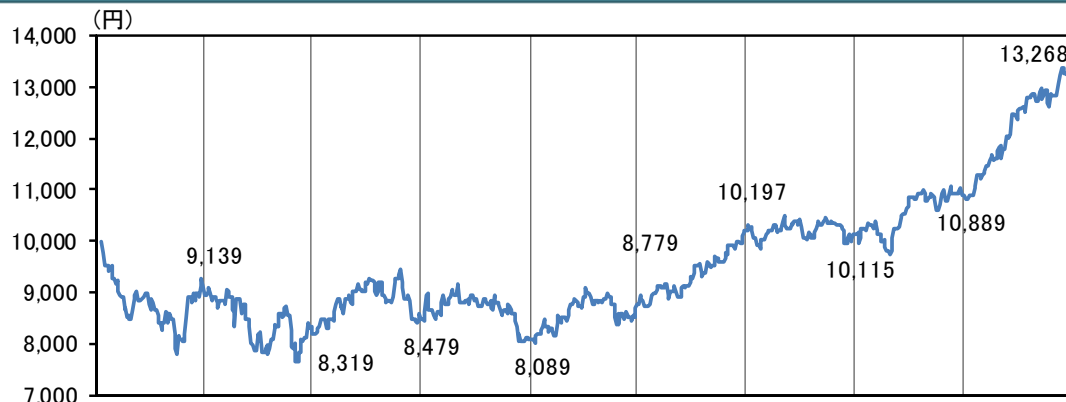
MEMO

2023年度第4四半期 運用概況 — グローバル株式総合口Ⅰ型 —

グローバル株式総合口Ⅰ型（グローバル・グロース株式戦略（含む日本））

グローバルの成長株式を投資対象とし、ベンチマークに対して超過収益の獲得を目指します。

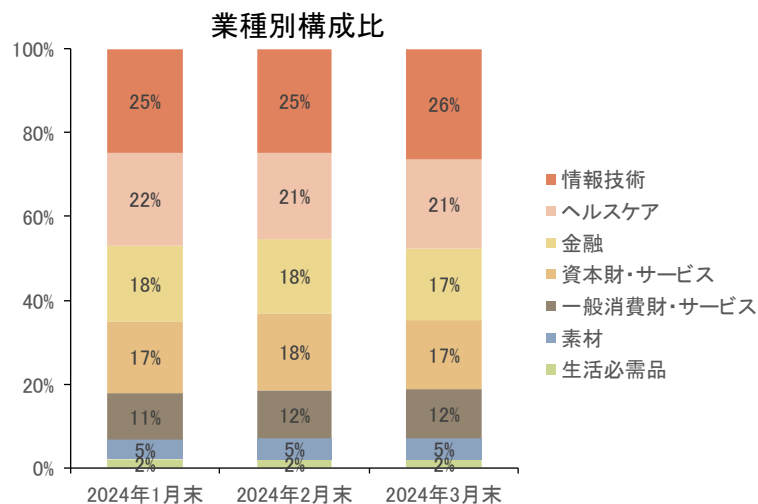
1. ユニット価格・ベンチマークの推移



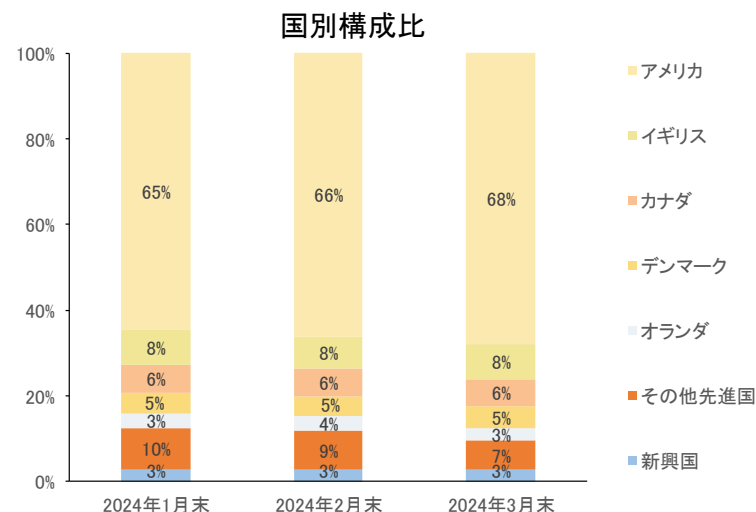
伸び率	2021年度		2022年度				2023年度				年度累計	2023年度 単月伸び率		
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1月		2月	3月	
ユニット価格	▲ 8.61	▲ 8.97	1.92	▲ 4.60	8.53	16.15	▲ 0.80	7.65	21.85	51.13	8.87	8.45	3.20	
ベンチマーク	▲ 1.45	▲ 5.45	▲ 0.60	0.16	8.37	15.49	▲ 0.16	5.00	16.28	40.79	4.32	6.82	4.35	
超過収益率	▲ 7.16	▲ 3.52	2.53	▲ 4.76	0.16	0.66	▲ 0.64	2.65	5.57	10.35	4.56	1.63	▲ 1.15	

注) 2021年度4Qは2022/1/4を起点に伸び率を算出。

2. 投資行動



注1) 業種別構成比は、GICSに準拠。
注2) WCM社からの提供データに基づいて作成しております。



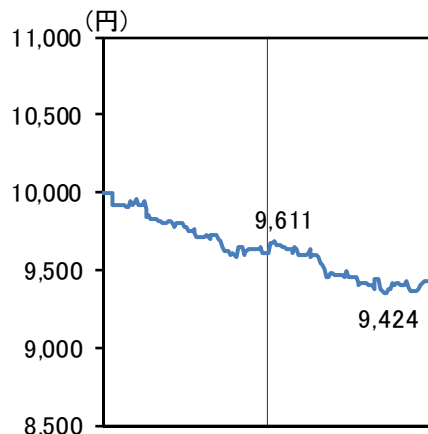
注1) 国別構成比は所在地域別で分類。
注2) WCM社からの提供データに基づいて作成しております。

2023年度第4四半期 運用概況 — マルチストラテジー総合口Ⅰ型 —

マルチストラテジー総合口Ⅰ型

複数のヘッジファンド運用戦略を活用することで安定的な収益の獲得をめざした運用を行い、中長期的に国内短期金利+7.0%(年率)のリターンを目指します。

1. ユニット価格の推移



(単位:%)

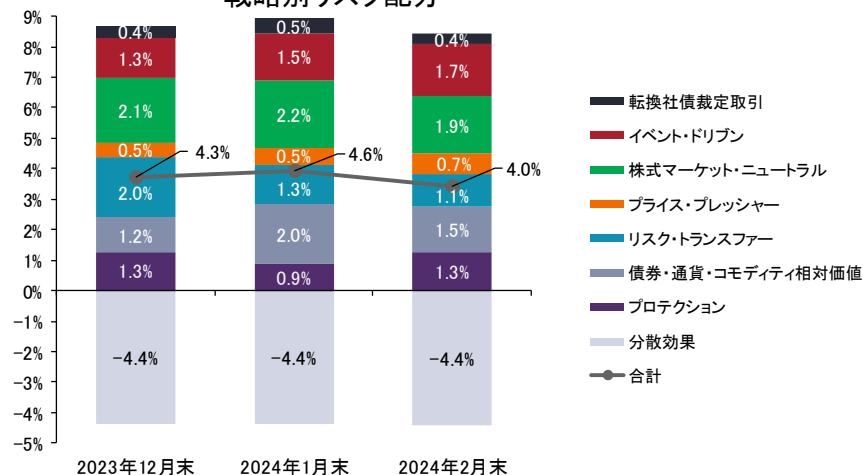
(単位:%)

伸び率	2023年度		
	3Q	4Q	年度累計
	▲ 3.89	▲ 1.95	▲ 5.76

2023年度 単月伸び率		
1月	2月	3月
▲ 0.78	▲ 1.59	0.43

2. 投資行動 (対象期間: 2023年12月1日~2024年2月29日 注1)

戦略別リスク配分



資産別エクスポージャー

(単位:%)

	12月末		1月末		2月末	
	グロス	ネット	グロス	ネット	グロス	ネット
株式	568.3%	13.3%	717.1%	▲1.1%	750.4%	4.5%
金利	88.3%	17.8%	58.8%	▲1.7%	81.6%	0.9%
クレジット	11.2%	1.8%	17.5%	▲6.2%	16.2%	▲5.5%
コモディティ	53.1%	4.1%	81.6%	5.9%	61.0%	2.1%
通貨	1.7%	1.7%	5.9%	5.9%	12.4%	12.1%

注1) ヘッジファンド投資の特性上、運用分析データの確定に日数を要するため、当報告書においてマルチストラテジー総合口Ⅰ型の投資行動は前四半期末から当四半期末の前月までの情報を掲載しております。

注2) 戦略別リスク配分、資産別エクスポージャーは、マルチストラテジー総合口Ⅰ型が投資している外国投資信託の運用状況です。(出所: ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・UK・リミテッド)

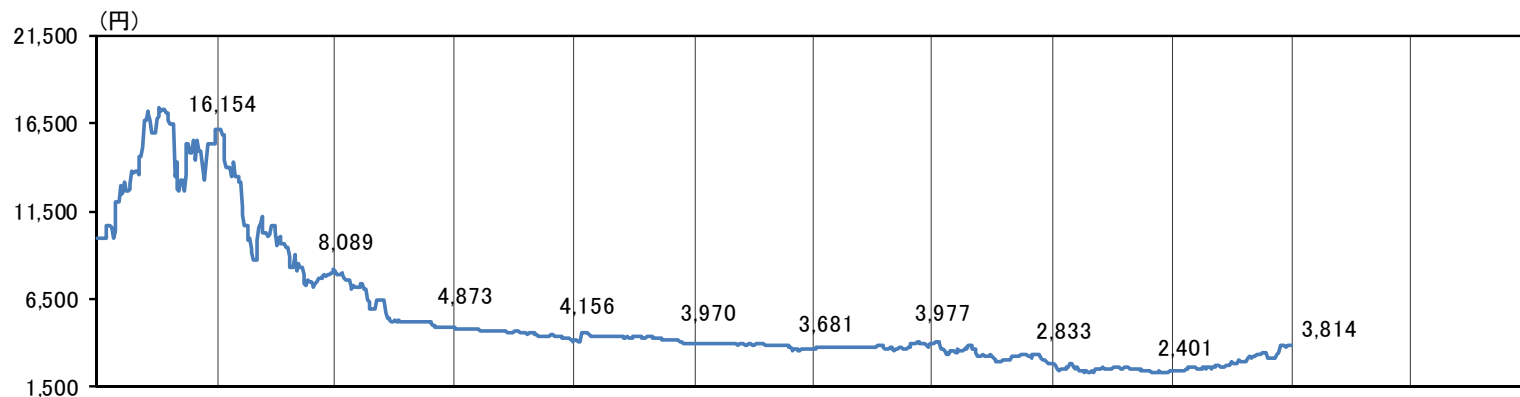
注3) 金利のエクスポージャーは米国10年国債換算、クレジットのエクスポージャーは額面ベース、通貨のエクスポージャーはアクティブ運用のポジションを示しています。

2023年度第4四半期 運用概況 — 指数連動型配当口(2021) —

指数連動型配当口(2021)

国内外の株式・債券先物取引等から構成される所定の指数(参照指数)に連動した収益を分配します。
一般勘定と組み合わせたフロアセットプランとして、10年間で年平均収益率1.25%以上の運用成果を目指します。

1. ユニット価格の推移

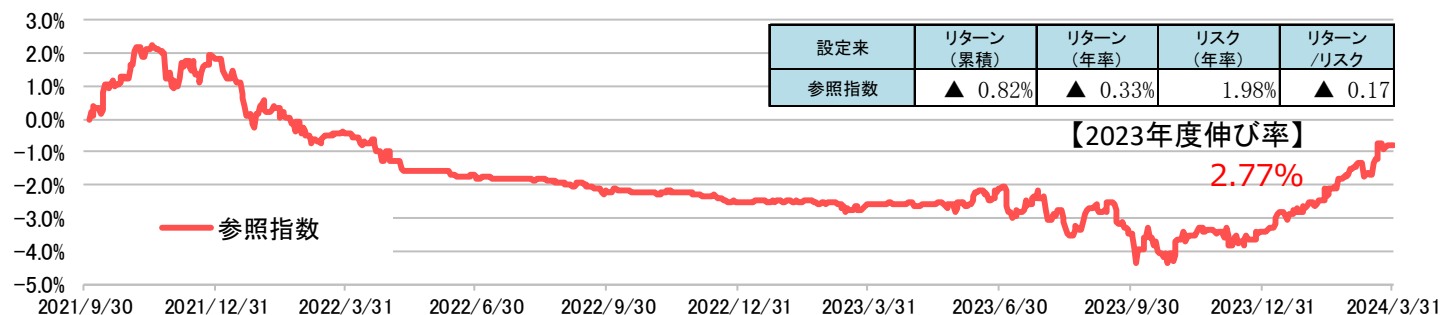


(単位:%)

(単位:%)

伸び率	2021年度				2022年度				2023年度				2023年度 単月伸び率			
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	年度累計	1月	2月	3月
	61.54	▲49.93	▲39.76	▲14.71	▲ 4.48	▲ 7.28	8.04	▲28.77	▲15.25	58.85			34.63	8.91	21.26	20.28

2. 参照指数の累積収益率の推移



3. 分配金

年度	分配金額(一口あたり)
2021年度	0円
2022年度	0円
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2026年度	
2027年度	
2028年度	
2029年度	
2030年度	

注1) リスクの推計は日次収益率の標準偏差を年率換算して算出しています。

注2) 上記グラフにおける年度伸び率は10月～9月の期間を1年度として表示しております(例:2021年度は2021年10月～2022年9月です)。

注3) 参照指数は、2021/10/4を起点としています。

注4) 本グラフにおける参照指数の累積収益率は運用開始日、基準日の参照指数を用いて計算しておりますが、分配金算出に使用する参照指数累積収益率は運用開始時2営業日、毎年9月末2営業日の参照指数の平均値を用いて算出いたします。

注1) 指数連動型配当口(2021)一口あたりの分配金額です。
注2) 上記表は10月～9月の期間を1年度として表示しております(例:2021年度は2021年10月～2022年9月です)。

2023年度第4四半期 運用概況 — 指数連動型配当口(2022) —

指数連動型配当口(2022)

国内外の株式・債券先物取引等から構成される所定の指数(参照指数)に連動した収益を分配します。
 一般勘定と組み合わせたフロアセットプランとして、10年間で年平均収益率1.25%以上の運用成果を目指します。

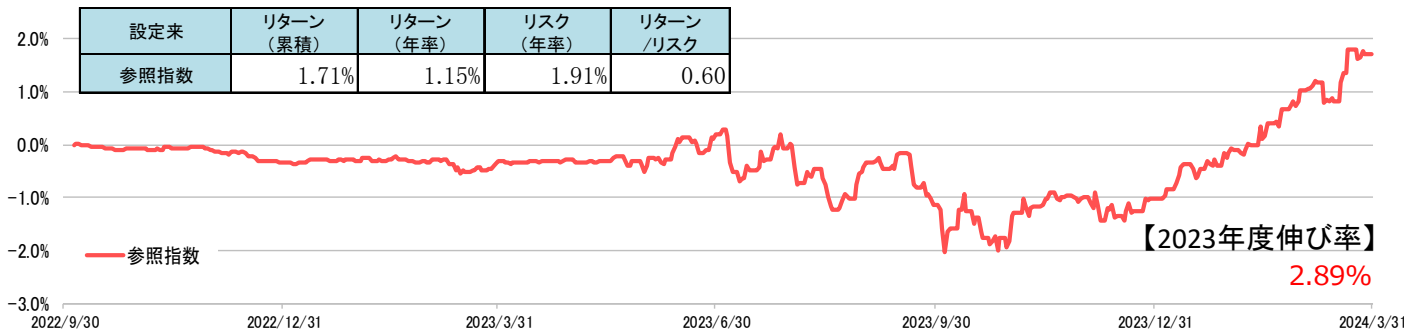
1. ユニット価格の推移



伸び率	2022年度				2023年度				年度累計
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	
	▲13.86	0.38	31.33	▲39.63	▲6.75	87.91			75.22

2023年度 単月伸び率		
1月	2月	3月
18.36	27.17	24.84

2. 参照指数の累積収益率の推移



注1) リスクの推計は日次収益率の標準偏差を年率換算して算出しています。
 注2) 上記グラフにおける年度伸び率は10月～9月の期間を1年度として表示しております(例:2022年度は2022年10月～2023年9月です)。
 注3) 参照指数は、2022/10/4を起点としています。
 注4) 本グラフにおける参照指数の累積収益率は運用開始日、基準日の参照指数を用いて計算しておりますが、分配金算出に使用する参照指数累積収益率は運用開始時2営業日、毎年9月末2営業日の参照指数の平均値を用いて算出いたします。

3. 分配金

	分配金額(一口あたり)
2022年度	0円
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2026年度	
2027年度	
2028年度	
2029年度	
2030年度	
2031年度	

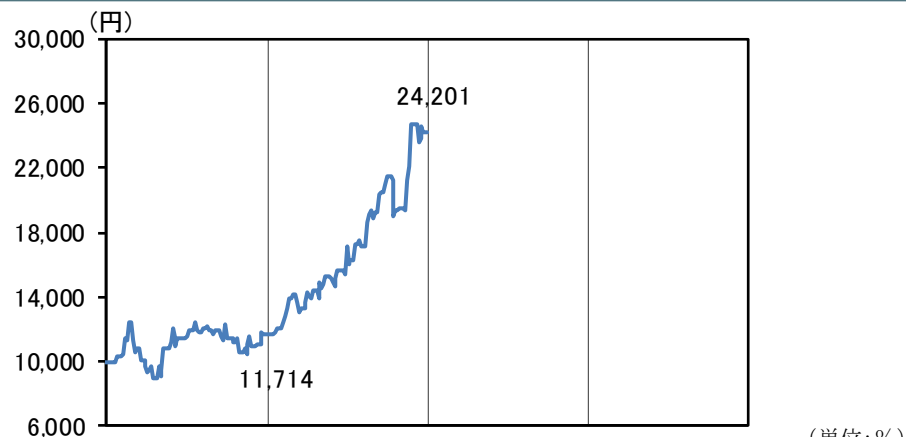
注1) 指数連動型配当口(2022)一口あたりの分配金額です。
 注2) 上記表は10月～9月の期間を1年度として表示しております(例:2022年度は2022年10月～2023年9月です)。

2023年度第4四半期 運用概況 — 指数連動型配当口(2023) —

指数連動型配当口(2023)

国内外の株式・債券先物取引等から構成される所定の指数(参照指数)に連動した収益を分配します。
 一般勘定と組み合わせたフロアセットプランとして、10年間で年平均収益率1.25%以上の運用成果を目指します。

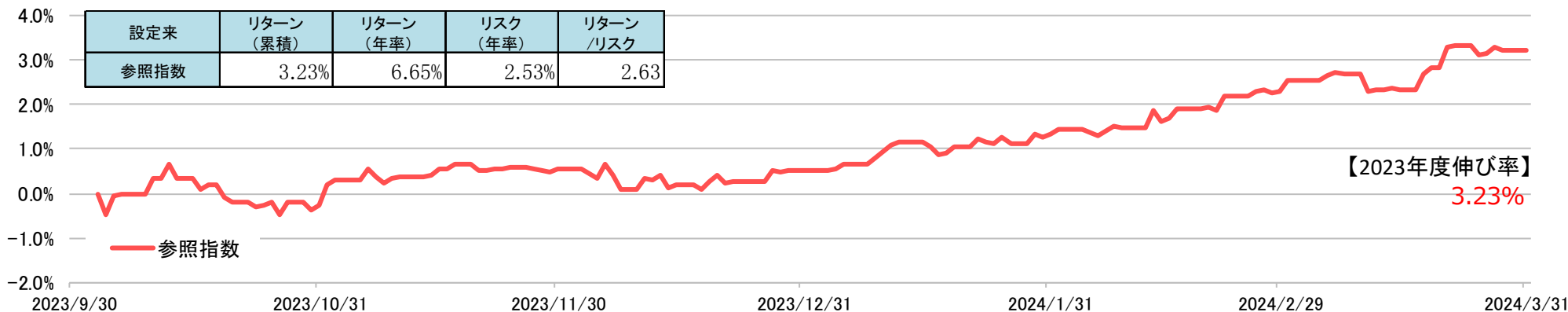
1. ユニット価格の推移



伸び率	2023年度				年度累計
	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	
	17.14	106.60			142.01

2023年度 単月伸び率		
1月	2月	3月
23.92	30.17	28.08

2. 参照指数の累積収益率の推移



注1) リスクの推計は日次収益率の標準偏差を年率換算して算出しています。

注2) 上記グラフにおける年度伸び率は10月～9月の期間を1年度として表示しております(例:2023年度は2023年10月～2024年9月です)。

注3) 参照指数は、2023/10/3を起点としています。

注4) 本グラフにおける参照指数の累積収益率は運用開始日、基準日の参照指数を用いて計算しておりますが、分配金算出に使用する参照指数累積収益率は運用開始時2営業日、毎年9月末2営業日の参照指数の平均値を用いて算出いたします。

2023年度第4四半期 運用概況 — 投資対象別口 —

(単位:%)

四半期	ファンド	ベンチマーク	超過収益
国内債券口	▲ 0.39	▲ 0.51	0.12
為替ヘッジ外債口	▲ 2.27	▲ 1.90	▲ 0.37
国内株式口1型	19.44	18.14	1.30
国内株式口2型	18.81	18.14	0.67
外国債券口	5.03	5.48	▲ 0.46
外国株式口	16.53	16.87	▲ 0.34
国内株式口パッシブ型	18.09	18.14	▲ 0.05
外国株式口パッシブ型	17.12	16.87	0.25
短期資金口	0.00	0.00	▲ 0.00

(単位:%)

年度累計	ファンド	ベンチマーク	超過収益
国内債券口	▲ 1.74	▲ 2.20	0.46
為替ヘッジ外債口	▲ 4.09	▲ 3.39	▲ 0.70
国内株式口1型	45.29	41.34	3.95
国内株式口2型	44.91	41.34	3.57
外国債券口	14.76	15.27	▲ 0.50
外国株式口	40.88	42.92	▲ 2.04
国内株式口パッシブ型	41.25	41.34	▲ 0.09
外国株式口パッシブ型	43.33	42.92	0.41
短期資金口	0.00	▲ 0.03	0.03

注1)各ファンドの収益率はユニット価格伸び率です。

注2)お客さまの運用開始時期により、上記収益率は相違します。

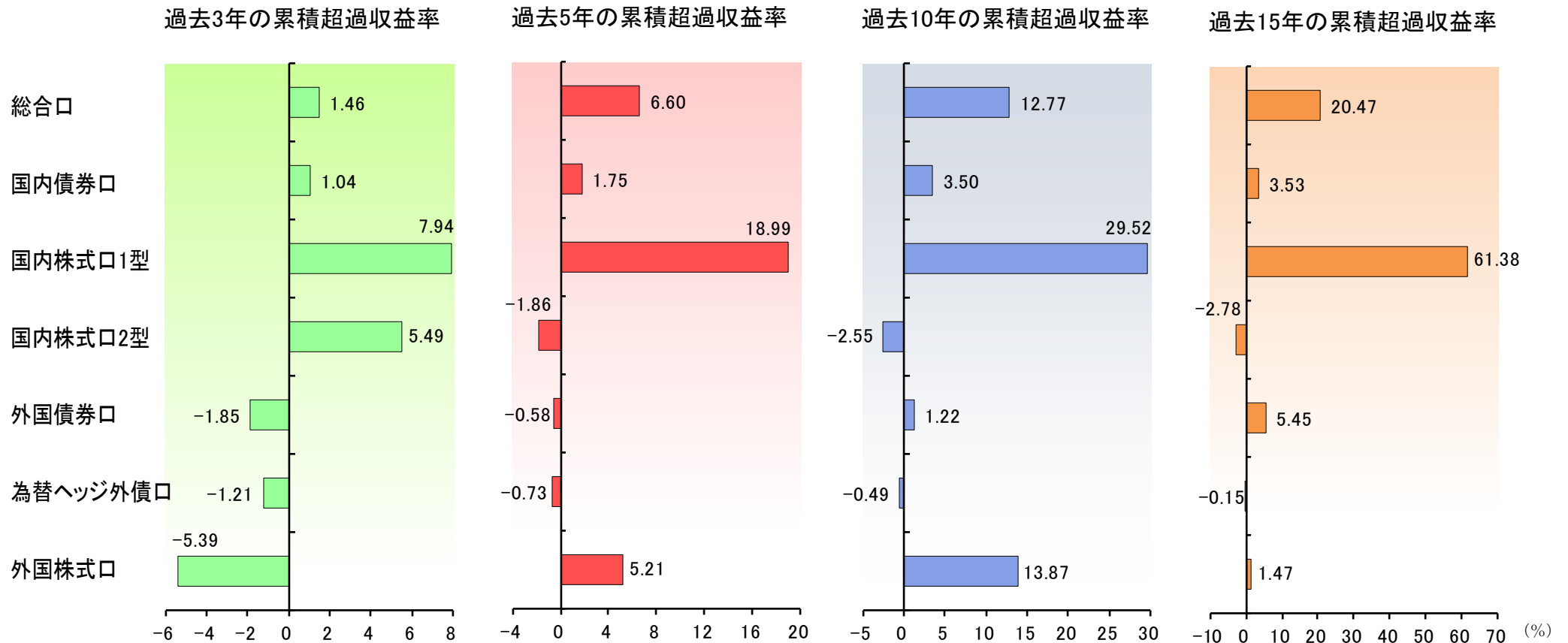
投資行動・実績(まとめ)

国内債券口	四半期	デュレーション短期化、物価連動国債への投資、事業債のオーバーウェイト、事業債の銘柄選択等がプラスに寄与しました。
	年度	デュレーション短期化、イールドカーブ戦略、物価連動国債への投資、事業債のオーバーウェイト、事業債の銘柄選択等がプラスに寄与しました。
為替ヘッジ外債口	四半期	地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。
	年度	米国のデュレーション長期化や、地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。
国内株式口1型	四半期	業種配分効果がマイナスに影響した一方で、化学を中心に銘柄選択効果がプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。
	年度	業種配分効果がマイナスに影響した一方で、電気機器や化学を中心に銘柄選択効果がプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。
国内株式口2型	四半期	業種配分効果のプラス寄与に加えて、電気機器を中心に銘柄選択効果もプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。
	年度	業種配分効果のプラス寄与に加えて、電気機器や医薬品を中心に銘柄選択効果もプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。
外国債券口	四半期	地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。
	年度	通貨配分における中国元の非保有等がプラスに寄与した一方、米国のデュレーション長期化や、地域配分における中国の非保有等がマイナスに影響しました。
外国株式口	四半期	情報技術のオーバーウェイト等により業種配分効果がプラスに寄与した一方で、銘柄選択効果がマイナスに影響し、ベンチマークを下回りました。
	年度	情報技術のオーバーウェイト等により業種配分効果がプラスに寄与した一方で、銘柄選択効果がマイナスに影響し、ベンチマークを下回りました。

注)アクティブファンド(短期資金口を除く)を記載しています。

長期のパフォーマンス状況

アクティブ型商品の長期パフォーマンス状況（年率換算前・2024年3月末まで）



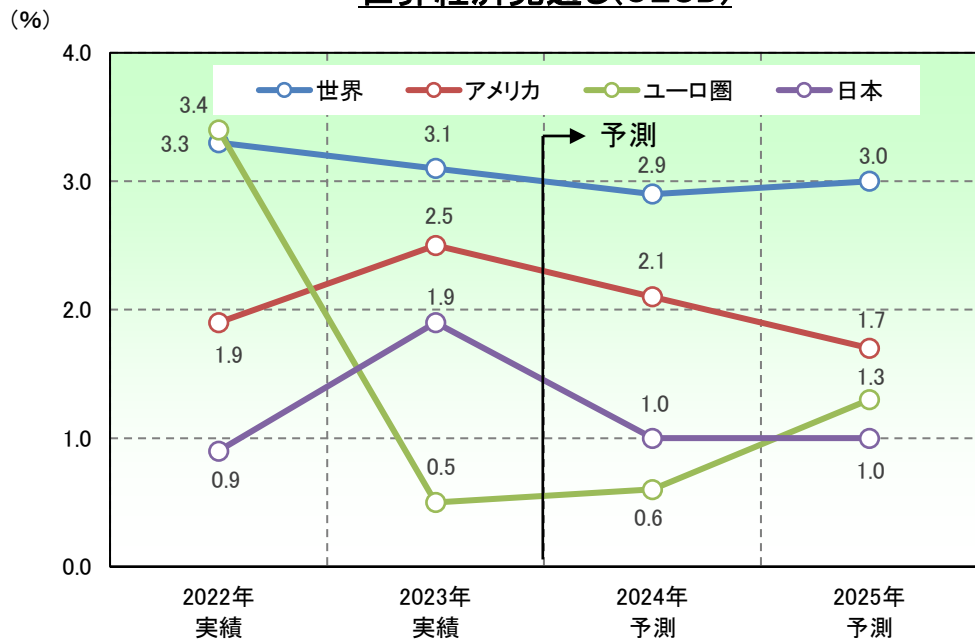
注1) 累積超過収益率は、過去3年の数値は2021年4月から、過去5年の数値は2019年4月から、過去10年の数値は2014年4月から、過去15年の数値は2009年4月から2024年3月までの累計実績です。
 注2) 為替ヘッジ外債口は2011年10月より運用しているため、過去15年の累積超過収益率は2011年10月から2024年3月までの累積超過収益率です。

2024年度 経済・市場見通し — 概要 —

世界経済見通し(概要)

- ▶ 2023年の世界経済は、インフレ抑制のための主要中央銀行による金融引き締め政策の効果が实体经济に波及し、住宅投資や設備投資が減速したものの、コロナ禍で蓄積された家計の過剰貯蓄が個人消費を下支えした結果、緩やかな減速に留まりました。2024年以降の世界経済は、インフレの減速による家計の実質購買力改善が個人消費を下支えすることが期待される一方、これまでの各国中銀による累積的な金融引き締めが経済活動を抑制すると考えられることから、減速基調が続くものと見られます。ただし、世界経済は大幅な落ち込みには至らないものと見込みます。
- ▶ 日本国内においては、30年ぶりの水準となった賃上げが物価上昇に追いつかず、家計の購買力の下押し材料となったものの、2024年春闘における高水準の賃上げや、所得減税を含む政府の総合経済対策の効果などが経済成長を下支えすると見込みます。インバウンド消費も中国人訪日客を中心とした回復余地が残る一方、欧米を中心とした海外経済の減速が景気の下押し材料として懸念されます。
- ▶ これまでの急速な金融引き締めに起因する信用不安の高まり、中国不動産市場の悪化に伴う金融システム不安、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫化等の地政学リスクの高まり等、下振れリスクには注意が必要です。

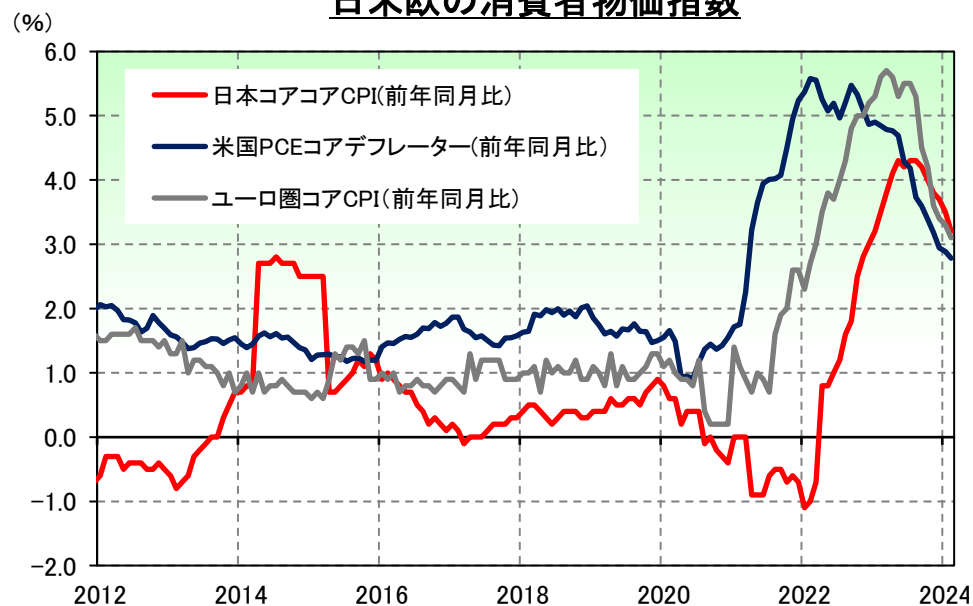
世界経済見通し(OECD)



※実質GDP成長率の数値を掲載しています。

(出所)OECD、2024年2月時点

日米欧の消費者物価指数



※日本コアコアCPIは全国消費者物価指数(生鮮食品およびエネルギーを除く総合)、米国およびユーロ圏についてはそれぞれ食品およびエネルギーを除くコア指数を掲載しています。

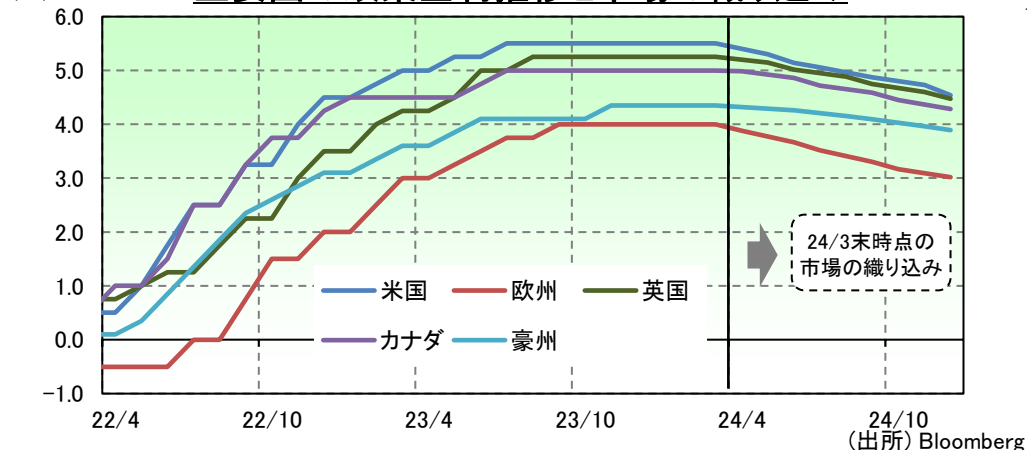
(出所)Bloomberg

2024年度 経済・市場見通し — 見通しのポイント —

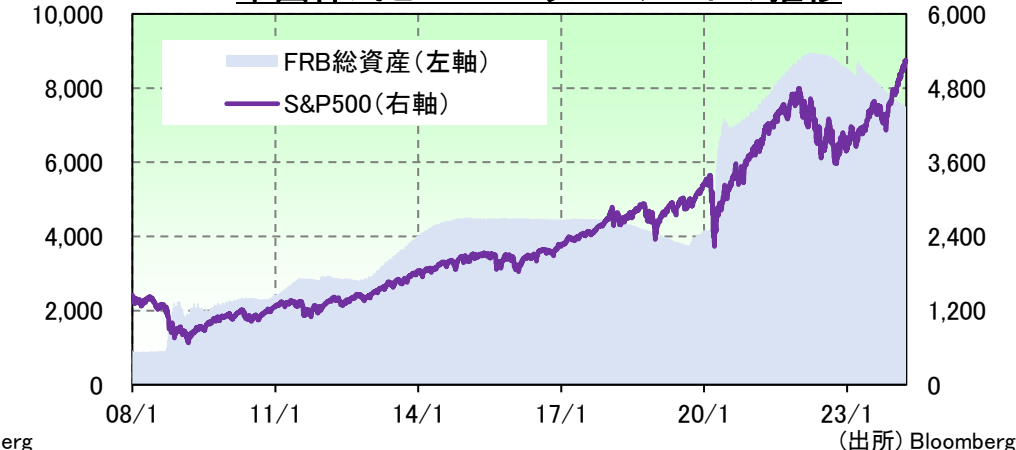
相場見通しのポイント

- ▶ 世界の主要中央銀行による金融引き締めがインフレ抑制に一定の効果を受け、利上げの終結や利下げを開始する動きなども見られることから、金利の更なる上昇余地は限定的と見込みます。今後は、インフレ減速と景気減速のバランスを確認しつつ、利下げ開始時期を探る動きが想定されます。なお、金融システム不安への迅速な対応に見られるように、主要中銀や各国政府は経済のソフトランディングを見据えた政策運営を行っていることから、株価の大幅な調整は見込みづらいと考えます。
- ▶ ただし、地政学リスクの高まり等から原油価格等が高騰しインフレの減速ペースが鈍化するリスク、累積的な金融引き締めが商業用不動産市況の悪化や個人消費の過度な落ち込みをもたらすリスク、FRBのバランスシート縮小等を背景とした株式や国債の需給悪化懸念等には注意が必要です。

主要国の政策金利推移と市場の織り込み



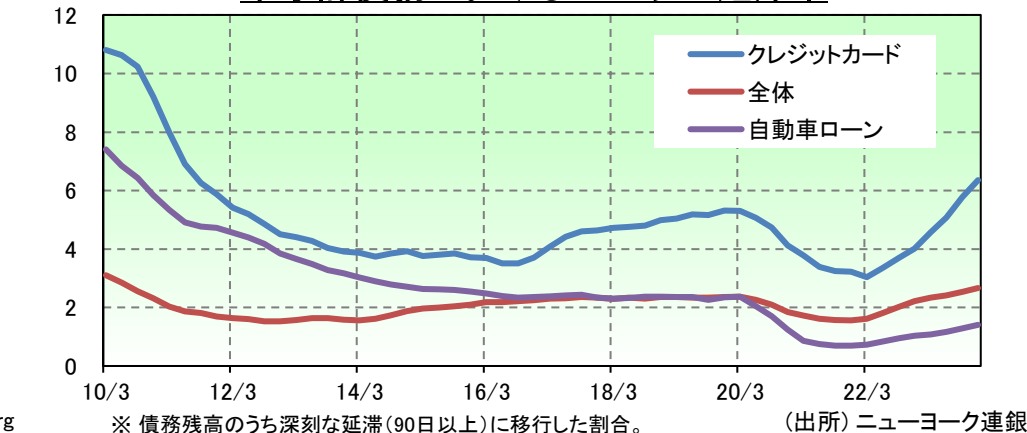
米国株式とFRB・バランスシートの推移



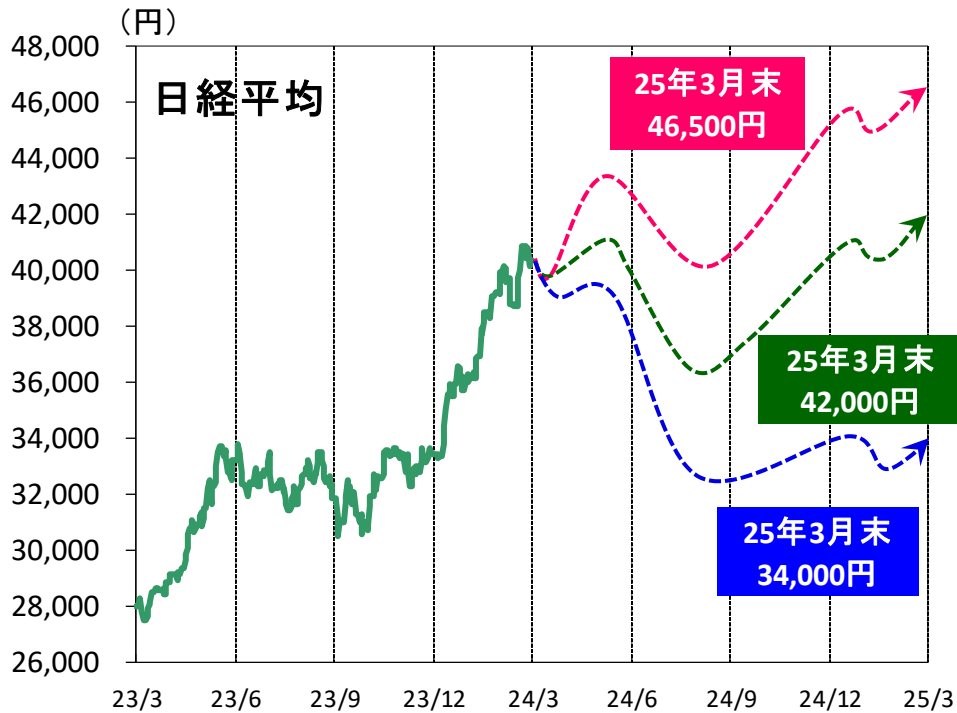
米国・オフィスビル空き室率の推移



米家計債務における90日以上延滞率



経済・市場見通し



楽観シナリオ
【発生確率】
20%

インフレ・リスクの通減等を背景に、世界経済は緩やかに成長

- インフレ減速が進展し、主要中銀が想定よりも前倒しで利下げを開始し、金融環境が緩和される。それに伴い、企業や個人の経済活動が活況となり、世界経済は緩やかな成長を遂げる。
- 主要国のパワーバランスが安定を保ち、ロシア・ウクライナ情勢、中東情勢等の地政学リスクが減退、商品市況等のインフレ・リスクが通減。

メインシナリオ
【発生確率】
60%

世界経済は減速基調も、景気後退には至らない

- 各国中銀の累積的な金融引き締めにより経済活動が抑制され、世界経済は減速基調が続く。一方で、インフレ鈍化による実質所得の増加が個人消費を下支えし、景気後退には至らない。
- 日本経済は、欧米を中心とした海外経済の減速等が下押し材料となるも、2024年春闘における高水準の賃上げや中国人訪日客のインバウンド消費の回復余地等に下支えされる。

悲観シナリオ
【発生確率】
20%

利下げ開始時期の後ろ倒し等により、景気後退に陥る

- インフレ減速ペースの鈍化を背景に、主要中銀が引き締めの金融政策を想定以上の期間にわたって維持する結果、企業・個人の経済活動が抑制され、景気後退に陥る。
- 主要各国の選挙結果により、ロシア・ウクライナ情勢、中東情勢、米中関係の対立等、政変・地政学リスクが高まり、商品市況が悪化する。

	2023年 3月末 実績	2024年 3月末 実績	2024年4-6月 予測レンジ		2024年 6月末 予測水準	2025年3月末予測水準		
						メイン	楽観	悲観
新発10年国債 (%)	0.320	0.725	0.600	~ 1.100	0.900	1.200	1.500	0.250
日経平均 (円)	28,041.48	40,369.44	34,000	~ 46,500	40,000	42,000	46,500	34,000
T O P I X (ポイント)	2,003.50	2,768.62	2,350	~ 3,200	2,740	2,880	3,200	2,350
米国10年国債 (%)	3.49	4.20	3.00	~ 5.00	4.10	4.00	5.00	3.00
独10年連邦債 (%)	2.29	2.29	1.50	~ 3.50	2.20	2.00	3.50	1.50
N Y ダウ (ドル)	33,274.15	39,807.37	33,000	~ 46,000	40,000	42,000	46,000	33,000
円 / ドル (円)	133.09	151.34	130.00	~ 160.00	148.00	146.00	160.00	130.00
円 / ユーロ (円)	144.59	163.45	140.00	~ 175.00	161.50	158.00	175.00	140.00
M S C I - E M (ポイント)	990.28	1,043.20	840	~ 1,240	1,040	1,130	1,320	750

株式

米国経済のソフトランディング期待が株価を下支え

- ▶ 金融引き締めの影響から米国の景気減速が懸念されるものの、景気先行指数には改善の兆しがみられることなどから、本格的な景気後退入りは回避できるものと考えます。今後も、米国経済のソフトランディング期待が株価を下支えすることを想定しますが、足元の上昇相場は生成AIの開発需要の高まりを背景に半導体関連銘柄がけん引しており、半導体業界が高い成長期待を維持できるかは、株価の行方に影響を与えるものと考えます。
- ▶ また、将来的な利下げがある程度織り込まれていることなどから、株式のリスクプレミアムは依然として低い状態にあります。従って、米国の利下げ開始の後ずれや利下げ回数の減少が懸念されるような場面では、株価下落が生じかねない点に注意が必要です。

当社の見通し

	2023年	2024年		2024年		2025年	
	3月末	3月末	前年度	6月末	前年度	3月末	前年度
	実績	実績	末比 (%)	予測	末比 (%)	予測	末比 (%)
日経平均 (円)	28,041.48	40,369.44	43.96	40,000	▲ 0.92	42,000	4.04
NYダウ (ドル)	33,274.15	39,807.37	19.63	40,000	0.48	42,000	5.51
EURO STOXX (ポイント)	457.15	520.21	13.79	520	▲ 0.04	555	6.69
FTSE100 (ポイント)	7,631.74	7,952.62	4.20	7,950	▲ 0.03	8,500	6.88
MSCI-EM (ポイント)	990.28	1,043.20	5.34	1,040	▲ 0.31	1,130	8.32

注) 2024年6月末および2025年3月末における前年度末比は、2024年3月末の実績値と比較しています。

米国の景気先行指数

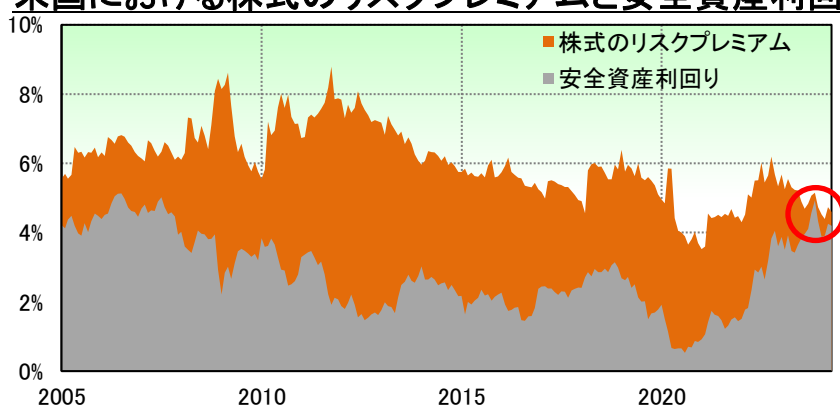


S&P500指数と業種別株価指数



(出所) Bloomberg

米国における株式のリスクプレミアムと安全資産利回り



2024年度 経済・市場見通し — 金利 —

米国金利

利下げ開始が見込まれるものの堅調な米国経済等を背景にレンジで推移

- FRBは3月FOMCで年内3回の利下げ見通しを維持したため、年半ばにも利下げが開始される可能性が高いものと考えられます。
- 今後、FRBの利下げは米国金利の低下要因として想定されるものの、米国経済は堅調な労働市場等を背景に当面は底堅く推移するものと見込まれます。また、政策が過度に引き締めめとなるリスクを低下させるために実施された過去の予防的利下げ局面では、景気・インフレの加速懸念等を背景に利下げ開始以降、上昇に転じる局面もみられたことから、米国金利は概ねレンジでの推移を見込みます。

当社の見通し

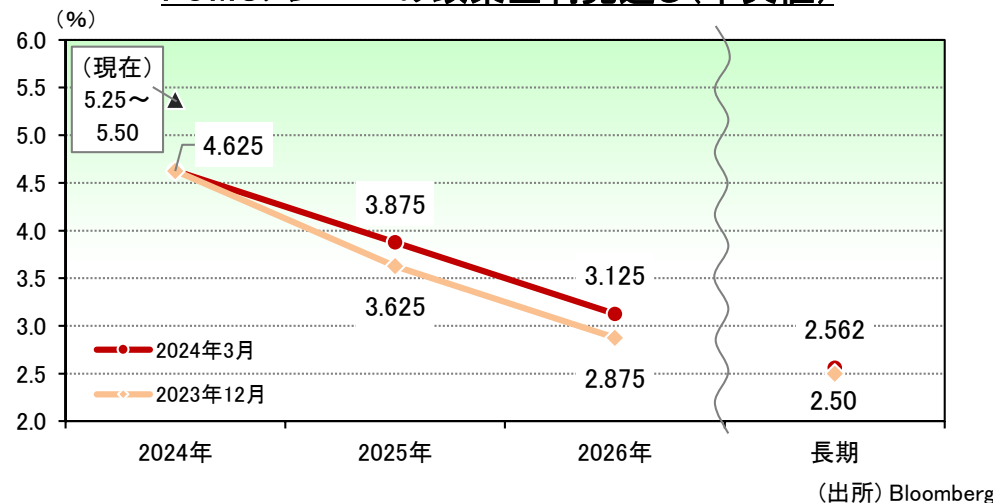
(単位:%)

	2023年 3月末	2024年 3月末		2024年 6月末		2025年 3月末	
	実績	実績	前年度 末差	予測	前年度 末差	予測	前年度 末差
新発10年国債	0.320	0.725	0.41	0.900	0.18	1.200	0.48
米国10年国債	3.49	4.20	0.71	4.10	▲ 0.10	4.00	▲ 0.20
独10年連邦債	2.29	2.29	0.01	2.20	▲ 0.10	2.00	▲ 0.30

注1) 前年度末差については変化幅を記載しています。

注2) 2024年6月末および2025年3月末における前年度末差は、2024年3月末の実績値と比較しています。

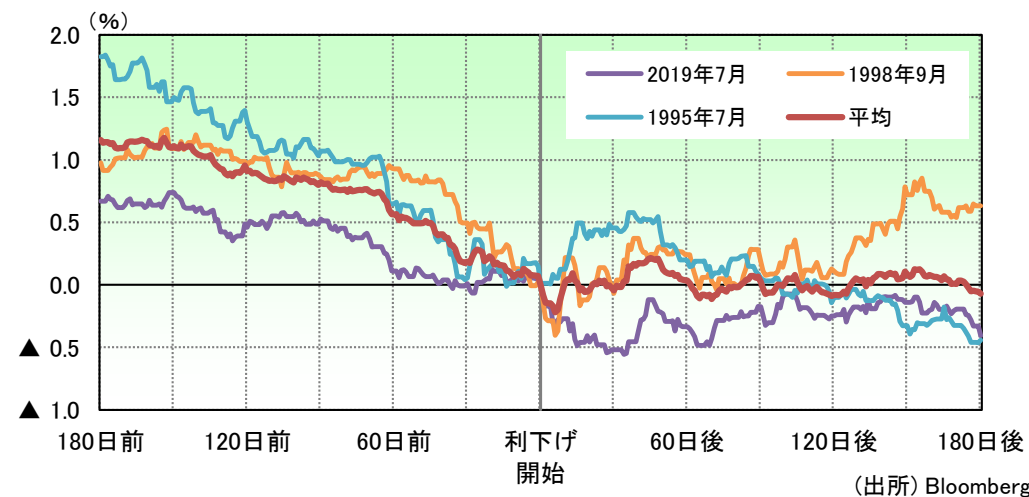
FOMCメンバーの政策金利見通し(中央値)



米国10年国債利回りとアトランタ連銀・GDPNowの推移



FRBの予防的利下げ開始前後での米国10年国債利回り変化幅



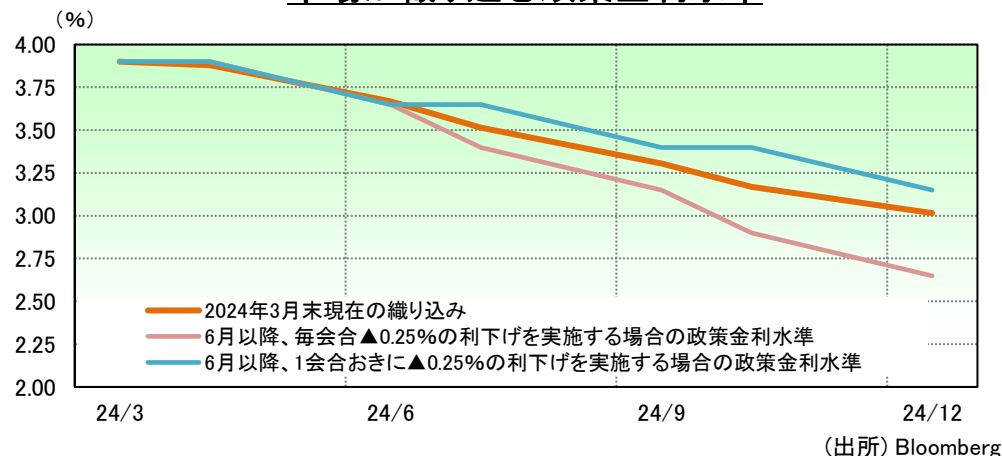
2024年度 経済・市場見通し — 金利 —

欧州金利

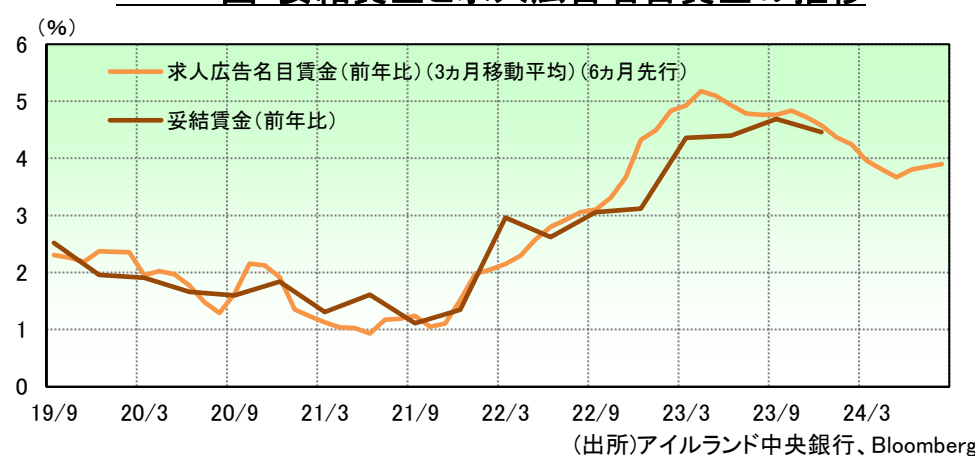
利下げ開始が見込まれるものの高インフレ継続懸念等を背景にレンジで推移

▶ ECBは6月にも利下げを開始すると見込まれ、市場では今後、域内景気の低迷等を背景に将来の利下げ観測が高まる展開も想定される一方、高水準の賃金上昇率等を背景にインフレの高止まり懸念がくすぶる可能性も想定されることなどから、欧州金利は概ねレンジでの推移を見込みます。

市場が織り込む政策金利水準



ユーロ圏・妥結賃金と求人広告名目賃金の推移

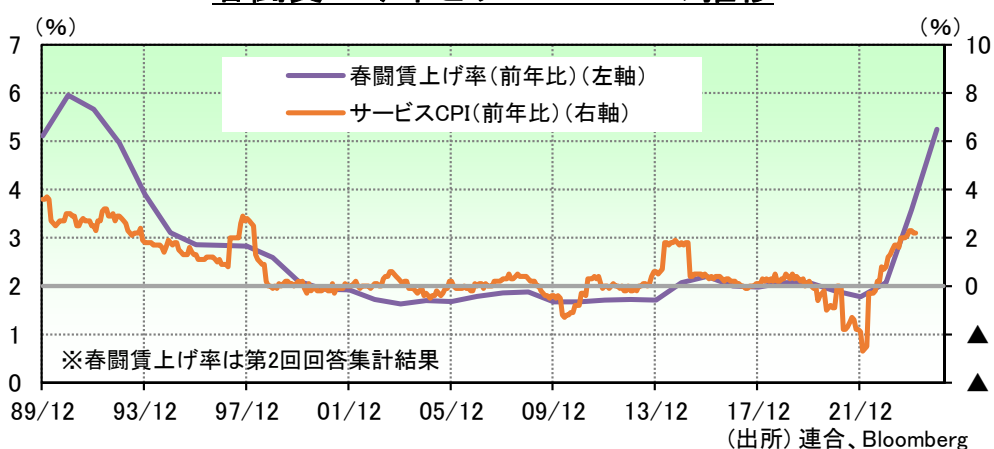


国内金利

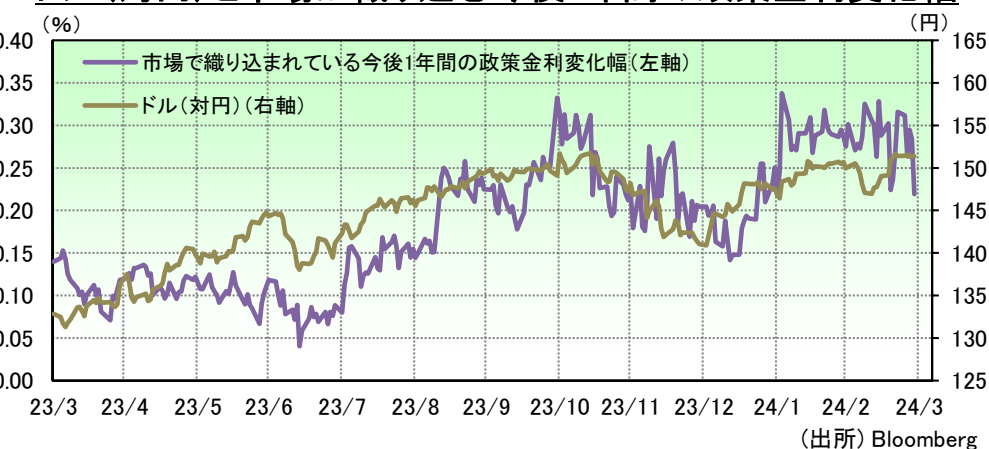
日銀の追加利上げ観測の高まりなどを背景に緩やかに上昇

▶ 日銀は当面慎重な政策運営を継続するスタンスを示しているものの、今後賃金と物価の好循環の強まりや、さらなる円安進行に対する懸念の高まりなどを背景に、年内にも追加利上げが実施される可能性が高いと考えられることなどから、国内金利は緩やかに上昇する展開を見込みます。

春闘賃上げ率とサービスCPIの推移



ドル(対円)と市場が織り込む今後1年間の政策金利変化幅



2024年度 経済・市場見通し — 為替 —

為替

主要通貨に対して緩やかに円高が進行

- ▶ 日米の金融政策の方向性の違いなどは円高ドル安要因として想定されるものの、高水準の金利差等を背景に円キャリートレードは当面継続しやすいものと考えられることなどから、円高ドル安の進行は緩やかなペースにとどまると見込みます。
- ▶ ドルは、堅調な米国経済等を背景に主要通貨に対して底堅い推移が見込まれます。一方、ユーロはECBの利下げ観測の高まりなどを背景に上値の重い展開が見込まれますが、貿易収支改善等を背景とした需給改善や良好なリスクセンチメント等により下支えされ、下値余地は限定的と考えます。

当社の見通し

(単位:円)

	2023年	2024年		2024年		2025年	
	3月末	3月末	前年度末比(%)	6月末	前年度末比(%)	3月末	前年度末比(%)
	実績	実績		予測		予測	
円/ドル	133.09	151.34	13.72	148.00	▲ 2.21	146.00	▲ 3.53
円/ユーロ	144.59	163.45	13.04	161.50	▲ 1.19	158.00	▲ 3.34

注) 2024年6月末および2025年3月末における前年度末比は、2024年3月末の実績値と比較しています。

ドル(対円)と日米実質金利差(10年)の推移



ドルインデックスと米国・G10間の成長率格差の推移



ユーロ圏・貿易収支の推移



日本株見通しのポイント

【国内企業がROEの改善を持続させられるかが株価上昇のポイント】

- ▶ デフレ脱却や経営改革などへの期待感から、足元の国内株式は堅調に推移しています。日経平均株価は史上初めて4万円台に乗せるなど、短期的な達成感はあるものの、米ドル建てでみた国内株式には出遅れ感が残っており、今後も海外投資家などからの資金流入が期待できるものと考えます。
- ▶ 昨年3月末に、東証が全上場企業に対して「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」を要請したことなどを背景に、足元のPBR(株価純資産倍率)は上昇していますが、過去の水準からみて過度な割高感はありません。また、ROE(自己資本利益率)も改善傾向にあります。主要国対比では日本のROEは未だに低水準に留まっています。ROEとPBRは正比例の関係にあり、ROEが高い国はPBRも高い傾向にあることから、今後の日本株を占ううえでは、国内企業が収益力の強化に向けた経営改革を実施することでROEの改善を持続させ、PBRの上昇に伴うもう一段の株価上昇を実現できるかがポイントになるものと考えます。

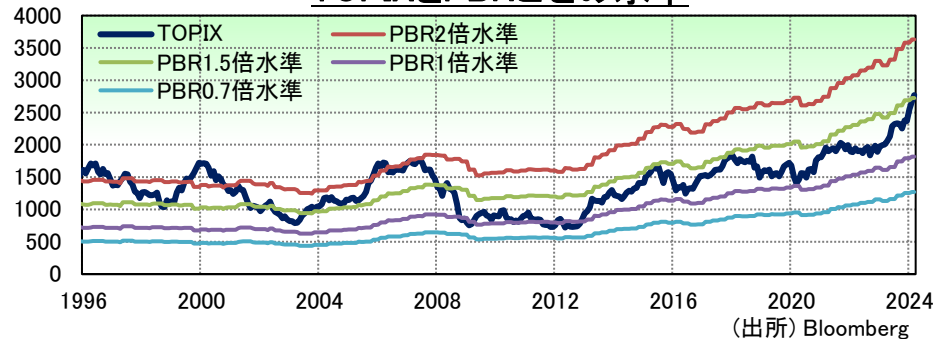
【日銀が保有する巨額のETFの行方には注意が必要】

- ▶ 3月の金融政策決定会合で、日銀はマイナス金利政策等の解除とともに、ETF・REITの買い入れ終了を決定しました。日銀が買い入れた国債やETFについて、植田総裁は時間をかけて処分を検討する方針を示していますが、日銀が保有するETFの残高は70兆円を超えるものとみられ、これは東証プライム市場の時価総額の約7%にのぼります。処分の方法を誤れば株価の下落要因となりかねず、その行方が注目されます。

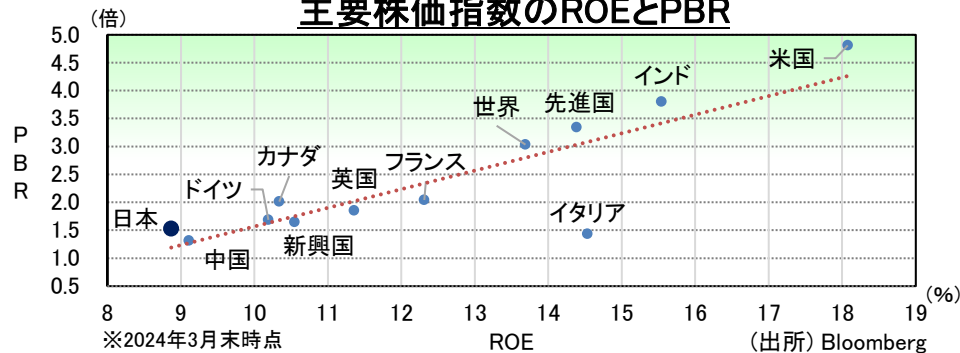
日本株と世界株の相対株価



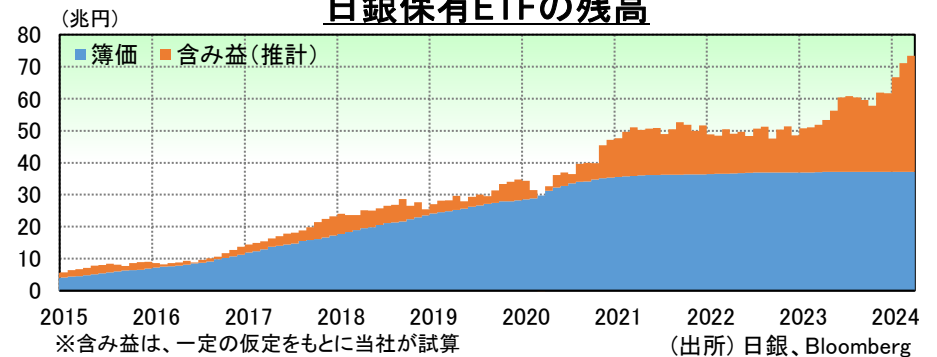
TOPIXとPBRごとの水準



主要株価指数のROEとPBR



日銀保有ETFの残高



2024年度 経済・市場見通し — 参考資料② —

トランプ前大統領再選の場合の市場・経済への影響

【11月の米大統領選挙はバイデン大統領とトランプ前大統領の再戦が決定】

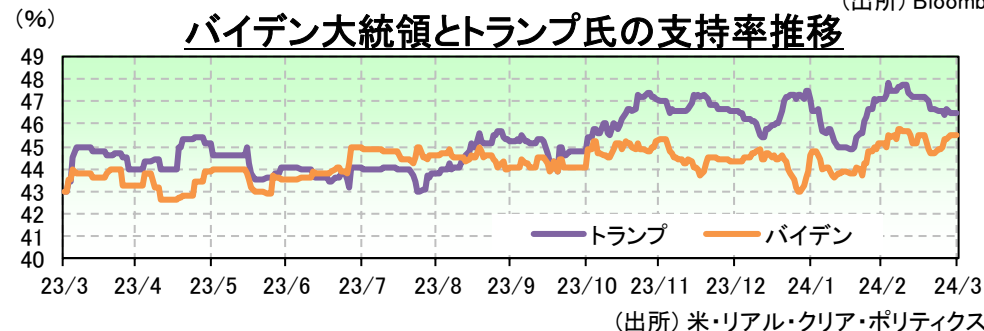
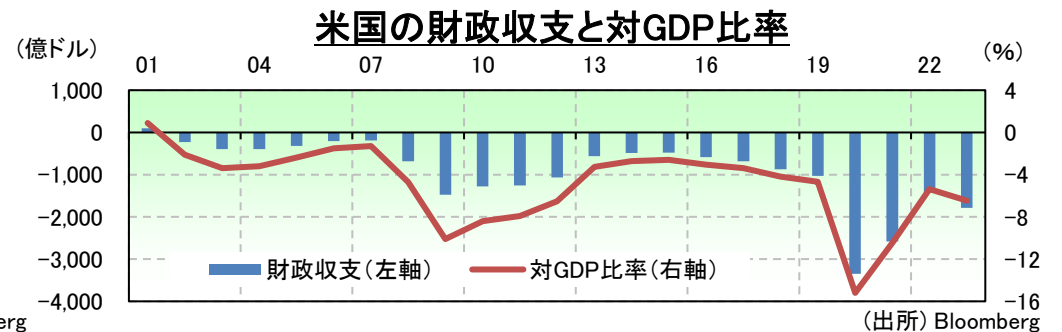
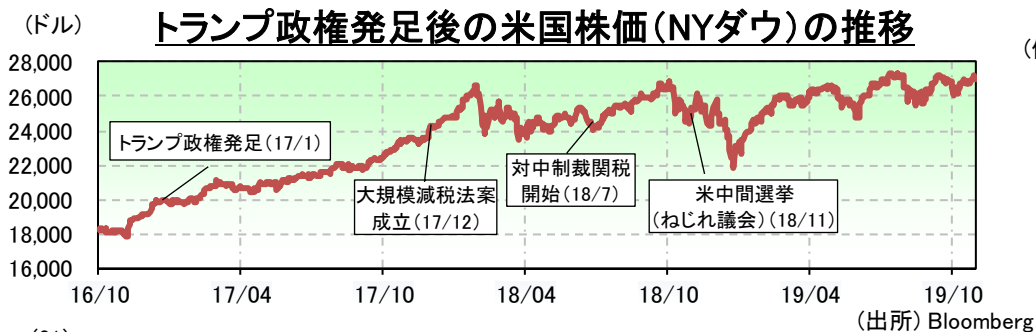
➤ 米大統領選の共和党候補を巡っては、トランプ前大統領が3月5日の「スーパーチューズデー」を制し、候補者指名を獲得した結果、11月の米大統領選は民主党のバイデン大統領との再戦が決まりました。トランプ氏は、政権時代と同じく米国第一の保護主義の姿勢を示していることから、トランプ政権時の政策が株価、経済へどのような影響を及ぼしたのかが再び注目されます。

【トランプ政権の4年間で米国株式は大きく上昇、財政赤字が拡大】

➤ 2016年11月8日の米大統領選でトランプ氏が勝利すると、大規模減税などの政策への期待感から世界的に株価が上昇し、いわゆる「トランプ・ラリー」の展開となりました。その後、米中貿易摩擦の懸念材料により一時的に株価は調整したものの、FRBの連続利下げもあり、米国株式は上昇基調で推移しました。2020年のコロナ・ショックにより株式市場は大きく下落しましたが、その後の積極的な金融・財政政策等がハイテク株等の上昇につながり、トランプ政権の4年間で米国株式は大きく上昇しました。経済への影響としては、トランプ氏が2017年に実施した大型法人減税策は、一時的な需要喚起につながったものの、米中貿易摩擦に伴う追加関税の引き上げは減税によるプラスの経済効果を相殺し、トランプ政権下の経済成長の重しとなりました。また、大型減税や軍事費を中心とする財政支出の増加により、財政赤字は拡大し、政府債務はGDP比で上昇しました。

【輸入関税の導入等がインフレ再燃や経済成長の阻害要因になるリスク】

➤ 現時点でトランプ氏の具体的な政策は明らかになっていませんが、輸入品への一律10%の関税上乘せや、中国からの輸入品には60%の関税を検討している、などと報じられており、輸入物価の上昇によるインフレ再燃のリスクが指摘されています。また、移民規制の強化など、排外主義的な移民政策をとる場合、労働需給逼迫により賃金上昇圧力となる可能性も懸念されます。また、2025年末にトランプ政権時に成立した減税策の一部が失効を迎えますが、これが継続される場合、景気浮揚効果が見込まれるものの、財政赤字拡大に伴い金利上昇圧力となるリスクも指摘されています。



直近の米・議席獲得数の推移

	大統領	上院議席数	下院議席数
2017	ドナルド・トランプ	48 : 52	194 : 241
2019	ドナルド・トランプ	47 : 53	235 : 199
2021	ジョー・バイデン	50 : 50	222 : 213
2023	ジョー・バイデン	51 : 49	213 : 222

※ 上院・下院の議席数は、左が民主党、右が共和党。■: 民主党 □: 共和党 (出所) 米連邦議会

米国経済の景気後退リスク

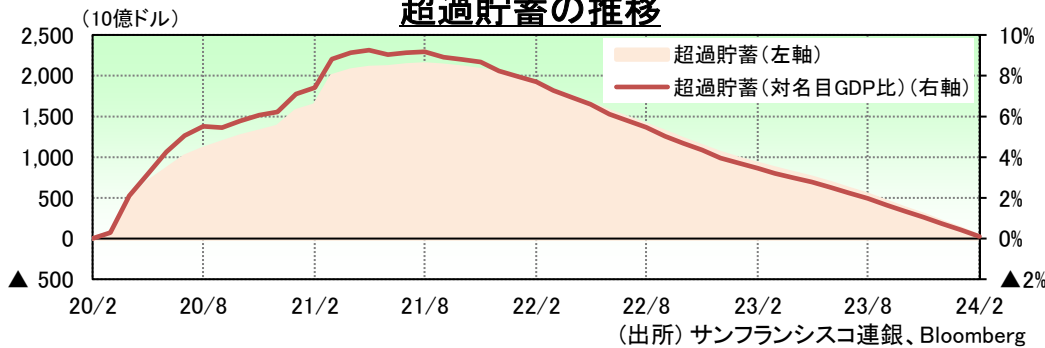
【個人消費や投資の減速には引き続き注意が必要】

- 米国経済は足元トレンドを上回る成長率を維持しており、良好な雇用・所得環境等を背景とした堅調な個人消費や、FRBの利下げ開始等を背景とした金融環境の緩和等により下支えされ、今後も底堅く推移するものと見込まれるものの、景気後退リスクには引き続き注意が必要だと考えます。
- 米国では労働市場は底堅く推移しているものの、個人消費を下支えしてきた超過貯蓄はすでに尽きつつあると考えられるなか、足元ではクレジットカードローン残高は過去最高水準を更新し続けており、延滞率も約12年ぶりの水準まで上昇しています。また2023年10月に再開した学生ローンの支払いなども家計の重しとなるものと想定されることなどから、今後家計の財政状況悪化に伴う個人消費の減速リスクには注意が必要と考えます。
- FRBは年内3回の利下げ見通しを維持しているものの、インフレ減速ペースの鈍化等を背景に、足元市場で織り込まれているインフレ期待は上昇しています。こうしたなか、今後発表されるインフレ関連指標が堅調に推移する場合等には、FRBの引き締め的な金融政策スタンスが長期化する展開も想定され、企業に対する銀行の融資基準のさらなる厳格化等を背景とした企業のデフォルト増加や投資減少等が景気の重しとなる可能性があります。

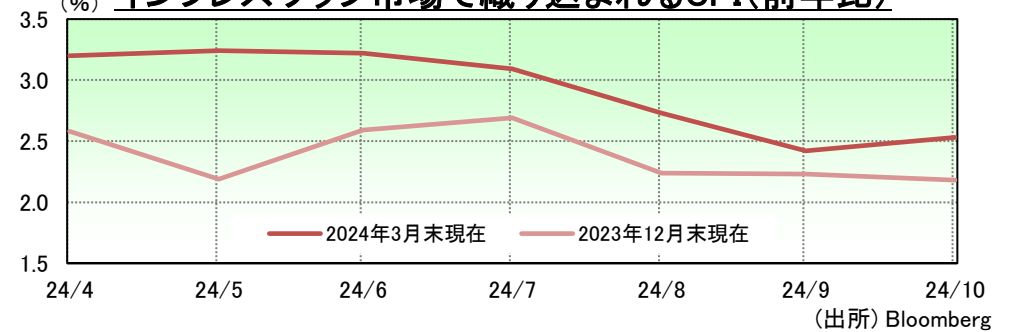
【商業用不動産の低迷等を背景とした金融システム不安はくすぶり続ける】

- 2023年以降、商業用不動産に対する懸念がくすぶり続けており、足元では商業用不動産価格は底打ちしつつあるものの、リモートワークの普及等による構造的な需要の減少等を背景にオフィスセクターは依然として軟調な推移が継続しています。また商業用不動産ローンに対する銀行の貸出基準は依然として引き締まった水準にあり、今後、商業用不動産ローンの借換が困難となる場合には、さらなる延滞率の上昇や不良債権の増加等を背景に中小銀行を中心とした金融システム不安が高まる展開も想定されるため注意が必要です。

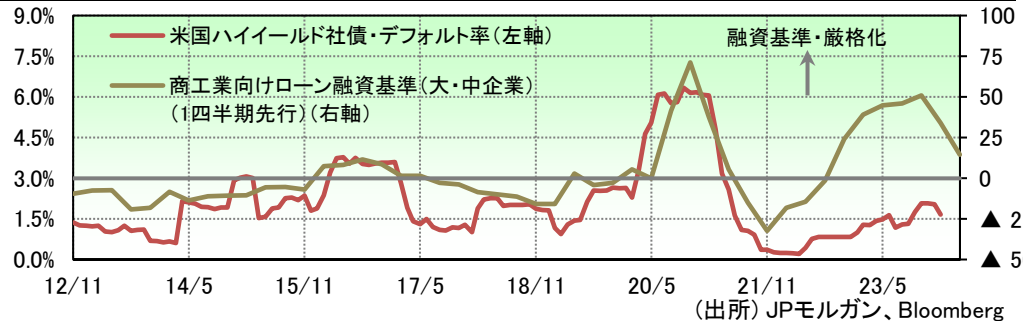
超過貯蓄の推移



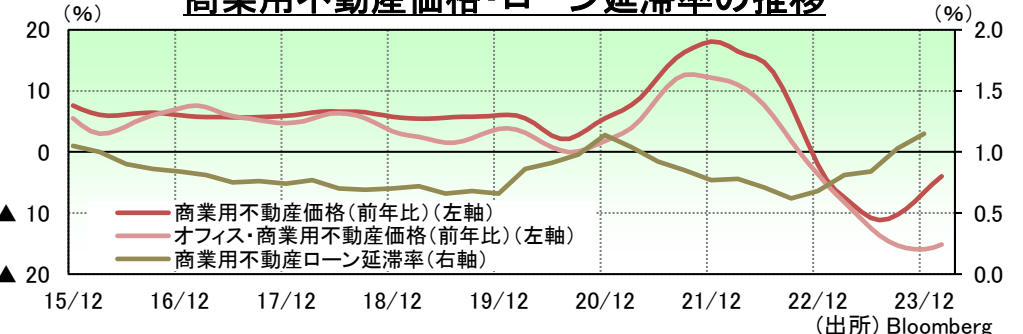
インフレスワップ市場で織り込まれるCPI(前年比)



商工業向けローン融資基準とハイイールド債・デフォルト率の推移



商業用不動産価格・ローン延滞率の推移



2024年度 運用方針 — 総合口 —

1. 2024年度短期基本ポートフォリオ及び2024年度期待収益率

(単位:%)

	2024年度 基本ポートフォリオ		2024年度 期待収益率	リスク	2024年3月末 実績構成比	2024年6月末 予定構成比	対基本 ポートフォリオ比	2024年度期待収益率	
	許容範囲							楽観	悲観
国内債券	23.0	10 ~ 36	▲ 2.4	2.5	21.8	22.0	- 1.0	▲ 4.6	5.9
為替ヘッジ外債	4.0	1 ~ 7	0.5	5.7	3.1	3.0	- 1.0	▲ 7.5	5.7
国内債券計	27.0	16 ~ 40	▲ 2.0	2.7	24.9	25.0	- 2.0	—	—
国内株式	31.0	21 ~ 41	6.0	14.0	32.2	32.0	+ 1.0	17.5	▲13.2
外国債券	13.0	6 ~ 20	1.7	5.4	10.9	12.0	- 1.0	3.0	▲ 5.0
外国株式	26.0	17 ~ 35	4.0	17.9	27.6	26.5	+ 0.5	23.0	▲28.8
短期資産等	3.0	0 ~ 8	0.3	0.0	4.3	4.5	+ 1.5	0.5	▲ 0.0
合計	100.0	—	2.6	9.0	100.0	100.0	—	10.5	▲10.6

注)2024年3月末の外国株式の実績構成比は、アジア新興国株式の値が含まれています。

資産配分

このような想定シナリオのもと、国内株式をオーバーウェイト、国内債券・外国債券をアンダーウェイトとしたポジションを基本としますが、各国金融政策の動向、企業業績等を注視し、機動的な売買を実施する方針です。

2. 長期基本ポートフォリオ

(単位:%)

	基本ポート フォリオ		期待 収益率	リスク
	許容範囲			
国内債券	31.0	16 ~ 46	0.6	2.9
国内株式	26.0	11 ~ 41	6.2	18.4
外国債券	13.0	3 ~ 23	1.2	9.8
外国株式	26.0	16 ~ 36	7.3	18.0
短期資産等	4.0	0 ~ 14	0.3	0.6
合計	100.0	—	3.9	9.0

2024年度 運用方針 — 総合口・第2総合口・第3総合口 —

運用方針	
総合口	<ul style="list-style-type: none"> 「マクロ経済分析」や「財政・金融政策」、「各市場ごとの需給動向」などの判断に基づく資産配分、ならびに個別資産ごとの銘柄選択効果により、安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。 総合口の運用に際しては、長期的なマクロ経済の分析・市場予測をベースとした長期基本ポートフォリオ(10年程度)を設定した上で、各資産の1年程度の市場見通しを考慮し、当年度における資産配分のベンチマークとして短期基本ポートフォリオを設定します(今年度の基本ポートフォリオについては、前頁をご覧ください)。 金利分散の強化の観点から、長期基本ポートフォリオ上の円貨建公社債の一部として、為替ヘッジ付外貨建公社債を組み入れます ベンチマークは、総合口の短期基本ポートフォリオと各資産のベンチマークを基に算出した複合ベンチマークとします。 各資産別の運用方針については、投資対象別口の内容をご確認ください。
第2総合口	<ul style="list-style-type: none"> 定量分析の活用により、高度なリスク分散を図った資産配分戦略と高利回りかつ低リスクを追求した個別資産戦略を実施し、価格下落リスクを抑制しつつ、中長期的に年率3%程度の期待収益率を目標とした運用をします。 資産配分比率は、ファンド全体の目標リスク(年率3%~4%)をターゲットに月次で見直しを行います。また、市場リスクが高まったと判断した際には、短期資金への資金移動を速やかに実施します。 投資対象は、リスク分散を高度に行うために、先進国国債、先進国株式、新興国国債、新興国株式、REIT、短期資金とします。 先進国国債、先進国株式、新興国株式、REITについては、地域・銘柄等の分散を図りつつ、高利回り・低リスクを追求した運用を行います。新興国国債については、参照ベンチマークから信用リスクの高い銘柄を除いて、低リスクを追求した運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。
第3総合口	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオの大幅な損失を抑制すると同時に利益の獲得を追求することで、中長期的な収益の最大化を目指した運用を行います。 オプション市場の情報を活用した独自の投資魅力度に基づき資産配分を行います。原則として週次でリバランスを行います。市場リスクが極端に高まったと判断される場合には、機動的に配分比率を変更します。 資産配分の決定に際しては、過去12ヵ月の収益率による実績ドローダウンに応じて運用リスクを調整します。 投資対象は、先進国株式、先進国国債、新興国株式、新興国国債、クレジット等を対象とする先物および上場投資信託(ETF)とし、市場環境に応じて適宜組み入れ銘柄の見直しを図ります。 株式の配分においては一定の制約の下で投資魅力度が最大化するよう銘柄選択を行い、債券の配分についてはデュレーションあたりの利回りを重視した運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。

2024年度 運用方針－総合口戦略的資産配分型・総合口下方リスク限定型・債券総合口－

運用方針	
総合口戦略的 資産配分型	<ul style="list-style-type: none"> 運用者の投資ノウハウを定量化するテクノロジーを活用した複数の戦略を組み合わせることで、安定的な収益獲得および高い投資効率を目指した運用を行います。中長期的に4.0%程度の期待収益率を目標とした運用を行います。 ファンド全体の目標リスクは年率4%程度とします。 資産配分は、収益源泉の異なる複数の戦略を組み合わせた上で、シャープレシオが最大となるように調整し、市場動向に応じて随時リバランスを実施します。また、市場リスクが高まる際には、ポジションを縮小することでポートフォリオ全体のリスク抑制を図ります。 アセットマネジメントOneが設定する円貨建証券投資信託にて投資を行います。 上記投資信託の実質的な投資対象は、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券、短期資金とします。各資産の組入れ制約については、グロスエクスポージャーは株式150%以下、債券400%以下とし、各戦略を組み合わせた後のネットエクスポージャーでは資産クラス毎及びファンド全体で0～100%の範囲内とします。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。
総合口 下方リスク限定型	<ul style="list-style-type: none"> 市場環境に応じた機動的な資産・戦略配分を行う参照指数を原資産とする複数のコールオプションを活用することにより、年度内での下方リスク限定目標を意識しつつ、安定的な収益獲得を目指します。 中長期的に年率1.5～2%程度の期待収益率を目指します。また、ユニット価格の最大下落率を年度内で▲2%以内に抑えることを目標とします。 目標リスク水準は中長期的に年率1.5～2%程度とします。 投資対象とする投資信託(私募)は、バーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社が運用します。 投資信託では参照指数を原資産とする複数のコールオプションへの投資を複製するエクセスリターンスワップに投資します。 参照指数は、コアパートとサテライトパートから構成されます。コアパートでは、日米欧の株価指数先物および債券先物、コモディティ先物、金先物、米欧の短期金利先物を投資対象とします。サテライトパートでは、BNPパリバ証券会社が保有する各種のクオンツ投資戦略指数を投資対象とし、バーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社の運用助言に基づきポートフォリオ構築を行いません。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。
債券総合口	<ul style="list-style-type: none"> グローバルに投資適格債券を投資対象とし、為替リスクはヘッジしリスク抑制に重点を置きつつ、中長期的に国内短期金利+2.0～2.5%の期待収益率を目標とした運用をします。 投資対象は、先進国国債、新興国国債、グローバル社債、短期資金とします。 資産配分については、70%を「コア・ポートフォリオ」とし、先進国国債、新興国国債、グローバル社債をそれぞれ一定の比率とします。30%については、「動的配分ポートフォリオ」とし、各資産の投資魅力度(リスク対比のインカム利回り)をもとに配分します。 ファンド全体のリスクについては、年率3%程度をターゲットとしますが、市場リスクが高まったと判断した際には、リスクを抑制します。 「コア・ポートフォリオ」運用にあたっては、先進国国債は、地域・銘柄の分散を図りつつ、投資魅力度等をもとに運用を行います。新興国国債は、参照ベンチマークから信用リスクの高い国を除くことにより、リスクを抑制した運用を行います。グローバル社債は、アクティブ運用とし、分散投資を図りつつ合理的な投資判断に基づき運用を行います。また、「動的配分ポートフォリオ」運用にあたっては、機動性、流動性を高めた運用を行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 期待収益率および目標リスクは、長期的な運用環境の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。

2024年度 運用方針

－ 年金債務対応総合口・ヘッジ外債総合口 I 型・グローバル株式総合口 I 型 －

運用方針	
年金債務対応 総合口	<ul style="list-style-type: none"> 年金財政上の運用目標(予定利率)を達成することに加え、サープラス(年金資産と企業会計上の年金債務との差)の変動を抑えることを目標とした運用を行います。 投資対象は、国内債券、為替ヘッジ外債、グローバル社債、国内株式、外国株式、短期資産とします。 資産別の期待収益率・リスク等は、独自のマクロ経済金融環境シナリオ生成モデルにて算出し、原則四半期ごとにポートフォリオの見直しを行います。 各資産の運用にあたっては、国内債券は、超長期ゾーンも含め負債変動を考慮した運用を行います。為替ヘッジ外債は、地域・銘柄等の分散を図りつつ、投資魅力度(インカム利回り)等をもとに運用を行います。グローバル社債は、アクティブ運用とし、分散を図りつつ合理的な投資判断に基づき運用します。国内株式および外国株式は、地域・銘柄等の分散を図りつつ、下方リスクを抑制した運用を行います。なお、各資産の運用方法については、定量分析の再現性、一貫性を重視しつつ、運用環境の変化に応じて有効性を検証し、適宜見直しを行います。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。
ヘッジ外債 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 米国の主要な債券セクター(国債、政府系MBS、非政府系MBS、CMBS、ABS、CLO、バンクローン、ハイイールド債券、米ドル建エマーGING債券等)および米国以外の国債を実質的な投資対象とし、安定的な高インカムの獲得と金利上昇による元本毀損の抑制をめざした運用を行います。 中長期的に国内短期金利+2.0~2.5%の期待収益率を目標とした運用を行います。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をダブルライン・キャピタル・エルピー(以下、ダブルライン社)に委託します。 投資にあたっては、ダブルライン社が市場動向や経済動向、政治動向等に関する見通しに基づいて、債券種別の配分比率等を変更します。ダブルライン社はシナリオ分析やクレジット分析等を基に、組入銘柄の選択を行います。 原則として為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減をはかります。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。
グローバル株式 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 世界の上場企業を実質的な投資対象とし、集中投資型の運用を行うことで、ベンチマークを上回る運用を目指します。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をWCMインベストメント・マネジメント(以下、WCM社)に委託します。 投資にあたっては、WCM社が参入障壁の方向性や企業文化、構造的成長力等に着眼した銘柄選択を行い、銘柄の組入比率等を変更します。 ベンチマークは、「MSCI-ACWI(円ベース、配当再投資、GROSS)」とします。

2024年度 運用方針 — マルチストラテジー総合口 I 型・指数連動型配当口 —

運用方針	
マルチストラテジー 総合口 I 型	<ul style="list-style-type: none"> 世界の株式、債券、通貨、商品及びそれらに関連する金融派生商品（オプション、先物、スワップ、ワラント等）等を実質的な投資対象とし、複数の運用戦略を活用することで安定的な収益の獲得をめざした運用を行います。 中長期的に国内短期金利+7.0%の期待収益率を目標とした運用を行います。 投資対象とする外国投資信託は、マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが設定し、運用判断をジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・UK・リミテッドに委託します。 原則として為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減をはかります。
指数連動型 配当口	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の株式・債券等先物取引から構成される所定の指数に連動した収益を分配します。 一般勘定と組み合わせたフロアセットプランとして、10年間で年平均収益率1.25%以上の運用成果を目指します。 投資対象とする、円貨建証券投資信託（私募）は、シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が設定します。 ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 新規に設定されるいずれの単位保険口についても同様の運用方針とします。

2024年度 運用方針 — 投資対象別口 —

(単位:%)

	2024年度 期待収益率	リスク	2024年度 期待収益率	
			楽観	悲観
国内債券口	▲ 2.4	2.5	▲ 4.6	5.9
為替ヘッジ 外債口	0.5	5.7	▲ 7.5	5.7
国内株式口 1型	6.0	14.0	17.5	▲13.2
国内株式口 2型	6.0	14.0	17.5	▲13.2
国内株式口 パッシブ型	6.0	14.0	17.5	▲13.2
外国債券口	1.7	5.4	3.0	▲ 5.0
外国株式口	4.0	17.9	23.0	▲28.8
外国株式口 パッシブ型	4.0	17.9	23.0	▲28.8
短期資金口	0.3	0.0	0.5	▲ 0.0

運用方針	
国内債券口	<ul style="list-style-type: none"> 日銀は、賃金上昇に伴う物価への波及を確認しながら、金融政策の正常化を緩やかに進めると考えられることなどから、中長期的に金利は上昇しやすいものと見込み、デュレーションは短期化を軸にコントロールする方針です。また、国内物価動向や需給動向等を睨みつつ、物価連動国債のウェイトをコントロールします。キャリアの獲得や日銀の社債等買入活用の観点から、事業債のオーバーウェイトを維持する方針です。
為替ヘッジ 外債口	<ul style="list-style-type: none"> インフレ鎮静化が鮮明になるなか、主要中銀の利上げサイクルは終了し、今後は利下げに転じるものと想定され、また積極的な金融引き締めによる経済への悪影響が顕在化し、景気は減速感を強めていくものと考えられることなどから、欧米長期金利は低下基調で推移するものと見込み、デュレーションは長期化を軸にコントロールします。
国内株式口 1型	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に業績拡大が期待でき、かつ、バリュエーションが割安な銘柄への選別投資を行います。また、マクロ経済や各国の金融・財政政策の動向などにより物色動向が急激に変化するリスクがあることから、業種リスクは抑制し、類似業種内での銘柄選択に注力します。
国内株式口 2型	<ul style="list-style-type: none"> 定量モデルを用いて、多様なバリュー尺度(フローバリューおよびストックバリュー、時系列比較およびクロスセクション比較など)を用いて割安度を判定し銘柄選択を実施します。加えて、企業のクオリティ(収益性、業績安定性、株主還元など)に関連するファクターや株価の方向性に大きな影響を及ぼすファクター(空売り比率など)を考慮し多面的に銘柄を評価する事により、安定的な超過収益獲得を目指します。
外国債券口	<ul style="list-style-type: none"> FRBが利下げに転じる可能性が高まるなか、米ドル安が進行するものと見込み、ユーロ等をオーバーウェイトとしつつも、局面に応じて機動的にコントロールする方針です。 インフレ鎮静化が鮮明になるなか、主要中銀の利上げサイクルは終了し、今後は利下げに転じるものと想定され、また積極的な金融引き締めによる経済への悪影響が顕在化し、景気は減速感を強めていくものと考えられることなどから、欧米長期金利は低下基調で推移するものと見込み、デュレーションは長期化を軸にコントロールします。
外国株式口	<ul style="list-style-type: none"> 地域別配分戦略は米国のオーバーウェイトを維持する方針です。業種配分戦略では、情報技術をはじめとした成長性の高い業種のオーバーウェイトを維持しますが、その他の業種については景気動向、それぞれの業界動向、リスク要因、バリュエーションを勘案し、機動的にコントロールします。銘柄選択については、中長期の成長性だけでなく、短期的な業績回復といった個別要因による投資アイデアにも積極的に取り組みます。

注)アクティブファンド(短期資金口を除く)を記載しています。

運用実績の推移

		(単位:%)				(単位:%)					過去3年の累計				過去5年の累計			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	年率 換算前(%)	年率 換算後(%)	インフォメーション レシオ	シャープ レシオ	年率 換算前(%)	年率 換算後(%)	インフォメーション レシオ	シャープ レシオ
総合口	ファンド	▲ 3.46	28.52	7.02	1.05	9.88	▲ 0.54	2.80	10.71	24.38	34.50	10.37	0.41	1.27	66.88	10.77	0.88	1.21
	ベンチマーク	▲ 4.99	26.81	6.20	1.73	9.27	▲ 0.29	2.65	10.10	23.14	33.04	9.97	-	-	60.28	9.88	-	-
	超過収益	1.53	1.72	0.82	▲ 0.69	0.60	▲ 0.25	0.15	0.62	1.24	1.46	0.40	-	-	6.60	0.89	-	-
第2総合口	ファンド	1.99	1.14	1.84	▲ 3.34	1.35	▲ 1.97	1.64	2.20	3.21	1.59	0.53	-	0.15	4.80	0.94	-	0.28
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
第3総合口	ファンド	▲ 9.00	4.46	3.53	▲ 6.12	3.90	▲ 3.05	6.16	6.32	13.68	10.50	3.38	-	0.39	5.04	0.99	-	0.11
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合口戦略的 資産配分型	ファンド	-	-	-	0.15	0.80	▲ 1.18	0.35	1.54	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
債券総合口	ファンド	2.37	0.10	▲ 4.07	▲ 6.80	▲ 0.53	▲ 3.04	2.85	▲ 1.11	▲ 1.91	▲ 12.30	▲ 4.28	-	▲ 0.98	▲ 10.13	▲ 2.11	-	▲ 0.49
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年金債務対応 総合口	ファンド	▲ 4.96	12.04	8.21	▲ 1.77	4.95	▲ 3.07	2.07	1.20	5.08	11.69	3.75	-	0.59	18.94	3.53	-	0.56
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘッジ外債 総合口 I 型	ファンド	-	-	▲ 1.37	▲ 6.45	0.25	0.12	1.43	1.01	2.83	▲ 5.12	▲ 1.74	-	▲ 0.48	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
グローバル株式 総合口 I 型	ファンド	-	-	▲ 8.61	▲ 3.94	16.15	▲ 0.80	7.65	21.85	51.13	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	▲ 1.45	2.02	15.49	▲ 0.16	5.00	16.28	40.79	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	▲ 7.16	▲ 5.96	0.66	▲ 0.64	2.65	5.57	10.35	-	-	-	-	-	-	-	-
マルチ ストラテジー 総合口 I 型	ファンド	-	-	-	-	-	-	▲ 3.89	▲ 1.95	▲ 5.76	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
指数連動型 配当口 (2021)	ファンド	-	-	▲ 19.11	▲ 54.49	8.04	▲ 28.77	▲ 15.25	58.85	3.61	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
指数連動型 配当口 (2022)	ファンド	-	-	-	▲ 13.53	31.33	▲ 39.63	▲ 6.75	87.91	38.93	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
指数連動型 配当口 (2023)	ファンド	-	-	-	-	-	-	17.14	106.60	142.01	-	-	-	-	-	-	-	-
	ベンチマーク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	超過収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1) 各ファンドの収益率はユニット価格伸び率です。

注2) 総合口のベンチマークは年度基本ポートフォリオの構成比で加重した計算値(複合ベンチマーク)です。

注3) 過去3年の累計は2021年度から、過去5年の累計は2019年度から2023年度までの累計実績です。

注4) 第3総合口は2019年4月、総合口戦略的資産配分型は2022年10月、ヘッジ外債総合口 I 型は2021年4月、

グローバル株式総合口 I 型は2022年1月、マルチストラテジー総合口 I 型は2023年10月、

指数連動型配当口 (2021) は2021年10月、指数連動型配当口 (2022) は2022年10月、

指数連動型配当口 (2023) は2023年10月より運用しています。

■インフォメーションレシオ・・・リスクを加味した超過収益の尺度で、超過収益獲得の効率性を示します。

計算式: $\text{ファンドの超過収益} \div \text{超過収益の標準偏差(トラッキングエラー)}$

■シャープレシオ・・・リスク調整済みリターンを計測する手法で、ポートフォリオにおける超過リターンがポートフォリオのリスクに占める割合を示します。

計算式: $(\text{ファンドの収益率} - \text{安全資産}) \div \text{ファンドの標準偏差}$

運用実績の推移

		(単位: %)				(単位: %)					過去3年の累計				過去5年の累計			
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	年率 換算前(%)	年率 換算後(%)	インフォメーション レシオ	シャープ レシオ	年率 換算前(%)	年率 換算後(%)	インフォメーション レシオ	シャープ レシオ
国内債券口	ファンド	0.02	▲ 0.14	▲ 0.67	▲ 1.59	0.53	▲ 2.60	0.74	▲ 0.39	▲ 1.74	▲ 3.95	▲ 1.33	0.92	▲ 0.59	▲ 4.06	▲ 0.83	1.09	▲ 0.35
	ベンチマーク	▲ 0.18	▲ 0.70	▲ 1.22	▲ 1.65	0.41	▲ 2.97	0.89	▲ 0.51	▲ 2.20	▲ 4.98	▲ 1.69	-	-	▲ 5.82	▲ 1.19	-	-
	超過収益	0.20	0.56	0.55	0.06	0.12	0.37	▲ 0.15	0.12	0.46	1.04	0.36	-	-	1.75	0.37	-	-
国内株式口 1型	ファンド	▲ 8.46	46.49	5.09	5.10	15.90	2.67	2.23	19.44	45.29	60.47	17.06	0.97	1.42	115.18	16.54	0.99	1.18
	ベンチマーク	▲ 9.50	42.13	1.99	5.81	14.45	2.45	2.04	18.14	41.34	52.53	15.10	-	-	96.19	14.41	-	-
	超過収益	1.04	4.35	3.10	▲ 0.72	1.45	0.22	0.19	1.30	3.95	7.94	1.96	-	-	18.99	2.13	-	-
国内株式口 2型	ファンド	▲ 13.15	41.60	2.85	6.03	14.31	4.79	1.82	18.81	44.91	58.02	16.46	0.92	1.35	94.33	14.19	▲ 0.11	0.97
	ベンチマーク	▲ 9.50	42.13	1.99	5.81	14.45	2.45	2.04	18.14	41.34	52.53	15.10	-	-	96.19	14.41	-	-
	超過収益	▲ 3.65	▲ 0.53	0.86	0.21	▲ 0.14	2.34	▲ 0.21	0.67	3.57	5.49	1.36	-	-	▲ 1.86	▲ 0.22	-	-
外国債券口	ファンド	5.78	5.22	1.52	▲ 1.21	7.76	▲ 1.68	3.13	5.03	14.76	15.10	4.79	▲ 0.64	0.72	28.10	5.07	▲ 0.10	0.90
	ベンチマーク	4.37	5.43	1.96	▲ 0.50	7.62	▲ 0.71	2.26	5.48	15.27	16.94	5.35	-	-	28.68	5.17	-	-
	超過収益	1.41	▲ 0.21	▲ 0.44	▲ 0.71	0.14	▲ 0.96	0.86	▲ 0.46	▲ 0.50	▲ 1.85	▲ 0.56	-	-	▲ 0.58	▲ 0.10	-	-
為替ヘッジ 外債口	ファンド	8.88	▲ 2.51	▲ 5.48	▲ 10.59	▲ 2.26	▲ 4.47	5.11	▲ 2.27	▲ 4.09	▲ 18.94	▲ 6.75	▲ 0.62	▲ 0.98	▲ 13.95	▲ 2.96	▲ 0.21	▲ 0.47
	ベンチマーク	7.46	▲ 1.85	▲ 5.12	▲ 10.25	▲ 2.11	▲ 3.71	4.48	▲ 1.90	▲ 3.39	▲ 17.73	▲ 6.29	-	-	▲ 13.22	▲ 2.79	-	-
	超過収益	1.42	▲ 0.65	▲ 0.36	▲ 0.34	▲ 0.15	▲ 0.76	0.63	▲ 0.37	▲ 0.70	▲ 1.21	▲ 0.46	-	-	▲ 0.73	▲ 0.16	-	-
外国株式口	ファンド	▲ 9.07	61.96	21.44	1.99	16.43	▲ 1.53	5.45	16.53	40.88	74.49	20.37	▲ 0.70	1.31	156.96	20.75	0.21	1.19
	ベンチマーク	▲ 12.42	59.79	22.95	2.36	16.25	▲ 0.36	5.58	16.87	42.92	79.88	21.59	-	-	151.75	20.26	-	-
	超過収益	3.34	2.16	▲ 1.51	▲ 0.37	0.18	▲ 1.17	▲ 0.12	▲ 0.34	▲ 2.04	▲ 5.39	▲ 1.22	-	-	5.21	0.49	-	-
国内株式口 パッシブ型	ファンド	▲ 9.56	42.32	1.98	5.80	14.38	2.48	2.04	18.09	41.25	52.40	15.06	-	-	96.17	14.41	-	-
	ベンチマーク	▲ 9.50	42.13	1.99	5.81	14.45	2.45	2.04	18.14	41.34	52.53	15.10	-	-	96.19	14.41	-	-
	超過収益	▲ 0.05	0.19	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.06	0.03	0.00	▲ 0.05	▲ 0.09	▲ 0.13	▲ 0.03	-	-	▲ 0.03	▲ 0.00	-	-
外国株式口 パッシブ型	ファンド	▲ 12.35	59.63	22.84	2.47	16.36	▲ 0.34	5.53	17.12	43.33	80.42	21.72	-	-	152.43	20.32	-	-
	ベンチマーク	▲ 12.42	59.79	22.95	2.36	16.25	▲ 0.36	5.58	16.87	42.92	79.88	21.59	-	-	151.75	20.26	-	-
	超過収益	0.06	▲ 0.16	▲ 0.12	0.11	0.12	0.02	▲ 0.05	0.25	0.41	0.54	0.12	-	-	0.68	0.07	-	-
短期資金口	ファンド	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	-	-	0.01	0.00	-	-
	ベンチマーク	▲ 0.05	▲ 0.03	▲ 0.02	▲ 0.03	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.00	0.00	▲ 0.03	▲ 0.08	▲ 0.03	-	-	▲ 0.16	▲ 0.03	-	-
	超過収益	0.05	0.03	0.03	0.03	0.01	0.01	0.00	▲ 0.00	0.03	0.09	0.03	-	-	0.17	0.03	-	-

注1) 各ファンドの収益率はユニット価格伸び率です。

注2) 過去3年の累計は2021年度から、過去5年の累計は2019年度から2023年度までの累計実績です。

■インフォメーションレシオ…リスクを加味した超過収益の尺度で、超過収益獲得の効率性を示します。

計算式: ファンドの超過収益 ÷ 超過収益の標準偏差 (トラッキングエラー)

■シャープレシオ…リスク調整済みリターンを計測する手法で、ポートフォリオにおける超過リターンがポートフォリオのリスクに占める割合を示します。

計算式: (ファンドの収益率-安全資産) ÷ ファンドの標準偏差

*投資対象別口は、アクティブファンド(短期資金口を除く)についてインフォメーションレシオ、シャープレシオを表示。

算出にあたり、全て年率換算後の数値を使用しています。

受託実績の推移

(単位:百万円、件)

	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末	2021 年度末	2022 年度末	2023年 6月末	2023年 9月末	2023年 12月末	2024年 3月末
総 合 口	193,511 (604)	139,596 (492)	159,040 (449)	155,764 (402)	152,108 (393)	165,265 (393)	166,268 (396)	174,916 (414)	197,633 (429)
第 2 総 合 口	475,094 (846)	614,981 (1,027)	685,632 (1,140)	848,219 (1,373)	832,435 (1,400)	840,680 (1,400)	796,999 (1,388)	783,397 (1,371)	771,341 (1,355)
第 3 総 合 口	— —	46,499 (78)	62,345 (87)	66,834 (91)	51,661 (79)	46,675 (76)	39,883 (72)	38,301 (67)	39,504 (65)
総合口戦略的資産配分型	— —	— —	— —	— —	5,240 (19)	11,823 (32)	27,316 (51)	35,013 (73)	36,579 (80)
債 券 総 合 口	113,346 (122)	121,719 (134)	130,589 (150)	163,035 (182)	144,596 (173)	141,893 (170)	127,541 (165)	123,035 (149)	110,729 (141)
年金債務対応総合口	25,056 (11)	30,622 (10)	21,141 (10)	25,503 (10)	22,013 (9)	22,268 (9)	21,319 (10)	22,190 (11)	21,564 (11)
ヘッジ外債総合口 I 型	— —	— —	— —	12,866 (5)	20,715 (12)	14,577 (13)	13,510 (12)	14,016 (13)	14,777 (14)
グローバル株式総合口 I 型	— —	— —	— —	4,010 (3)	4,481 (5)	5,100 (5)	963 (4)	995 (4)	2,209 (5)
マルチストラテジー総合口 I 型	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	11,203 (19)	19,964 (39)
国 内 債 券 口	93,489 (114)	88,105 (101)	75,253 (86)	69,948 (76)	69,092 (76)	69,064 (74)	70,614 (71)	69,577 (68)	74,576 (68)
国内株式口 1 型	19,556 (29)	15,190 (24)	16,299 (19)	17,687 (21)	19,202 (21)	21,807 (20)	21,993 (19)	22,270 (20)	23,480 (22)
国内株式口 2 型	32,072 (83)	25,105 (67)	22,401 (53)	23,017 (47)	24,783 (48)	26,981 (47)	29,128 (46)	27,106 (45)	27,729 (43)
国内株式口パッシブ型	25,042 (42)	19,408 (42)	20,652 (41)	18,445 (40)	18,649 (39)	19,735 (38)	20,851 (39)	22,175 (40)	25,000 (41)
外 国 債 券 口	48,083 (116)	42,126 (99)	37,042 (86)	32,782 (80)	31,426 (79)	33,147 (76)	33,808 (75)	34,030 (74)	36,274 (75)
為替ヘッジ外債口	20,027 (43)	19,746 (30)	17,514 (23)	18,450 (23)	19,755 (22)	19,500 (22)	17,976 (20)	18,579 (20)	18,482 (19)
外 国 株 式 口	9,728 (36)	8,931 (27)	11,318 (21)	13,449 (22)	14,666 (22)	16,596 (20)	15,667 (19)	16,423 (20)	18,477 (18)
外国株式口パッシブ型	56,375 (96)	50,380 (93)	66,928 (87)	65,998 (79)	64,003 (78)	70,528 (75)	72,380 (75)	73,469 (76)	77,776 (78)
短 期 資 金 口	39,257 (185)	40,105 (178)	64,495 (170)	30,030 (153)	26,963 (150)	27,782 (143)	27,221 (140)	25,131 (143)	29,067 (150)
投資対象別口合計	348,519 (185)	312,168 (178)	335,655 (170)	292,128 (153)	290,599 (150)	307,352 (143)	311,832 (140)	309,500 (143)	331,669 (150)
指数連動型配当口合計	— —	— —	— —	5,107 (479)	3,140 (494)	3,572 (492)	2,422 (492)	3,208 (507)	5,770 (503)
特別勘定特約合計	1,164,003 (1,493)	1,270,132 (1,576)	1,397,593 (1,631)	1,573,466 (2,011)	1,526,988 (2,021)	1,559,204 (2,018)	1,508,051 (2,016)	1,515,775 (2,014)	1,551,739 (2,006)

注1) 受託額はファンド全体の時価残高、()内は受託件数です(特別勘定第2特約は含めておりません)。

注2) 第3総合口は2019年4月、総合口戦略的資産配分型は2022年10月、ヘッジ外債総合口 I 型は2021年4月、グローバル株式総合口 I 型は2022年1月、マルチストラテジー総合口 I 型は2023年10月、指数連動型配当口は2021年10月より運用を開始しています。

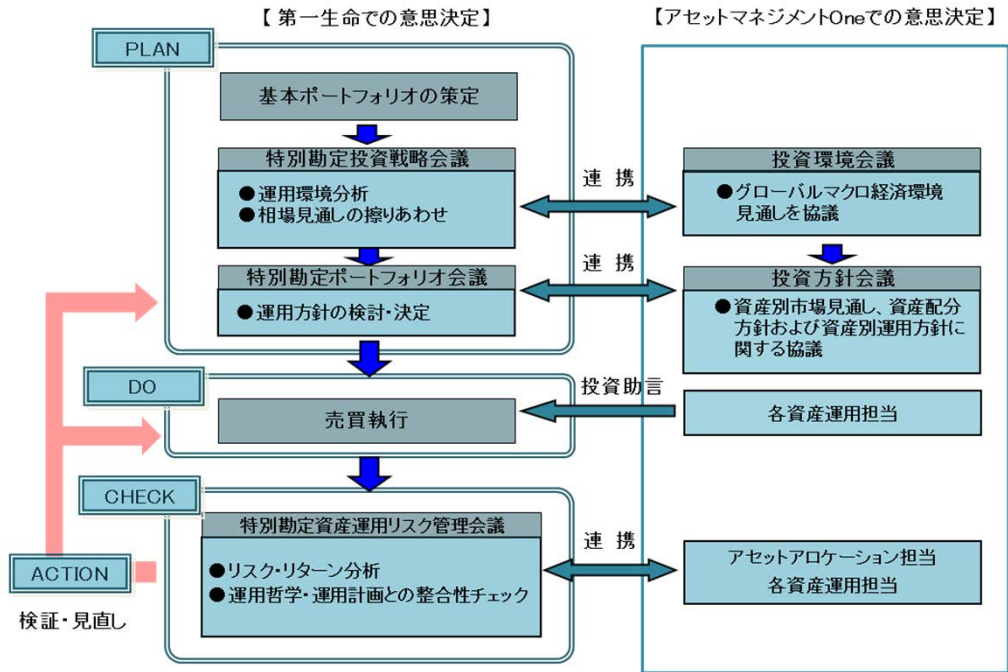
注3) 2024年3月末時点での特別勘定受託額および受託件数は、当報告書発行時点で判明している速報値です。

注4) 2018年度末～2020年度末の特別勘定特約合計には債券総合口ハイブリッド型の時価残高、受託件数が含まれています。

注5) 投資対象別口合計および特別勘定特約合計には新興国株式口の時価残高、受託件数が含まれます。

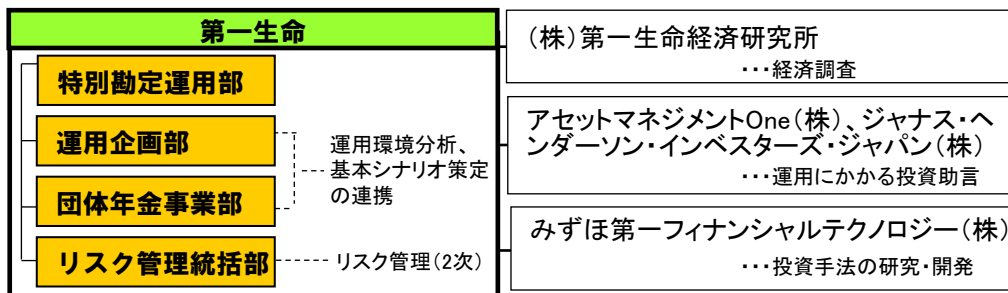
特別勘定の運用体制(意思決定プロセス)

<アセットマネジメントOne(株)の投資助言を活用した運用(定性分析に基づく運用)>



<その他>

- 定量分析に基づく運用については意思決定プロセスを記載しておりません。
- 投資助言を活用しない運用については、単一の投資信託を高位に組み入れる運用を行うため、意思決定プロセスを記載しておりません。



特別勘定の運用については、第一生命の運用部門、アセットマネジメントOne(株)、ジャナス・ヘンダーソン・インベスターズ・ジャパン(株)、(株)第一生命経済研究所および、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー(株)と連携しています。

※上記内容は、資料作成時点におけるものです。

特別勘定の売買執行体制等

■ 執行体制について

当社では、特別勘定運用部に売買執行を専門に行うトレーダー・チームを配置しています。国内債券、国内株式、外国債券、外国株式につき、それぞれ担当のトレーダーが執行を行います。

■ 最良執行の考え方

最良執行とは「お客さまの利益の最大化を目的とした適切な売買の執行」であるとの認識に立ち、ポートフォリオマネージャーによる投資意思決定を受けたトレーダーは、売買手数料のみならず売買執行に係わる総合的なコストを勘案しつつ、迅速かつ効率的に売買執行するよう努めます。

■ 売買執行プロセス

- 株式**・発注先については、信用リスク、情報提供能力、売買執行能力、売買委託手数料、事務処理能力などを総合的に勘案して決定しています。また、これらの選定項目について、定期的に評価を行い発注に反映させています。
- 取引執行コストについては、売買委託手数料のような直接コストに加え、執行に係わるその他の間接コストも含めた総合的な管理を行っています。
- 債券**・発注先については、信用リスク、情報提供能力、売買執行能力、玉の保有状況、事務処理能力などを総合的に勘案して決定しています。
- 執行に際しては、複数社へのヒアリングを基本とし、価格・金利条件の最も有利な証券会社と約定を行います。

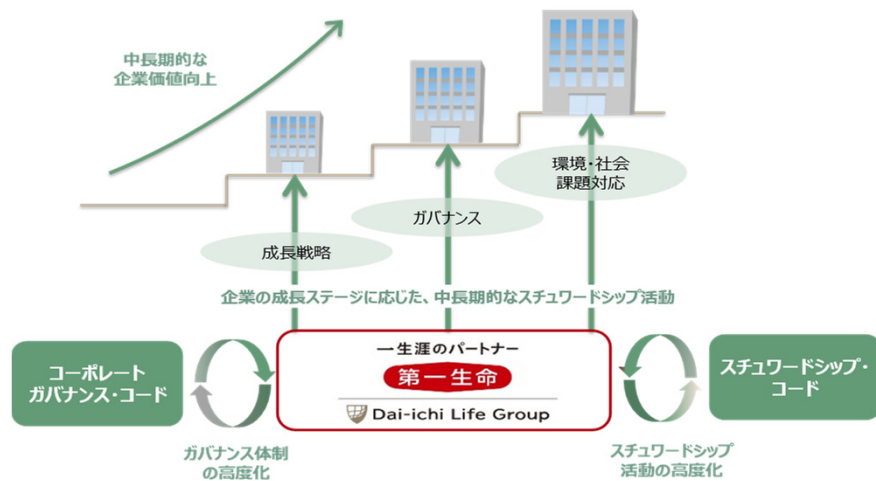
■ ソフトダラー取引について

当社特別勘定においては、原則としてソフトダラー取引を行いません。(当社特別勘定では、ソフトダラーを証券会社への有価証券の売買発注と引き換えに、当該証券会社または第三者から提供される有価証券の売買以外のサービスと定義しています。)但し、調査レポートなど投資意思決定を行うために必要なリサーチサービスであって、商品化されていないものについては、売買発注と分離して別途料金を支払って提供を受ける方法が現実には存在していないという実態を勘案し、ソフトダラーとはみなしません。

「日本版スチュワードシップ・コード」に関する取組

スチュワードシップ活動の基本的な考え方

- ◆ 「一生涯のパートナー」をグループミッションに掲げる「第一生命らしい」スチュワードシップ活動として、成長ステージ毎に異なる投融資先企業の課題に寄り添い、中長期的な企業価値向上の支援に取り組んでいます。
- ◆ スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードの両コードを踏まえ、取組みの高度化を積極的に推進しています。



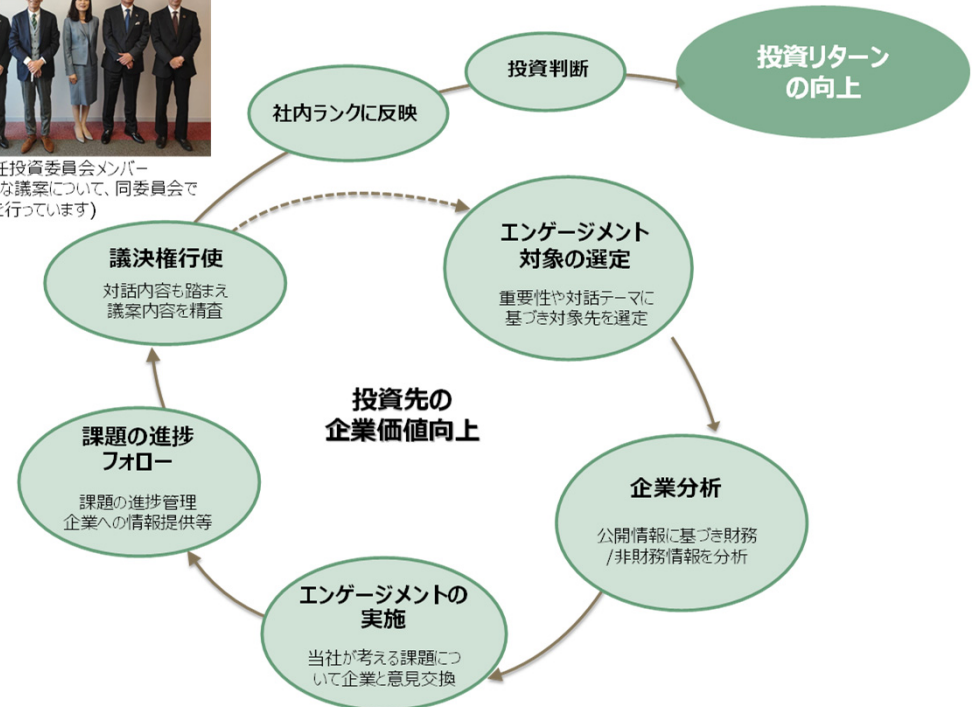
- ◆ 「日本版スチュワードシップ・コード」への取組方針などにつきましては、当社HPをご参照ください。
<https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ssc.html>
- ◆ 「日本版スチュワードシップ・コード」への取組を含む第一生命の「責任投資活動報告」を、当社HPに掲載しております。
<https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ri-report.html>

スチュワードシップ活動のプロセス

- ◆ エンゲージメントを重視したスチュワードシップ活動を通じて、投融資先の企業価値向上を促し、当社の中長期的な投資リターン向上を目指します。



※責任投資委員会メンバー
(重要な議案について、同委員会
で審議を行っています)



「日本版スチュワードシップ・コード」に関する取組

エンゲージメントの課題進捗フォロー

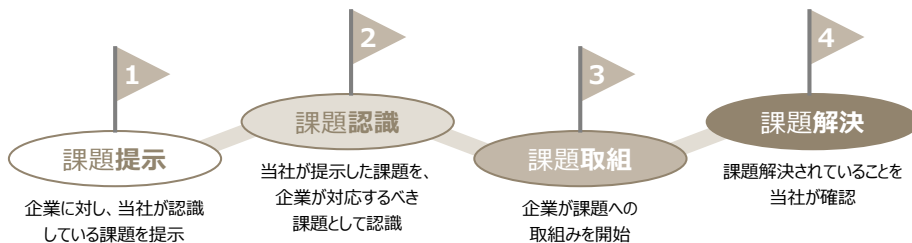
- ◆ エンゲージメントを踏まえた課題の進捗状況を定期的にフォローし、課題に応じた情報提供の実施などを通じて、投資先企業の課題解決を支援しています。

2022年度振り返り

(対象期間：2022年7月～2023年6月)

- ◆ エンゲージメント対象先として、当社ポートフォリオにおけるGHG排出上位50社のほか、保有金額や株主順位等の重要性を踏まえつつ、重点対話テーマや経営戦略・ガバナンス等の視点で企業を選定し、計188社とエンゲージメントを実施しました。
- ◆ GHG排出削減に関する目標設定・ロードマップ策定、経営環境の変化を見据えた収益性向上・経営戦略の策定、不祥事発生後のガバナンス体制の向上、などについて、エンゲージメント対象企業に対して新たに課題として設定しました。

4段階のマイルストーン管理



テーマ毎の課題の事例

環境・社会課題

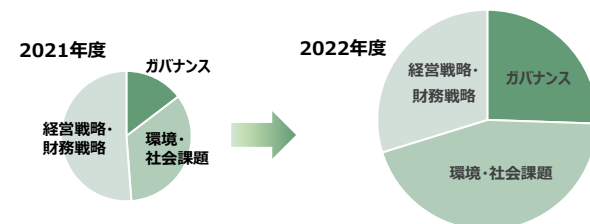
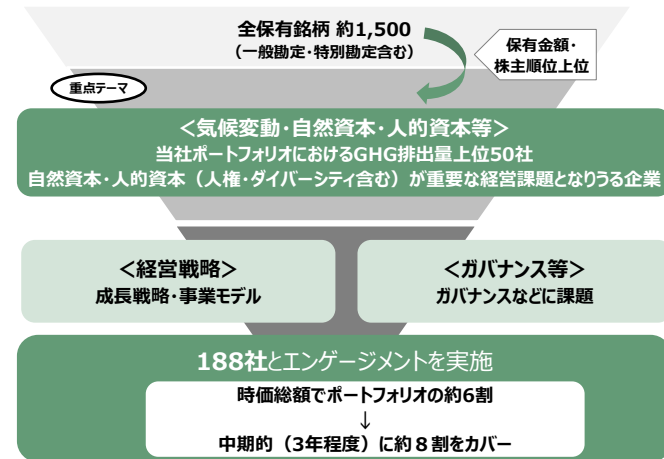
- 気候変動問題への対応
- 人的資本の活用・人権デュー・デリジェンス
- 自然資本・生物多様性への取組み

ガバナンス

- 独立社外取締役の活用
- 取締役会構成・実効性
- 指名・報酬
- 親子上場

経営・財務戦略

- マテリアリティの特定と経営戦略への反映
- 中期経営計画・KPIの策定・開示、妥当性
- 事業ポートフォリオ
- 資本コストを上回る資本効率
- 資本政策の策定・開示（投資・株主還元・内部留保）
- 株主還元方針・水準
- 政策保有株式



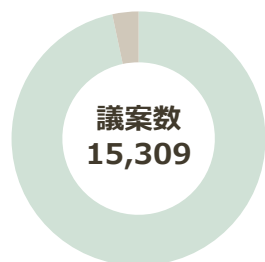
「日本版スチュワードシップ・コード」に関する取組

議決権行使結果（2022年7月～2023年6月）

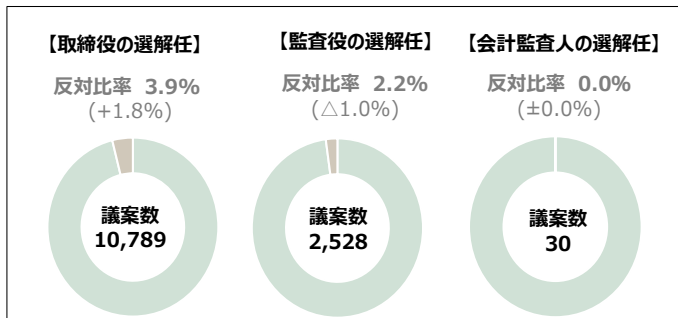
- ◆ 投資先企業との中長期的なエンゲージメントを重視していることから、会社提案議案に対する反対比率は相対的に低位にとどまっています。
- ◆ 業績不振基準抵触による取締役選解任議案の反対比率上昇を受け、会社提案議案全体の反対比率も前年度比で上昇しました。
- ◆ 株主提案議案につきましては、中長期的な企業価値向上に資するかどうか、という観点から賛否を判断しており、この結果、賛成議案は2議案となっております。

会社提案議案

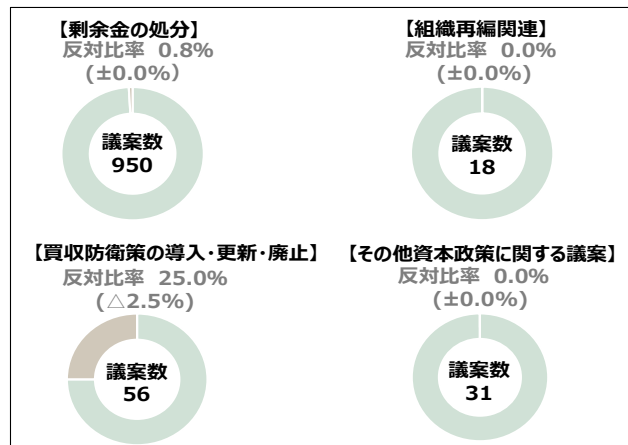
反対比率 3.3% (+1.3%)



■ 会社機関に関する議案

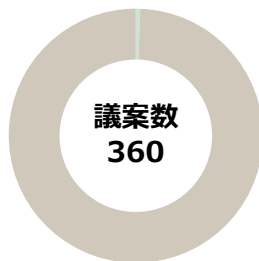


■ 資本政策に関する議案（定款に関する議案を除く）

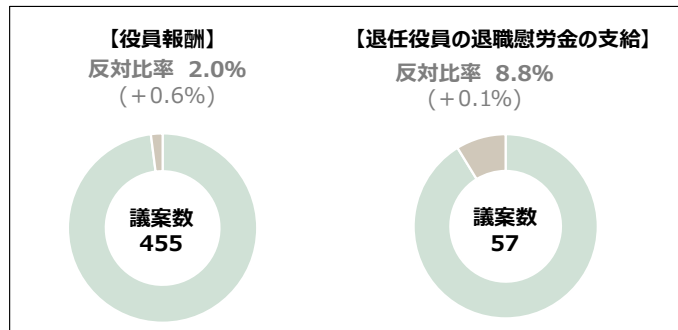


株主提案議案

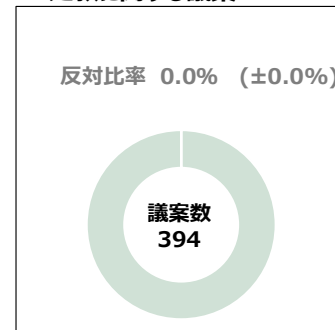
賛成比率 0.6% (+0.6%)



■ 役員報酬に関する議案



■ 定款に関する議案



カッコ内は前年度比

※議決権行使基準や個別の行使結果等については、当社ホームページにおける開示資料をご覧ください。 <https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/ssc2.html>

「企業年金受託業務に係る内部統制報告書」にかかる外部監査の対象及び結果の概要

当社では、お客さまの企業年金に関する内部統制の評価にご利用いただくために、当社の内部統制の有効性についてご報告する「企業年金受託業務に係る内部統制報告書」(以下、「内部統制報告書」)を作成しております。当社の「内部統制報告書」の外部監査の対象及び結果の概要は以下のとおりです。*

※平成25年7月より改正「保険業法施行規則」の施行に伴い、運用報告書に以下の記載が求められています。

<<外部監査の対象及び結果の概要>>

【日本公認会計士協会監査・保証実務委員会発行の保証業務実務指針3402に基づく外部監査】

1. 保証報告書及びその対象となっている受託業務の方針と手続(以下「システム」という)に関する記述書の名称:

企業年金の受託業務のシステムに関する記述書ならびに内部統制のデザインおよび運用状況に関する保証報告書

2. 保証業務の対象期間:2023年1月1日から2023年12月31日

3. 外部監査人の名称:有限責任あずさ監査法人

4. 対象業務:

特別勘定に係る年金資産の運用・管理業務および退職給付会計計算の実施に係る業務

5. 外部監査人の意見の内容:以下のそれぞれの点に関する外部監査人の意見(無限定意見)

(1)受託業務のシステムに関する記述書(以下「記述書」という)の適正な表示

記述書は、対象期間にわたってデザインされ業務に適用されている企業年金の受託業務のシステムを、全ての重要な点において適正に表示している。

(2)記述書に記載された統制目的に関連する内部統制の適切なデザイン

記述書に記載された統制目的に関連する内部統制は、対象期間にわたって、全ての重要な点において適切にデザインされている。

(3)記述書に記載された統制目的に関連する内部統制の有効な運用

記述書に記載された統制目的の達成について合理的な保証を提供するために必要なものとして、運用評価手続を実施した内部統制は、対象期間にわたって、全ての重要な点において有効に運用されている。

【米国公認会計士協会発行の保証業務基準320(AT-C320)を含む保証業務基準および国際監査・保証基準審議会発行の国際保証業務基準3402(ISAE3402)に基づく外部監査】

1. システムに関する記述書の名称:

企業年金の受託業務のシステムに関する記述書ならびに内部統制のデザインの適切性および運用状況の有効性に関する保証報告書

2. 保証業務の対象期間:2023年1月1日から2023年12月31日

3. 外部監査人の名称:有限責任あずさ監査法人

4. 対象業務:

特別勘定に係る年金資産の運用・管理業務および退職給付会計計算の実施に係る業務

5. 外部監査人の意見の内容:以下のそれぞれの点に関する外部監査人の意見(無限定意見)

(1)記述書の適正な表示

記述書は、対象期間にわたってデザインされ業務に適用されているシステムを適正に表示している。

(2)記述書に記載された統制目的に関連する内部統制の適切なデザイン

当社及び第一生命テクノクロス株式会社(2024年3月31日以前の商号は第一生命情報システム株式会社)の内部統制が対象期間にわたって有効に運用されており、また、除外方式の再受託会社及び委託会社が当社の内部統制のデザインにおいて想定した相補的な内部統制を対象期間にわたって適用していたならば、記述書に記載された統制目的に関連する内部統制は、対象期間にわたって統制目的を達成することに合理的な保証を提供するよう適切にデザインされている。

(3)記述書に記載された統制目的に関連する内部統制の有効な運用

除外方式の再受託会社及び委託会社が当社の内部統制のデザインにおいて想定した相補的な内部統制を対象期間にわたって有効に運用していたならば、当社及び第一生命テクノクロス株式会社(2024年3月31日以前の商号は第一生命情報システム株式会社)の内部統制は、対象期間にわたって記述書に記載された統制目的の達成について合理的な保証を提供するよう有効に運用されている。

留意事項:

上記は、「記述書」及び「記述書」に記載された統制目的に関連する内部統制を対象として、外部監査人である有限責任 あずさ監査法人が独立の立場から行った検証について、当社が、業務の対象と結果の概要を要約して記載したものです。

外部監査人からは、この運用報告書をご覧になる皆さまに、以下のような業務の特質を十分にご理解いただくことが必要となる旨の説明を受けております。

- ▶ 上記の意見は、運用報告書に記載された財務数値それ自体を保証するものではありません。
- ▶ 上記の意見は、内部統制の固有の限界を前提として表明されており、内部統制のデザイン及び運用において誤謬又は脱漏を完全に防止又は発見修正していることを保証するものではありません。
- ▶ 上記の意見は、運用報告書に記載された財務数値の適正な表示を確保するための全ての重要な内部統制を必ずしも対象とするものではなく、「記述書」に当社が重要と考えて記載したシステム及び統制目的に関連する内部統制のみを対象として表明されています。したがって、「記述書」は、運用資産の一部に係るシステム及び内部統制のみを対象としております。また、当社が再受託会社に再委託している業務に係るシステム並びに内部統制のデザイン及び運用状況については、第一生命テクノクロス株式会社(2024年3月31日以前の商号は第一生命情報システム株式会社)に委託しているソフトウェア開発・各種コンピュータ処理に関する業務を除き対象としておりません。
- ▶ 「保証報告書」には、業務の前提や「記述書」の範囲について誤った理解に基づく利用を防止するために、当社に業務を委託している会社とその監査人のみが利用する旨が記載されております。

なお、上記の保証業務の概要の記載を適切に理解いただくために、その記載の基礎となった「記述書」及び「保証報告書」を直接ご参照いただき、そこに記載された業務の前提及び対象とする個別の内部統制の範囲について、十分にご理解いただくことが必要であると考えられます。

当社においては、上記の外部監査人である有限責任 あずさ監査法人との合意の下、当社が各種企業年金保険の特別勘定特約を受託しているお客さま、退職給付債務等の計算業務を受託しているお客さまを対象に、インターネットで内部統制報告書を閲覧できるサービスを提供しております。サービス利用方法の詳細につきましては、当社担当者宛にお問い合わせください。

また、上記の外部監査の対象及び結果の概要に関する転載等については外部監査人の了解が必要となりますため、事前に当社にご相談ください。

※ご参考※

「内部統制報告書」は、日本公認会計士協会監査・保証実務委員会発行の保証業務実務指針3402、米国公認会計士協会発行の保証業務基準320(AT-C320*)を含む保証業務基準および国際監査・保証基準審議会発行の国際保証業務基準3402 (ISAE3402**)を考慮して作成されています。

* ATとは、米国公認会計士協会発行の保証業務基準書「Statement on Standards for Attestation Engagements」に紐づく保証業務基準「Attestation Standards」の略称。

** ISAE3402とは、「International Standard on Assurance Engagements 3402」の略称。

「財務諸表監査」及び「内部統制監査」にかかる外部監査の対象及び結果の概要

当社では、財務諸表及び財務報告に係る内部統制報告書について、当社と特別の利害関係のない監査法人の監査証明を受けております。

当社の「財務諸表監査及び内部統制監査」の外部監査の対象及び結果の概要は以下のとおりです。*

※平成25年7月より改正「保険業法施行規則」の施行に伴い、運用報告書に以下の記載が求められております。

<<外部監査の対象及び結果の概要>>

1. 財務諸表監査の概要

- (1) 外部監査人の名称: 有限責任 あずさ監査法人
- (2) 財務諸表監査の対象事業年度: 第7期(2022年4月1日から2023年3月31日)
- (3) 監査意見の類型
 - ・会社法第436条第2項第1号に基づく会計監査人監査: 無限定適正意見
 - ・保険業法第110条第2項の規定に基づき作成された財務諸表の任意監査: 無限定適正意見

2. 財務報告に係る内部統制監査の概要

- (1) 外部監査人の名称: 有限責任 あずさ監査法人
- (2) 財務報告に係る内部統制の監査の対象事業年度: 第7期(2022年4月1日から2023年3月31日)
- (3) 監査意見の類型
 - 財務報告に係る内部統制報告書に関する任意監査: 無限定適正意見

リスク管理基準

特別勘定運用部が一次的なリスク管理を行います。

二次的なリスク管理はリスク管理統括部が担当し、以下のルールにより日次もしくは月次で管理しています。

毎月1回開催される特別勘定資産運用リスク管理会議において、運用全般にわたるリスク状況を確認し、必要があれば対応措置をとります。

■ リスク管理ルール(信用リスク・市場リスク)

総合口および投資対象別口		第2総合口				
国内債券	<ul style="list-style-type: none"> 円建外債、金融債及び事業債(新株予約権付社債を除く)については、外部格付がBBB-以上のものを対象とし、外部格付がBB+以下の銘柄については、原則として投資は行わないものとします。ただし、ベンチマークの採用銘柄に外部格付がBB+以下の銘柄が含まれる場合、上記に関わらず、当該銘柄に対する投資を行うことがあります。 発行体、残存期間などについて、適切な分散化を図ります。 同一の発行体が発行した債券(国債、地方債および特別の法律により法人の発行する債券で金融債以外のものを除く)への投資は、ファンド内の円貨建公社債の時価残高の10%を上限とします。 修正デュレーション [総合口][国内債券口]対ベンチマーク比 70~130% 	<ul style="list-style-type: none"> 目標リスクの上限を7%とします。 各資産の組み入れ比率の上限は下記のとおり設定します。 (先進国株式)30% (新興国国債)(新興国株式)各10% (内外REIT)5% 各資産の目標リスクの上限は下記のとおり設定します。 (先進国国債)7% (先進国株式)参照ベンチマークの推定リスクの範囲内 				
為替ヘッジ外債	<ul style="list-style-type: none"> 原則、ベンチマーク採用銘柄に投資を行います。 ベンチマーク採用銘柄以外の外貨建公社債については、原則、外部格付機関のいずれかによりAA-以上を取得している銘柄に投資を行います。 発行体、残存期間などについて、適切な分散化を図ります。 同一の発行体が発行した債券(国債を除く)への投資は、ファンド内の外貨建公社債の時価残高の10%を上限とします。 通貨別構成比 [総合口][為替ヘッジ外債口]対ベンチマーク比(北米)±20% (ユーロ)±25% (その他)±15% 修正デュレーション [総合口][為替ヘッジ外債口]対ベンチマーク比 70~130% 	<ul style="list-style-type: none"> 最大ドローダウンおよび投資対象銘柄の保有数量の上限管理を行います。 				
国内株式	<ul style="list-style-type: none"> 業種、銘柄などについて、適切な分散化を図ります。 同一の発行体への投資は、原則として、ファンド内の円貨建株式の時価残高の10%を上限とします。 推定トラッキングエラー [総合口][国内株式口1型]0.5~6% [国内株式口2型]0.5~3% [国内株式口パッシブ型]0~0.5% 	<h3>債券総合口</h3> <ul style="list-style-type: none"> 目標リスクの上限を5%とします。 各資産の組み入れ比率の上限は下記のとおり設定します。 (先進国国債)80% (新興国国債)10% (グローバル社債)30% 				
外国債券	<ul style="list-style-type: none"> 上記『為替ヘッジ外債』と同じ。 推定トラッキングエラー [総合口][外国債券口]0~3% 	<h3>年金債務対応総合口</h3> <ul style="list-style-type: none"> リスク性資産(グローバル社債、国内株式、外国株式)の合計は、ファンド残高の50%を上限とします。 				
外国株式	<ul style="list-style-type: none"> 対象国、通貨、業種、銘柄などについて、適切な分散化を図ります。(なお、総合口については、収益機会の多様化の観点から、外国株式の一部としてアジア新興国株式を組み入れます。) 同一の発行体への投資は、ファンド内の外貨建株式の時価残高の10%を上限とします。 推定トラッキングエラー [総合口](外国株式)0.5~5% [外国株式口]0.5~5% [外国株式口パッシブ型]0~0.5% 	<h3>共通</h3> <table border="1"> <tr> <td>短期資金</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> コールローン、預金などの運用先については、一定の社内基準を満たした金融機関に限定しています。 </td> </tr> <tr> <td>先物等のデリバティブ取引</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 組入比率100%の範囲内での活用とします。 </td> </tr> </table>	短期資金	<ul style="list-style-type: none"> コールローン、預金などの運用先については、一定の社内基準を満たした金融機関に限定しています。 	先物等のデリバティブ取引	<ul style="list-style-type: none"> 組入比率100%の範囲内での活用とします。
短期資金	<ul style="list-style-type: none"> コールローン、預金などの運用先については、一定の社内基準を満たした金融機関に限定しています。 					
先物等のデリバティブ取引	<ul style="list-style-type: none"> 組入比率100%の範囲内での活用とします。 					
新興国株式	<ul style="list-style-type: none"> 対象国、通貨、業種、銘柄などについて、適切な分散化を図ります。 同一の発行体への投資は、ファンド内の外貨建株式の時価残高の10%を上限とします。 推定トラッキングエラー [総合口](アジア新興国株式)0.5~8% [新興国株式口]0.5~6.0% ※現物株式以外の上場投資信託(ETF)・預託証券(DR)を含めて管理します。 					

各種情報発信のご案内

■年金通信WEB

2013年7月1日より第一生命オフィシャルホームページの団体年金部分を一部改定し、年金通信専用のサイト(以下『年金通信WEB』)を新設いたしました。これにより迅速な情報開示が可能となり、用語検索機能なども付加したことで、利便性が大幅に改善されました。また、Eメール通知サービスを併用いただくことにより、お客さまに必要な情報をタイムリーにお届けいたします。サービス詳細につきましては下段のご案内をご覧ください。

■第一生命オフィシャルホームページ上での情報提供

(https://www.dai-ichi-life.co.jp/legal/dantai_tokubetsu/index.html)

特別勘定の運用体制・方針、商品内容、運用実績、またお客さまの年金資産(積立金)の運用状況等をご確認いただけます。

■四半期ごとのご報告

「特別勘定資産運用状況報告書」(お客さま、各ファンドの運用状況報告書)、「特別勘定運用のご報告」(経済・市場概況、運用概況、経済・市場見通し、運用方針等の詳細な内容)を四半期ごとに行っています。

『年金通信WEB』のご案内

「年金通信WEB」では、団体年金関連の情報提供誌(以下年金通信)をご覧ください。また、Eメール通知サービスにご登録いただきますと、新しい年金通信が発行されるたびに更新案内をお届けします。

◆年金通信 発信内容

<マーケット情報>

- 特勘☆Market Report-weekly-(週次)/-special-(臨時)

<ファンド情報>

- 特勘☆ユニット価格速報
(月2回/ユニット価格の実績速報および月次マーケット情報)

<その他情報>

- 特別勘定☆NEWS(臨時/特別勘定に係るお知らせ全般)

<制度情報>

- 年金トピック(臨時/年金制度に関する情報提供)
- 数理室だより(臨時/年金用語解説)

なお、Eメール通知サービスのご利用に関しましては、「年金通信WEB」から直接ご登録いただくか、当社担当者宛お問い合わせください。

要因分析の見方

■ファンド収益率

厳密法による時間加重収益率です。ファンド全体の合計はユニット価格伸び率です。

■ファンド構成比

測定期間内の日々時価平均残高構成比です。

■ベンチマーク収益率

国内債券(総合口)・国内債券口……………NOMURA-BPI 総合

国内株式(総合口)・国内株式口……………TOPIX(配当込み)

外国債券(総合口)・外国債券口……………FTSE-WGBI(除く日本、円ベース)

為替ヘッジ外債(総合口)／

為替ヘッジ外債口……………FTSE-WGBI(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

外国株式(総合口)・外国株式口……………MSCI-KOKUSAI(円ベース、配当再投資、GROSS)

アジア新興国株式(総合口)……………MSCI-EM ASIA(円ベース、配当再投資、GROSS)

グローバル株式

(グローバル株式総合口I型)……………MSCI-ACWI(円ベース、配当再投資、GROSS)

短期資産等(総合口)・短期資金口……………コールレート(無担保、翌日)

注)上記インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、当該インデックスの公表元またはその許諾者に帰属します。なお、これらの公表元または許諾者は、当該インデックスを利用した当社の事業活動等に関して一切責任を負いません。

注)NOMURA-BPI 総合 短期(1年以上3年未満)、中期(3年以上7年未満)、長期(7年以上)は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスを用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

■ベンチマーク構成比

総合口

測定期間内の日次平均構成比より算出しています。

■各種効果の見方

ファンド全体(総合口)

資産配分効果 ……基本ポートフォリオと違った構成にすることによる効果

個別資産効果 ……各資産毎のベンチマーク対比での効果

複合効果 ……資産配分と個別資産によって同時に生ずる効果

なお、各効果は日々計算したものを累積しており、時価の変動が大きい場合は複合効果が大きくなる場合があります。

特別勘定特約に関する重要なお知らせ

※本お知らせは保険業法第300条の2に準用される金融商品取引法第37条にもとづき、特別勘定特約に関して表示すべき広告等規制に関して記載するものです。

1. 特別勘定特約の特徴

- (1) 特別勘定特約を付加した契約は、保険業法第300条の2に定める「特定保険契約」に該当します。
- (2) 特別勘定における資産運用の成果がご契約者の期待どおりでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償、補填をすることはありません。
- (3) 特別勘定での運用は、ご契約者が特別勘定の特徴を十分理解したうえで、ご契約者の判断と責任において行っていただく必要があります。
- (4) 確定給付企業年金保険、厚生年金基金保険(Ⅱ)および新企業年金保険(Ⅱ)の一般勘定(主契約)の責任準備金(保険料積立金)を財源とした特別勘定への資金振替を行う場合には、資金振替に伴う一般勘定の責任準備金の減少額に対し、振替調整金を一般勘定より徴収させていただきます(保険料入金・受託金融機関間の移受管において一般勘定を経由して当社所定の日に特別勘定へ振替られる場合を除きます)。
- (5) 振替調整金については、「ご契約のしおり・約款」をご参照ください。

2. 特別勘定特約のお申し込みに際して

- (1) 特別勘定特約の申込みを行うに際しては「ご契約のしおり(契約締結前交付書面)」に記載されている商品の仕組み・特徴・ご契約者の負うリスク等、保険契約者として理解しておくべき内容について説明を受け、その内容について十分ご確認いただき、ご不明な点等は、必ず当社担当者にお問い合わせいただきますようお願いいたします。

3. 損失発生リスクとその発生理由

- (1) 特別勘定特約は、一般勘定(主契約)の責任準備金(保険料積立金)の一部を特別勘定で運用し、この運用実績を直接、責任準備金(保険料積立金)に反映させる仕組みの商品です。
- (2) 特別勘定は、国内外の公社債、株式等を運用対象とするため、「株価の下落」「金利の上昇による債券価格の下落」「円高による外貨建資産価値の下落」等といった投資対象資産の価格下落リスクは責任準備金(保険料積立金)の下落要因となります。資産運用の結果は、その損失も含めてご契約者に帰属します。
- (3) 経済情勢や運用成果のいかんにより高い収益を期待できる反面、元本(特別勘定に投入された保険料の合計額)の保証はなく、運用実績が元本を下回ることがあり、損失を生じる可能性があります。
- (4) 確定給付企業年金保険、厚生年金基金保険(Ⅱ)および新企業年金保険(Ⅱ)に、「市中金利に応じた解約調整金等の計算に関する特則」が付加されている場合、振替調整金の額は市中金利に応じて変動します。この場合、振替調整金は、10年利付国債の応募者利回りを指標として、「解約等申し込み時の応募者利回り」が「過去5年間の平均応募者利回り」を上回る場合(金利上昇局面等)に発生します。このため、適用時の金利状況によっては元本割れとなる可能性があります。

4. 特別勘定資産保全措置について

- (1) 特別勘定特約を付加した団体年金保険契約は、保険業法第118条第1項に定める運用実績連動型保険契約に該当します。この保険契約の特別勘定にかかる部分については、生命保険会社破綻時の更生手続きにおいて責任準備金を削減しない更生計画を作成することが可能です(実際に削減しないか否かは個別の更生手続きの中で確定することになります)。また、この保険契約の特別勘定にかかる部分については、生命保険契約者保護機構の補償対象契約からは除外されます。

5. 責任準備金等の削減について

- (1) 生命保険会社の業務または財産の状況の変化により、責任準備金および給付金等の削減など、ご契約にあたってお約束した契約条件が変更されることがあります。
- (2) 生命保険契約者保護機構の会員である生命保険会社が経営破綻に陥った場合、生命保険契約者保護機構により保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約にあたってお約束した条件が変更されることがあります。詳細については、生命保険契約者保護機構までお問い合わせください。

(問い合わせ先) 生命保険契約者保護機構 電話03(3286)2820

月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く)午前9時～正午、午後1時～午後5時

ホームページアドレス <https://www.seihohogo.jp/>

6. 契約内容の一部変更について

- (1) 生命保険会社は、金利水準の低下その他の著しい経済変動などこの契約の締結の際に予見しえない事情の変更または確定給付企業年金法もしくは同法に基づく命令の改正または厚生年金保険法もしくは同法にもとづく命令の改正により特に必要と認められた場合には、保険業法および同法に基づく命令の定めるところにより主務官庁に届け出たうえで、保険料、解約返戻金および責任準備金の計算の基礎を変更することがあります。この場合、変更日の2か月前までにご契約者にその旨を通知します。

7. 保険契約の締結と生命保険募集人の権限

- (1) 当社の担当者(生命保険募集人)は、お客さまと当社の保険契約締結の媒介を行う者であり、保険契約締結の代理権はありません。したがって、保険契約はお客さまからの保険契約のお申し込みに対して、当社が承諾したときに有効に成立します。

8. 共同取扱契約について

- (1) 複数の生命保険会社による共同取扱契約の場合、当社は、当社の受託した積立金額に対して保険契約上の権利を有し義務を負い、他の受託生命保険会社と連帯することはありません。

9. 当資料に関する留意事項

- (1) 当資料に記載の年金制度、会計の取り扱い等の情報については、特に断りのない限り、2024年4月現在の法令等にもとづいたものであり、将来的に変更されることがあります。
- (2) 当資料におけるシミュレーションは、一定の前提条件にもとづく概算計算であり、計算結果をお約束するものではありません。
- (3) 当資料に関する権利は当社に帰属し、当資料の一部または全部の無断複写・複製、第三者への開示を禁じます。
- (4) 当資料は制度運営ご担当者さま向けに作成されたものであり、一般従業員さま(団体構成員さま)へのご提示を目的としたものではありません。
- (5) 当資料は当該商品の運用スタイル・運用手法に関するご説明を目的としたものです。

10. 手数料等

(1) 特別勘定特約に関する手数料(付加保険料)のうち、指数連動型配当口に関する手数料を除いた部分は、当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち特別勘定部分の経過責任準備金を各口ランクごとの金額に分け(円貨建株式口は1型・2型を通算)、それぞれに所定の手数料の率を乗じて得た金額の合計額を毎年ご負担いただきます。以下の手数料率表については、経過責任準備金ランクの上限および下限のみ記載しております。

(2) 手数料表において、経過責任準備金は保険契約ごとに下表のとおりとなります。

商品	経過責任準備金
確定給付企業年金保険特別勘定特約	特別勘定運用部分(各口)の月始時価平均残高
厚生年金基金保険特別勘定特約	特別勘定運用部分(各口)の月央時価平均残高
厚生年金基金保険(Ⅱ)特別勘定特約	
新企業年金保険特別勘定特約	主契約に「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されている場合 …特別勘定運用部分(各口)の月始時価平均残高
	主契約に「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されていない場合 …特別勘定運用部分(各口)の月始元本平均残高
新企業年金保険(Ⅱ)特別勘定特約	特別勘定運用部分(各口)の月始時価平均残高

(3) 指数連動型配当口に関する手数料(付加保険料)は、指数連動型配当口設定時の責任準備金の額に0.280%を乗じて得た金額を毎年ご負担いただきます。

※指数連動型配当口は確定給付企業年金保険、厚生年金基金保険(Ⅱ)、新企業年金保険(Ⅱ)をご契約の場合、採用いただくことができます。

※手数料は、お客さまが加入する各口に対してかかる手数料(付加保険料)の合計額です。消費税は別途申し受けます。なお、本手数料には、一般勘定(主契約)の付加保険料、制度管理等にかかる各種業務委託費、年金数理人費は含まれておりません。

※固有の保険事務費とは別に、以下の費用については運用費用の一部として間接的にご負担いただきます。

- 資産運用の過程で売買の際に発生する売買委託手数料や、売買委託手数料に関する消費税に相当する金額、先物取引・オプション取引等に要する諸費用。なお、売買委託先、売買金額等によって手数料率変動する等の理由から、これらの計算方法は表示しておりません。

- 運用効率の観点等から投資信託による運用を行う場合、投資信託に係る信託報酬および運用報酬以外の管理報酬やその他費用等。なお、信託報酬およびその他費用等については投資信託の運用会社や投資対象資産によって手数料率が異なる等の理由から、計算方法を表示しておりません。ただし、第2総合口、総合口戦略的資産配分型、総合口下方リスク限定型、債券総合口、年金債務対応総合口および指数連動型配当口における私募投資信託、およびヘッジ外債総合口I型、グローバル株式総合口I型、マルチストラテジー総合口I型における外国投資信託の手数料については、私募投資信託・外国投資信託の概要(後述)をご覧ください。

- 総合口下方リスク限定型が投資対象とする私募投資信託においては成功報酬および成功報酬の消費税に相当する金額。なお、成功報酬は、私募投資信託の基準価額を日次判定し、運用会社の設定する所定の水準を上回った場合に、その超過分に対してかかります。

- マルチストラテジー総合口I型が投資対象とする外国投資信託においては成功報酬。なお、成功報酬は、預かり資産の純資産総額を日次判定し、運用会社の設定する所定の水準を上回った場合に、その超過分に対してかかります。

■手数料率表

●確定給付企業年金保険 ●新企業年金保険(Ⅱ)	総合口	第2 総合口	第3 総合口	総合口 戦略的 資産配分型	総合口 下方リスク 限定型	債券 総合口	年金債務 対応 総合口	ヘッジ外債 総合口I型	グローバル 株式 総合口I型	マルチ ストラテジー 総合口I型	円貨建 公社債口	円貨建 株式口 1型・2型	円貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 公社債口	外貨建公 社債口為 替ヘッジ型	外貨建 株式口	外貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 株式口 新興国型	短期 資金口
手数料上限 (1,000万円以下の部分)	0.600%	0.600%	0.700%	0.635%	0.370%	0.590%	0.640%	0.745%	0.955%	1.505%	0.450%	0.700%	0.400%	0.750%	0.750%	0.800%	0.500%	0.800%	0.050%
手数料下限 (500億円超の部分)	0.220%	0.220%	0.320%	0.255%	0.065%	0.210%	0.260%	0.365%	0.575%	1.125%	0.155%	0.230%	0.110%	0.230%	0.230%	0.240%	0.210%	0.240%	0.050%

●厚生年金基金保険	総合口	第2 総合口	債券 総合口	年金債務 対応 総合口	円貨建 公社債口	円貨建 株式口 1型・2型	円貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 公社債口	外貨建公 社債口為 替ヘッジ型	外貨建 株式口	外貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 株式口 新興国型	短期 資金口
手数料上限 (10億円以下の部分)	0.440%	0.440%	0.430%	0.480%	0.330%	0.520%	0.400%	0.550%	0.550%	0.600%	0.500%	0.600%	0.050%
手数料下限 (500億円超の部分)	0.220%	0.220%	0.210%	0.260%	0.155%	0.230%	0.110%	0.230%	0.230%	0.240%	0.210%	0.240%	0.050%

●厚生年金基金保険(Ⅱ)	総合口	第2 総合口	債券 総合口	年金債務 対応 総合口	円貨建 公社債口	円貨建 株式口 1型・2型	円貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 公社債口	外貨建公 社債口為 替ヘッジ型	外貨建 株式口	外貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 株式口 新興国型	短期 資金口
手数料上限 (1,000万円以下の部分)	0.600%	0.600%	0.590%	0.640%	0.450%	0.700%	0.400%	0.750%	0.750%	0.800%	0.500%	0.800%	0.050%
手数料下限 (500億円超の部分)	0.220%	0.220%	0.210%	0.260%	0.155%	0.230%	0.110%	0.230%	0.230%	0.240%	0.210%	0.240%	0.050%

●新企業年金保険(「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されている場合)	総合口	第2 総合口	第3 総合口	総合口 戦略的 資産配分型	総合口 下方リスク 限定型	債券 総合口	年金債務 対応 総合口	ヘッジ外債 総合口I型	グローバル 株式 総合口I型	マルチ ストラテジー 総合口I型	円貨建 公社債口	円貨建 株式口 1型・2型	円貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 公社債口	外貨建公 社債口為 替ヘッジ型	外貨建 株式口	外貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 株式口 新興国型	短期 資金口
手数料上限 (1,000万円以下の部分)	0.830%	0.830%	0.930%	0.865%	0.600%	0.820%	0.870%	0.975%	1.185%	1.735%	0.620%	0.970%	0.400%	1.030%	1.030%	1.120%	0.500%	1.120%	0.050%
手数料下限 (500億円超の部分)	0.220%	0.220%	0.320%	0.255%	0.065%	0.210%	0.260%	0.365%	0.575%	1.125%	0.155%	0.230%	0.110%	0.230%	0.230%	0.240%	0.210%	0.240%	0.050%

●新企業年金保険(「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されていない場合)	総合口	第2 総合口	第3 総合口	総合口 戦略的 資産配分型	総合口 下方リスク 限定型	債券 総合口	年金債務 対応 総合口	ヘッジ外債 総合口I型	グローバル 株式 総合口I型	マルチ ストラテジー 総合口I型	円貨建 公社債口	円貨建 株式口 1型・2型	円貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 公社債口	外貨建公 社債口為 替ヘッジ型	外貨建 株式口	外貨建 株式口 ハッジ型	外貨建 株式口 新興国型	短期 資金口
手数料上限 (1,000万円以下の部分)	0.670%	0.670%	0.770%	0.705%	0.440%	0.660%	0.710%	0.815%	1.025%	1.575%	0.500%	0.790%	0.360%	0.835%	0.835%	0.910%	0.450%	0.910%	0.045%
手数料下限 (500億円超の部分)	0.180%	0.180%	0.280%	0.215%	0.025%	0.170%	0.220%	0.325%	0.535%	1.085%	0.130%	0.190%	0.090%	0.190%	0.190%	0.200%	0.170%	0.200%	0.045%

<ご参考>

確定給付企業年金保険、厚生年金基金保険、厚生年金基金保険(Ⅱ)、新企業年金保険、新企業年金保険(Ⅱ)における一般勘定(主契約)の付加保険料について

(1)確定給付企業年金保険

確定給付企業年金保険における一般勘定(主契約)に関する手数料(付加保険料)は、次の金額となります。

当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち一般勘定部分の経過責任準備金(月始元本平均残高)に0.150%を乗じて得た金額。

(2)厚生年金基金保険

厚生年金基金保険における一般勘定(主契約)の手数料(付加保険料)は、次の①②の合計額となります。

①当社に払い込まれた主契約協定書に定める基本保険料のうち、一般勘定に係る基本保険料に0.5%を乗じて得た額。

②生命保険会社全体※の経過責任準備金に所定のランクごとに対応する率(上限:0.150%、下限:0.100%)を乗じた金額の合計額に、生命保険会社全体の経過責任準備金(月中央本平均残高)のうち当社の一般勘定部分の経過責任準備金(月中央本平均残高)の割合を乗じて得た額。

※生命保険会社において、固有の保険事務費の算出を自社の主契約または特約の残高のみで行っている部分の資産は除きます。

(3)厚生年金基金保険(Ⅱ)

厚生年金基金保険(Ⅱ)における一般勘定(主契約)に関する手数料(付加保険料)は、次の金額となります。

当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち一般勘定部分の経過責任準備金(月中央本平均残高)に0.150%を乗じて得た金額。

(4)新企業年金保険

新企業年金保険における一般勘定(主契約)に関する手数料(付加保険料)は、次の金額となります。

①「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されているご契約の場合

当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち一般勘定部分の経過責任準備金(月始元本平均残高)をランクごとの金額に分け、それぞれに所定の手数料の率(上限:0.800%、下限:0.150%)を乗じて得た金額の合計額。

②「保険料に係る特別な取扱いに関する特則」が適用されていないご契約の場合

ご契約内容に応じて、以下(ア)と(ウ)の合計額、または(イ)と(ウ)の合計額のいずれかの金額となります。

(ア)生命保険会社受託分全体の純保険料をランクごとの金額に分け、それぞれに所定の手数料の率(上限:8.0%、下限:1.0%)を乗じて得た金額の合計額のうち、当社の引受割合に相当する金額。

(イ)生命保険会社受託分全体の年間営業保険料をランクごとの金額に分け、それぞれに所定の割合(上限:70/1,080、下限:0)を乗じて得た金額の合計額を、生命保険会社受託分全体の純保険料に8%を乗じた金額から差し引いた金額のうち、当社の引受割合に相当する金額。

(ウ)生命保険会社の一般勘定部分における経過責任準備金(月始元本平均残高)をランクごとの金額に分け、それぞれに所定の手数料の率(上限:0.650%、下限:0.100%)を乗じて得た金額の合計額に、生命保険会社全体の一般勘定部分の経過責任準備金のうちの当社分の一般勘定部分の経過責任準備金の割合を乗じた金額。

(5)新企業年金保険(Ⅱ)

新企業年金保険(Ⅱ)における一般勘定(主契約)に関する手数料(付加保険料)は、次の金額となります。

当社が引受けるご契約者の年金資産(責任準備金)のうち一般勘定部分の経過責任準備金(月始元本平均残高)に0.150%を乗じて得た金額。

※消費税は別途申し受けます。

※上記の手数料には、制度管理等にかかる各種業務委託費、年金数理人費は含まれておりません。

「厚生年金基金保険特別勘定特約」について、1997年3月31日までに特別勘定特約が付加されている契約で、かつ1997年4月1日以降においても総合口（従来の特別勘定特約）のみで運用を行う場合においては、特別勘定特約の1997年3月31日以前の従前の手数料体系が適用されます。ただし、総合口以外での運用を開始した場合は、その時点から総合口部分も含め、前記の手数料体系が適用されることとなります。

＜厚生年金基金保険 特別勘定特約の1997年3月31日以前の従前の手数料体系＞

特別勘定特約の固有の保険事務費（手数料）は、以下の（1）（2）の合計額となります。

（1）掛金比例部分：当社に払い込まれた主契約協定書に定める基本保険料のうち、特別勘定特約に係る基本保険料に0.5%を乗じて得た額。

（2）年金資産比例部分：生命保険会社全体の経過責任準備金を下表の各ランクごとに対応する率を乗じた金額の合計額に、生命保険会社全体の経過責任準備金のうち当社の総合口部分の経過責任準備金の割合を乗じて得た額。

生命保険会社全体の経過責任準備金ランク	年金資産比例部分の各ランクごとに対応する率
10億円以下の部分	0.370%
10億円超 50億円以下の部分	0.320%
50億円超 100億円以下の部分	0.270%
100億円超 500億円以下の部分	0.220%
500億円超 1,000億円以下の部分	0.190%
1,000億円超 2,000億円以下の部分	0.170%
2,000億円超の部分	0.150%

※左記には消費税は含まれておりません。

※左記には主契約の固有の保険事務費は含まれておりません。

※生命保険会社全体の経過責任準備金には一般勘定資産を含み、経過責任準備金の評価基準は一般勘定資産は月央元本残高、特別勘定資産は月央時価残高としております。

11. 特別勘定特約の運用方法について

（1）以下に掲げる口では、記載の投資対象において私募投資信託等を用いて運用を行います。投資対象の詳細については、「ご契約のしおり」および別途資料にてご案内申し上げます。

- 第2総合口：新興国国債、新興国株式、REIT（不動産投資信託証券）はアセットマネジメントOne株式会社が運用する私募投資信託を利用
- 総合口戦略的資産配分型：アセットマネジメントOne株式会社が運用する私募投資信託を利用
- 総合口下方リスク限定型：パーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社が運用する私募投資信託を利用
- 債券総合口：先進国国債（日本含む）、新興国国債、グローバル社債はアセットマネジメントOne株式会社が運用する私募投資信託を利用
- 年金債務対応総合口：為替ヘッジ外債、グローバル社債、国内株式、外国株式はアセットマネジメントOne株式会社が運用する私募投資信託を利用
- ヘッジ外債総合口 I 型：マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが運用する外国投資信託を利用
- グローバル株式総合口 I 型：マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが運用する外国投資信託を利用
- マルチストラテジー総合口 I 型：マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッドが運用する外国投資信託を利用
- 指数連動型配当口：シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社が運用する私募投資信託を利用

（2）年金債務対応総合口が想定する年金債務は、当社設定の標準的な企業年金の負債属性を前提にしており、お客さま個々の年金債務と必ずしも一致するものではありません。

私募投資信託・外国投資信託の概要

特別勘定特約 第2総合口について

第2総合口の投資対象である新興国債、新興国株式、REIT(不動産投資信託証券)は私募投資信託を用いて運用を行います。詳細は以下の通りとなります。

※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

新興国債	ファンド名	エマージング債券リスク抑制型(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主としてエマージング債券パッシブ・マザーファンド受益証券に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース・為替ヘッジなし)の動きを概ね捉える投資成果を目指して運用を行います。</p> <p>② 原則として、マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持します。</p> <p>③ 実質組入債券は、当初組入時において、S&PもしくはMoody'sの外貨建て長期格付がBB-格もしくはBa3格以上を取得している債券とします。但し、両社が格付を付与している場合には、どちらか低い方の格付を基準とします。また、当ファンドが実質的に保有する債券の格付が上記基準未満となった場合は、当該債券を速やかに売却するものとします。</p> <p>④ 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑤ 信託財産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等、スワップ取引、外国為替予約取引、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 【マザーファンド】	<p>マザーファンド(ファンド名:エマージング債券パッシブ・マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として新興国の債券に投資し、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・プラス(円換算ベース・為替ヘッジなし)の動きを概ね捉える投資成果を目指して運用を行います。</p> <p>② 原則として、新興国の債券の組入比率は高位を維持します。</p> <p>③ 組入債券は、当初組入時において、S&PもしくはMoody'sの外貨建て長期格付がBB-格もしくはBa3格以上を取得している債券とします。但し、両社が格付を付与している場合には、どちらか低い方の格付を基準とします。また、当ファンドが保有する債券の格付が上記基準未満となった場合は、当該債券を速やかに売却するものとします。</p> <p>④ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑤ 信託財産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等、スワップ取引、外国為替予約取引、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。</p> <p>⑥ ファンドの資金動向、市況動向等に急激な変化が生じた場合、ならびに純資産総額が運用に支障をきたす水準となった場合等、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。</p>
信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) (内訳) 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出	
新興国株式	ファンド名	エマージング株式ダイバーシファイド・インカム・プラス・ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として海外の金融商品取引所に上場している株式に投資し、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)を上回る運用効率(リスク調整後リターン)にて信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② 運用にあたっては、独自の定量モデルを活用した投資対象のインカム面での魅力度を測定し、最適手法によりポートフォリオを構築することで、安定的な収益の獲得をめざします。</p> <p>③ ポートフォリオの構築にあたっては、地域、業種、銘柄等の分散を行います。</p> <p>④ 株式の組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市況動向の急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、株式組入比率を引き下げる場合があります。</p> <p>⑤ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑥ 信託財産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等、スワップ取引、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことができます。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) (内訳) 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出

REIT	ファンド名	グローバルリート・ダイバーシファイド・インカム・プラス・ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場する不動産投資信託証券に投資し、S&P 先進国 REITインデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)を上回る運用効率率(リスク調整後リターン)にて信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② 運用にあたっては、独自の定量モデルを活用し投資対象のインカム面での魅力度を測定し、最適化手法によりポートフォリオを構築することで、安定的な収益の獲得をめざします。</p> <p>③ ポートフォリオの構築にあたっては、地域、銘柄等の分散を行います。</p> <p>④ 不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位を維持します。ただし、市況動向の急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、不動産投資信託証券の組入比率を引き下げることがあります。</p> <p>⑤ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑥ 信託財産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、有価証券先物取引等、スワップ取引、金利先渡し取引および為替先渡し取引を行うことができます。資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) (内訳) 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出

特別勘定特約 債券総合口について

債券総合口の投資対象である先進国国債(日本含む)、新興国国債、グローバル社債は私募投資信託を用いて運用を行います。詳細は以下の通りとなります。

※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

先進国国債	ファンド名	高格付グローバル債券スマートインカム戦略ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、「高格付グローバル債券スマートインカム戦略マザーファンド」受益証券への投資を通じて、各国の国債に実質的に投資します。</p> <p>② マザーファンドの投資比率は、原則として高位を維持します。</p> <p>③ 実質外貨建て資産については、原則として為替をヘッジします。</p> <p>ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 【マザーファンド】	<p>マザーファンド(ファンド名:高格付グローバル債券スマートインカム戦略マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 各国の国債への投資を通じて、インカムゲイン及びキャピタルゲインの獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本国債および債券格付けまたは発行体格付けがAA-格以上の日本を除くFTSE世界国債インデックス構成国の国債を投資対象とします。 ただし、利子等に源泉徴収税が課される国および、通貨規制がある国は投資対象から除く場合があります。 <p>② 組入れ銘柄比率は以下の手順で決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記対象国の国債をアセットマネジメントOneが独自に決定した年限ゾーンに分け、各年限ゾーンで各国の「投資魅力度」(*)を算出。 各年限ゾーン内にて、各国の「投資魅力度」をもとに、国別配分ウェイトを算出。 各年限ゾーンの「投資魅力度」をもとに、各年限のウェイトを決定。 <p>(※)「投資魅力度」とは、アセットマネジメントOneが独自に計算する指標です。具体的には、利回り、ロールダウン収益、金利変動等を基準として計算します。</p> <p>③ 投資対象国及び国別年限別配分比率は原則として月に一回見直しを行います。但し、保有する債券の信用リスクが高まった場合や、投資対象としての流動性等が大きく低下したと判断される場合には、上記にかかわらず配分比率を見直す場合があります。</p> <p>④ 外貨建て資産については原則として対円での為替ヘッジを行います。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) <内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出	

グローバル社債	ファンド名	グローバル投資適格社債ファンド(為替フルヘッジ)(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、「米国投資適格社債ファンド・マザーファンド」受益証券、「欧州投資適格社債ファンド・マザーファンド」受益証券およびアジア通貨建て社債への投資を通じて、欧米およびアジアの投資適格社債に実質的に投資します。</p> <p>② アジア通貨建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。アジア通貨建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。債券に投資する場合、当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債については債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。</p> <p>③ マザーファンドおよびアジア通貨建て社債等の投資比率は、原則として高位を維持します。</p> <p>④ 実質外貨建て資産については、原則として為替フルヘッジを行います。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 【マザーファンド】	<p>マザーファンド(ファンド名:米国投資適格社債ファンド・マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、米ドル建て社債への投資を通じて、中長期的な信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 米ドル建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。米ドル建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。 当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債については債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。 <p>② ボトムアップ・リサーチにもとづく個別銘柄選択とマクロ経済分析にもとづくトップダウン・アプローチによる業種ウェイト判断を通じて、超過収益の確保を目指します。</p> <p>③ 社債等の組入比率は、原則として高位に保ちます。</p> <p>④ 社債等の運用にあたっては、Asset Management One U.S.A.,Inc.に運用の指図に関する権限の一部を委託します。</p> <p>⑤ 組入外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑥ ブルームバーグ・米国クレジット・インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)を上回る投資成果をめざします。</p> <p>⑦ ポートフォリオ全体の加重平均デュレーションは原則としてベンチマーク対比±0.5年以内とします。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>マザーファンド(ファンド名:欧州投資適格社債ファンド・マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、ユーロ建てまたは英ポンド建て社債への投資を通じて、中長期的な信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーロ建てまたは英ポンド建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。ユーロ建てまたは英ポンド建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。 当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債については債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。 <p>② ボトムアップ・リサーチにもとづく個別銘柄選択とマクロ経済分析にもとづくトップダウン・アプローチによる業種ウェイト判断を通じて、超過収益の確保を目指します。</p> <p>③ 社債等の組入比率は、原則として高位に保ちます。</p> <p>④ 組入外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑤ ブルームバーグ・汎欧州クレジット・インデックス(ユーロおよび英ポンド建てのみ、円ベース、為替ヘッジなし)を上回る投資成果をめざします。</p> <p>⑥ ポートフォリオ全体の加重平均デュレーションは原則としてベンチマーク対比±0.5年以内とします。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	<p>各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%)</p> <p><内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出</p>

新興国債	ファンド名	エマージング投資適格債券ファンド(為替フルヘッジ)(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、米ドル建て新興国債への投資を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J.P.モルガンEMBIプラス・投資適格インデックスを構成する新興国債を投資対象とします。 ・ 当初債券組入時において、Moody's社、S&P社、Fitch社のうち少なくともいずれか一社以上でBaa3またはBBB-以上の債券格付けまたは発行体格付けを有する国債を投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。 <p>② 新興国債の投資比率の決定にあたっては、原則としてJ.P.モルガンEMBIプラス・投資適格インデックスのうち投資対象とする国の構成比率に応じて投資比率を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ただし、信用リスクが高まる兆候にある国については、CDSフィルタリング(※)を適用することで投資対象から除外します。 (※)CDSフィルタリングとはアセットマネジメントOne独自の定量モデルであり、CDSの水準が一定の基準を上回った銘柄を投資対象から除外するものです。 <p>③ 新興国債の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>④ 新興国債等の運用にあたっては、Asset Management One U.S.A.Inc.に運用の指図に関する権限の一部を委託します。</p> <p>⑤ 外貨建て資産については、原則として為替フルヘッジを行います。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) <内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出

特別勘定特約 年金債務対応総合口について

年金債務対応総合口の投資対象である為替ヘッジ外債、グローバル社債、国内株式、外国株式は、私募投資信託を用いて運用を行います。詳細は以下の通りとなります。また、当商品が想定する年金債務は、当社設定の標準的な企業年金の負債属性を前提にしており、お客さま個々の年金債務と必ずしも一致するものではありません。※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

為替ヘッジ外債	ファンド名	高格付グローバル債券スマートインカム戦略ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、「高格付グローバル債券スマートインカム戦略マザーファンド」受益証券への投資を通じて、各国の国債に実質的に投資します。</p> <p>② マザーファンドの投資比率は、原則として高位を維持します。</p> <p>③ 実質外貨建て資産については、原則として為替をヘッジします。</p> <p>ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 [マザーファンド]	<p>マザーファンド(ファンド名:高格付グローバル債券スマートインカム戦略マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 各国の国債への投資を通じて、インカムゲイン及びキャピタルゲインの獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国債および債券格付けまたは発行体格付けがAA-格以上の日本を除くFTSE世界国債インデックス構成国の国債を投資対象とします。 ・ ただし、利子等に源泉徴収税が課される国および、通貨規制がある国は投資対象から除く場合があります。 <p>② 組入れ銘柄比率は以下の手順で決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記対象国の国債をアセットマネジメントOneが独自に決定した年限ゾーンに分け、各年限ゾーンで各国の「投資魅力度」(※)を算出。 ・ 各年限ゾーン内にて、各国の「投資魅力度」をもとに、国別配分ウェイトを算出。 ・ 各年限ゾーンの「投資魅力度」をもとに、各年限のウェイトを決定。 <p>(※)「投資魅力度」とは、アセットマネジメントOneが独自に計算する指標です。具体的には、利回り、ロールダウン収益、金利変動等を基準として計算します。</p> <p>③ 投資対象国及び国別年限別配分比率は原則として月に一回見直しを行います。但し、保有する債券の信用リスクが高まった場合や、投資対象としての流動性等が大きく低下したと判断される場合には、上記にかかわらず配分比率を見直す場合があります。</p> <p>④ 外貨建て資産については原則として対円での為替ヘッジを行います。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0660%(税抜0.06%) <内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0440%(税抜0.04%) ※消費税率:10%で算出

	ファンド名	グローバル投資適格社債ファンド(適格機関投資家限定)
グローバル社債	運用方針	<p>① 主として、「米国投資適格社債ファンド・マザーファンド」受益証券、「欧州投資適格社債ファンド・マザーファンド」受益証券およびアジア通貨建て社債への投資を通じて、米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建ておよびアジア通貨建て社債に実質的に投資します。</p> <p>② アジア通貨建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。アジア通貨建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。債券に投資する場合、当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債においては債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。</p> <p>③ マザーファンドおよびアジア通貨建て社債等の投資比率は、原則として高位を維持します。</p> <p>④ 実質組入外貨資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。</p> <p>ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>マザーファンド(ファンド名:米国投資適格社債ファンド・マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、米ドル建て社債への投資を通じて、中長期的な信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米ドル建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。米ドル建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。 ・当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債については債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。 <p>② ボトムアップ・リサーチにもとづく個別銘柄選択とマクロ経済分析にもとづくトップダウン・アプローチによる業種ウェイト判断を通じて、超過収益の確保を目指します。</p> <p>③ 社債等の組入比率は、原則として高位に保ちます。</p> <p>④ 社債等の運用にあたっては、Asset Management One U.S.A.,Inc.に運用の指図に関する権限の一部を委託します。</p> <p>⑤ 組入外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑥ ブルームバーグ・米国クレジット・インデックス(円ベース、為替ヘッジなし)を上回る投資成果をめざします。</p> <p>⑦ ポートフォリオ全体の加重平均デュレーションは原則としてベンチマーク対比±0.5年以内とします。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>マザーファンド(ファンド名:欧州投資適格社債ファンド・マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、ユーロ建てまたは英ポンド建て社債への投資を通じて、中長期的な信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーロ建てまたは英ポンド建て債券に投資する場合、原則として社債への投資を行います。ユーロ建てまたは英ポンド建ての国債、政府機関債、国際機関債等に投資する場合があります。 ・当初債券組入時において、債券格付けがMoody's社、S&P社、Fitch社のうち、少なくともいずれか一社でBaa3またはBBB-以上の格付けを有する債券を投資対象とします。国債については債券格付けまたは発行体格付けで同等以上の格付けが付与されているものを投資対象とします。なお、保有期間中に上記格付け条件を満たさなくなった場合には、原則として速やかに売却します。 <p>② ボトムアップ・リサーチにもとづく個別銘柄選択とマクロ経済分析にもとづくトップダウン・アプローチによる業種ウェイト判断を通じて、超過収益の確保を目指します。</p> <p>③ 社債等の組入比率は、原則として高位に保ちます。</p> <p>④ 組入外貨建て資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。</p> <p>⑤ ブルームバーグ・汎欧州クレジット・インデックス(ユーロおよび英ポンド建てのみ、円ベース、為替ヘッジなし)を上回る投資成果をめざします。</p> <p>⑥ ポートフォリオ全体の加重平均デュレーションは原則としてベンチマーク対比±0.5年以内とします。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	信託報酬	<p>各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0550%(税抜0.05%)</p> <p><内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0330%(税抜0.03%) ※消費税率:10%で算出</p>

国内株式	ファンド名	国内株式 下方リスク抑制戦略ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、「国内株式 下方リスク抑制戦略マザーファンド」受益証券への投資を通じて、国内の上場株式へ実質的に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 【マザーファンド】	<p>マザーファンド(ファンド名:国内株式 下方リスク抑制戦略マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、国内の上場株式に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② 投資対象銘柄の配当利回り水準、企業業績・財務情報や価格変動リスクに着目したアセットマネジメントOne独自の定量モデルにより個別銘柄の投資魅力度を測定します。</p> <p>③ 投資魅力度および業種、銘柄分散を考慮の上、下方リスク抑制戦略(※)によりポートフォリオを構築し、中長期的に東証株価指数(TOPIX)(配当込み)を上回る運用効率の実現を目指します。</p> <p>(※)「下方リスク抑制戦略」とは、個別銘柄の過去のリターン分布にもとづいて、ファンド収益率の下方リスクを抑えたポートフォリオを構築する戦略です。</p> <p>④ 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0550%(税抜0.05%) <内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0330%(税抜0.03%) ※消費税率:10%で算出	
外国株式	ファンド名	外国株式 下方リスク抑制戦略ファンド(適格機関投資家限定)
	運用方針	<p>① 主として、「外国株式 下方リスク抑制戦略マザーファンド」受益証券への投資を通じて、日本を除く先進国株式へ実質的に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>③ 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
	運用方針 【マザーファンド】	<p>マザーファンド(ファンド名:外国株式 下方リスク抑制戦略マザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。</p> <p>① 主として、MSCIコクサイ・インデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)構成銘柄および採用予定銘柄に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。</p> <p>② 投資対象銘柄の配当利回り水準、企業業績・財務情報や価格変動リスクに着目したアセットマネジメントOne独自の定量モデルにより個別銘柄の投資魅力度を測定します。</p> <p>③ 投資魅力度および地域、業種、銘柄分散を考慮の上、下方リスク抑制戦略(※)によりポートフォリオを構築し、中長期的にMSCIコクサイ・インデックス(円換算ベース、配当込み、為替ヘッジなし)を上回る運用効率の実現を目指します。</p> <p>(※)「下方リスク抑制戦略」とは、個別銘柄の過去のリターン分布にもとづいて、ファンド収益率の下方リスクを抑えたポートフォリオを構築する戦略です。</p> <p>④ 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>⑤ 組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.0550%(税抜0.05%) <内訳> 委託会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.0110%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0330%(税抜0.03%) ※消費税率:10%で算出	

第2総合口、債券総合口、年金債務対応総合口に係る共通事項

※第2総合口、債券総合口および年金債務対応総合口においてそれぞれ組み入れている私募投資信託に係る共通事項を記載しています。

共通事項	ファンド監査	EY新日本有限責任監査法人
	発行会社	アセットマネジメントOne株式会社
	販売会社	みずほ信託銀行株式会社
	受託銀行	みずほ信託銀行株式会社（再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行）
	ファンド関係者	<p>① アセットマネジメントOne株式会社 住所：東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 役割：信託財産の運用指図、基準価額の算出等 資本関係：第一生命ホールディングス株式会社の関連法人等 人的関係：無</p> <p>② みずほ信託銀行株式会社 住所：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 役割：販売の取扱い、信託財産の保管・管理等 資本関係：無 人的関係：無</p> <p>③ 株式会社日本カストディ銀行 住所：東京都中央区晴海一丁目8番12号 役割：みずほ信託銀行株式会社より、信託事務の一部を受託 資本関係：有 人的関係：無</p> <p>* 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、直近のご契約のしおり改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。なお、役員等は、取締役（社外取締役除く）、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。</p>
評価方法	<p>① 価格の算出方法 信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額を、計算日における受益権口数で除して算出します。外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金、その他の資産をいいます）の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。</p> <p>② 報告頻度・・・日次（営業日）</p> <p>③ 報告方法・・・株式会社野村総合研究所のFundWeb Transfer から自動配信</p>	

特別勘定特約 総合口戦略的資産配分型について

総合口戦略的資産配分型の運用にあたっては、以下の私募投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	AMOneマルチストラテジー型アセットアロケーションファンド2(適格機関投資家限定)
運用方針	① 主として、「マルチストラテジー型アセットアロケーションマザーファンド」受益証券への投資を通じて、国内外の株式・債券へ実質的に投資し、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。 ② マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
運用方針【マザーファンド】	マザーファンド(ファンド名:マルチストラテジー型アセットアロケーションマザーファンド)では以下の運用方針に則り運用を行います。 ① 運用者の投資ノウハウを定量化するテクノロジーを活用した複数の戦略を組み合わせることで、安定的な収益獲得および高い投資効率を目指した運用を行います。 ② 資産配分は、収益源泉の異なる複数の戦略を組み合わせた上で、シャープレシオが最大となるように調整し、市場動向に応じて随時リバランスを実施します。また、市場リスクが高まる際には、ポジションを縮小することでポートフォリオ全体のリスク抑制を図ります。 ③ 投資対象は、国内株式、外国株式、国内債券、外国債券、短期資金とします。 ④ ファンド全体のベンチマークは特に定めません。 ただし、ファンド資金動向、市況動向によっては上記のような運用ができない場合があります。
信託報酬	各ファンドの純資産総額に対して、年率0.055%(税抜0.05%) <内訳> 委託会社 年率0.011%(税抜0.01%) 販売会社 年率0.011%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.033%(税抜0.03%) ※消費税率:10%で算出
ファンド監査	EY新日本有限責任監査法人
発行会社	アセットマネジメントOne株式会社
販売会社	アセットマネジメントOne株式会社
受託銀行	みずほ信託銀行株式会社(再信託受託会社:株式会社日本カストディ銀行)
ファンド関係者	① アセットマネジメントOne株式会社 住所:東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 役割:販売の取扱い、信託財産の運用指図、基準価額の算出等 資本関係:第一生命ホールディングス株式会社の関連法人等 人的関係:無 ② みずほ信託銀行株式会社 住所:東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 役割:信託財産の保管・管理等 資本関係:無 人的関係:無 ③ 株式会社日本カストディ銀行 住所:東京都中央区晴海一丁目8番12号 役割:みずほ信託銀行株式会社より、信託事務の一部を受託 資本関係:無 人的関係:無 * 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。
評価方法	① 価格の算出方法 信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額を、計算日における受益権口数で除して算出します。外貨建資産(外国通貨表示の有価証券、預金、その他の資産をいいます)の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。 ② 報告頻度・・・日次(営業日) ③ 報告方法・・・株式会社野村総合研究所のFundWeb Transfer から自動配信

特別勘定特約 総合口下方リスク限定型について

総合口下方リスク限定型の運用にあたっては、以下の私募投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	VTX・BNPパリバ・マルチアセットファンド(適格機関投資家専用)
運用方針	①主に、参照指数を原資産とする複数のコールオプションへの投資を複製するエクセスリターンズスワップに投資します。 ②参照指数は、コアパートとサテライトパートから構成されます。コアパートでは、日米欧の株価指数先物および債券先物、コモディティ先物、金先物、米欧の短期金利先物を投資対象とします。サテライトパートでは、BNPパリバ証券株式会社が保有する各種のクオンツ投資戦略指数を投資対象とし、パーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社の運用助言に基づきポートフォリオ構築を行いません。 ③コールオプションへの投資によって、基準価額の最大下落率の抑制を図ります。また、一定の条件が揃った場合にはコールオプションの再設定を実施します。 ④中長期的に年率1.5～2%程度の期待収益率を目標とします。ファンド全体のリスクについては、年率1.5～2%程度をターゲットとします。また、基準価額の最大下落率を年度内で▲2%以内に抑えることを目標とします。 ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
委託会社	パーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社
受託会社	みずほ信託銀行（再信託受託会社：株式会社日本カストディ銀行）
販売会社	第一生命保険株式会社
ファンド監査	PwCあらた有限責任監査法人
ファンド関係者	①パーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社 住所：東京都千代田区有楽町一丁目13番1号 第一生命日比谷ファースト9階 役割：信託財産の運用指図、参照指数サテライトパートへの運用助言、基準価額の算出等 資本関係：有、人的関係：有 ②BNPパリバ証券株式会社 住所：東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 グラントウキョウ ノースタワー 役割：参照指数の開発、エクセスリターンズスワップのカウンターパーティー 資本関係：無、人的関係：無 ③みずほ信託銀行株式会社 住所：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 役割：信託財産の保管・管理等 資本関係：無、人的関係：無 ④株式会社日本カストディ銀行 住所：東京都中央区晴海一丁目8番12号 役割：みずほ信託銀行株式会社より、信託事務の一部を受託 資本関係：有、人的関係：無 * 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。 なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。
信託報酬	ファンドの純資産総額に対して、年率0.121%(税抜0.11%)の信託報酬が発生します。 <内訳> 委託会社 年率0.0935%(税抜0.085%) 販売会社 年率0.011%(税抜0.01%) 受託会社 年率0.0165%(税抜0.015%) ※消費税率：10%で算出
成功報酬	信託報酬に加えて、運用成績に応じた成功報酬が発生します。日々の基準価額が所定の水準(ハードル価額※1)を上回った場合に、その超過分に対して11%(税抜10%)を乗じて得た額を成功報酬額として翌営業日に費用計上します。 基準価額がハードル価額を下回った場合には、成功報酬は発生しません。成功報酬は、委託した資金の運用の対価として委託会社に支払われます。 成功報酬=(基準価額-ハードル価額)×11% ※1 ハードル価額は、最後に成功報酬が支払われた決算期末の基準価額となります。運用開始以後一度も成功報酬が発生していない場合のハードル価額は、10,000円です。
その他費用	エクセスリターンズスワップ内で複数のコールオプションの組成費用ならびに組成手数料が年率0.26%控除されます。(間接的にご負担いただく運用費用の一部です)
評価方法	①価格の算出方法 信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額を、計算日における受益権口数で除して算出します。 外貨建資産(外国通貨表示の有価証券、預金、その他の資産をいいます)の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。 予約為替の評価は、原則としてわが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。 ②報告頻度・・・日次(営業日) ③報告方法・・・株式会社野村総合研究所のFundWeb Transfer から自動配信

特別勘定特約 ヘッジ外債総合口 I 型について

ヘッジ外債総合口 I 型の運用にあたっては、以下の外国投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の外国投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	Mercer 1 Flexible Income Foreign Currency Bonds Cayman
運用方針	① 米国の主要な債券セクターおよび米国以外の国債を投資対象とし、安定的な高インカムを獲得と金利上昇による元本毀損の抑制をめざした運用を行います。 ② 中長期的に国内短期金利+2.0~2.5%の期待収益率を目標とします。 ③ 投資にあたっては、市場動向や経済動向、政治動向等に関するダブルライン・キャピタル・エルピー(以下、ダブルライン社)の見通しに基づいて、債券種別の配分比率等を変更します。 ④ ダブルライン社によるシナリオ分析やクレジット分析等を基に、組入銘柄を選択します。 ⑤ 原則として為替ヘッジを行い、対円での為替変動リスクの低減をはかります。 ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
受託会社	ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド
管理事務 代行会社	ステート・ストリート・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
投資顧問 会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
副投資 顧問会社	ダブルライン社
保管会社/ 副管理事務 代行会社	ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド
販売会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
ファンド監査	Deloitte & Touche LLP, Cayman Islands
ファンド関係者	① ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド 住所: 1 Nexus Way - Suite #5203 Heliconia Courtyard, Camana Bay, Grand Cayman, Cayman Islands 役割: ファンドの受託業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ② ステート・ストリート・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの基準価額の算出等 資本関係: 無 人的関係: 無 ③ マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド 住所: Charlotte House, Charlemont Street, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの運用指図、ファンドの販売促進及び販売支援等 資本関係: 無 人的関係: 無 ④ ダブルライン社 住所: 333 S Grand Ave 18th floor, Los Angeles, CA, United States 役割: ファンドの副投資顧問業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ⑤ ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: 有価証券の保護預かり業務 資本関係: 無 人的関係: 無 * 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、直近のご契約のしおり改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。
運用報酬	投資対象とする外国投資信託では運用報酬はかかりません。
評価方法	① 価格の算出方法 管理事務代行会社は、当該ファンドの各評価日の評価時点において、ファンドの基準通貨で、当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格を計算するものとします。 ファンドの純資産総額は、当該ファンドの総資産の価額を確定し、当該ファンドの総負債を差し引くことにより計算されるものとします。 当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は、評価日に発行されている当該ファンドの受益権総口数で当該ファンドの純資産価額を除すことによって、計算されるものとします。 特段の定めがない限り、ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は正午(アイルランド時間)に計算されるものとします。 ファンドの資産および負債は、目録見書に記載の投資顧問会社、管理事務代行会社、受託会社の間で合意されたバリュエーション・ポリシーに則って算出されます。 ② 報告頻度・・・日次(営業日) ③ 報告方法・・・管理事務代行会社から送付されるエクセルファイルまたは専用ウェブサイト(iFAST)より配信

特別勘定特約 グローバル株式総合口 I 型について

グローバル株式総合口 I 型の運用にあたっては、以下の外国投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の外国投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	Mercer 2 Quality Global Growth Equity Cayman
運用方針	① 世界の上場企業を実質的な投資対象とし、集中投資型の運用を行うことで、ベンチマークを上回る収益を目指します。 ② ベンチマークは、「MSCI-ACWI(円ベース、配当再投資、GROSS)」とします。 ③ WCM社が参入障壁の方向性や企業文化に着目した銘柄選択を行い、銘柄の組入比率等を変更します。 ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
受託会社	ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド
管理事務代行会社	ステート・ストリート・ファンド・サービスズ(アイルランド)リミテッド
投資顧問会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
副投資顧問会社	WCM 社
保管会社/ 副管理事務 代行会社	ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド
販売会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
ファンド監査	Deloitte & Touche LLP, Cayman Islands
ファンド関係者	① ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド 住所: 1 Nexus Way - Suite #5203 Heliconia Courtyard, Camana Bay, Grand Cayman, Cayman Islands 役割: ファンドの受託業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ② ステート・ストリート・ファンド・サービスズ(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの基準価額の算出等 資本関係: 無 人的関係: 無 ③ マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド 住所: Charlotte House, Charlemont Street, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの運用指図、ファンドの販売促進及び販売支援等 資本関係: 無 人的関係: 無 ④ WCM社 住所: 281 Brooks Street Laguna Beach, California 92651 役割: ファンドの副投資顧問業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ⑤ ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: 有価証券の保護預かり業務 資本関係: 無 人的関係: 無 * 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、改訂日時時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。
運用報酬	投資対象とする外国投資信託では運用報酬はかかりません。
評価方法	① 価格の算出方法 管理事務代行会社は、当該ファンドの各評価日の評価時点において、ファンドの基準通貨で、当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格を計算するものとします。 ファンドの純資産総額は、当該ファンドの総資産の価額を確定し、当該ファンドの総負債を差し引くことにより計算されるものとします。 当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は、評価日に発行されている当該ファンドの受益権総口数で当該ファンドの純資産価額を除くことによって、計算されるものとします。 特段の定めがない限り、ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は12時30分(アイルランド時間)に計算されるものとします。 ファンドの資産および負債は、目論見書に記載の投資顧問会社、管理事務代行会社、受託会社の間で合意されたバリュエーション・ポリシーに則って算出されます。 ② 報告頻度・・・日次(営業日) ③ 報告方法・・・管理事務代行会社から送付されるエクセルファイルまたは専用ウェブサイト(iFAST)より配信

特別勘定特約 マルチストラテジー総合口 I 型について

マルチストラテジー総合口 I 型の運用にあたっては、以下の外国投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の外国投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	Mercer 3 Multi Strategy Cayman
運用方針	①世界の株式、債券、通貨、商品およびそれらに関連する金融派生商品(オプション、先物、スワップ、ワラント等)等を投資対象とし、複数の運用戦略を活用することで安定的な収益の獲得をめざします。 ②中長期的に国内短期金利+7%の期待収益率を目標とします。またファンド全体のリスクについては、年率4~8%程度をターゲットとします。 ③原則として為替ヘッジを行い、対円で為替変動リスクの低減をはかります。 ただし、ファンド資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
受託会社	ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド
管理事務代行会社	ステート・ストリート・ファンド・サービシズ(アイルランド)リミテッド
投資顧問会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
副投資顧問会社	ジャンナス・ヘンダーソン・インベスターズ・UK・リミテッド
保管会社/ 副管理事務 代行会社	ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド
販売会社	マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド
ファンド監査	Deloitte & Touche LLP, Cayman Islands
ファンド関係者	① ステート・ストリート・ケイマン・トラスト・カンパニー・リミテッド 住所: 1 Nexus Way - Suite #5203 Heliconia Courtyard, Camana Bay, Grand Cayman, Cayman Islands 役割: ファンドの受託業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ② ステート・ストリート・ファンド・サービシズ(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの基準価額の算出等 資本関係: 無 人的関係: 無 ③ マーサー・グローバル・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド 住所: Charlotte House, Charlemont Street, Dublin 2, Ireland 役割: ファンドの運用指図、ファンドの販売促進及び販売支援等 資本関係: 無 人的関係: 無 ④ ジャンナス・ヘンダーソン・インベスターズ・UK・リミテッド 住所: 201 Bishopsgate, London, EC2M 3AE, United Kingdom 役割: ファンドの副投資顧問業務 資本関係: 無 人的関係: 無 ⑤ ステート・ストリート・カストディアル・サービス(アイルランド)リミテッド 住所: 78 Sir John Rogerson's Quay, Dublin 2, Ireland 役割: 有価証券の保護預かり業務 資本関係: 無 人的関係: 無 * 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役員員を記載しております。なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。
運用報酬	投資対象とする外国投資信託では成功報酬が発生します。運用会社は、預かり資産の純資産価額(NAV)を日次算出し、当該NAVが所定の水準(ハードルレート※1およびハイ・ウォーターマーク(HWM)※2)を上回った場合に、その超過分に対して20%の成功報酬を徴収します。成功報酬の判定基準となるNAVがハードルレートを下回った場合には、成功報酬は発生しません。 成功報酬=(前営業日のNAV-運用会社の設定する所定の水準(ハードルレートおよびHWM))×20% ※1 ハードルレートは、HWMに無担保コールレートオーバーナイト物を用いて日次で算出します。ハードルレート算出に適用される収益率は0(ゼロ)を下回らないものとします。 ※2 HWMは、最後に成功報酬が支払われた決算期末のNAVとなります。運用開始以後一度も成功報酬が発生していない場合のHWMは、当該ファンド設定時におけるNAVを適用します。
評価方法	① 価格の算出方法 管理事務代行会社は、当該ファンドの各評価日の評価時点において、ファンドの基準通貨で、当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格を計算するものとします。 ファンドの純資産総額は、当該ファンドの総資産の価額を確定し、当該ファンドの総負債を差し引くことにより計算されるものとします。 当該ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は、評価日に発行されている当該ファンドの受益権総口数で当該ファンドの純資産価額を除すことによって、計算されるものとします。 特段の定めがない限り、ファンドの受益権1口当たりの純資産価格は12時30分(アイルランド時間)に計算されるものとします。 ファンドの資産および負債は、目録見書に記載の投資顧問会社、管理事務代行会社、受託会社の間で合意されたバリュエーション・ポリシーに則って算出されます。 ② 報告頻度・・・日次(営業日) ③ 報告方法・・・管理事務代行会社から送付されるエクセルファイルまたは専用ウェブサイト(IFAST)より配信

特別勘定特約 指数連動型配当口について

指数連動型配当口の運用にあたっては、以下の私募投資信託を組み入れます。詳細は以下の通りになります。

※以下記載の私募投資信託は、勧誘を目的としたものではありません。

ファンド名	モメンタムビルダー戦略ファンド 20●●(適格機関投資家専用)
運用方針	ゴールドマン・サックス・インターナショナルが開発する日米欧の株価指数先物取引および債券先物取引等を構成要素とするモメンタムビルダー戦略指数から計算される指数を参照指数とし、当該参照指数の累積収益率を原資産とする満期の異なる複数のコール・オプション取引と同等の経済効果をもつ円建の証書に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。
委託会社	シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(再信託先:株式会社日本カストディ銀行)
販売会社	ゴールドマン・サックス証券株式会社
ファンド監査	PwCあらた有限責任監査法人
ファンド関係者	<p>① シンプレクス・アセット・マネジメント株式会社 住所:東京都千代田区丸の内1丁目5番1号 新丸の内ビルディング 27 階 役割:信託財産の運用指図、基準価額の算出等 資本関係:無 人的関係:無</p> <p>② ゴールドマン・サックス証券株式会社 住所:東京都港区六本木6丁目10番1号 役割:販売の取扱い 資本関係:無 人的関係:無</p> <p>③ 三井住友信託銀行 住所:東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 役割:信託財産の保管・管理等 資本関係:無 人的関係:無</p> <p>④ 株式会社日本カストディ銀行 住所:東京都中央区晴海一丁目8番12号 役割:三井住友信託銀行より、信託事務の一部を受託 資本関係:有 人的関係:無</p> <p>* 資本関係、人的関係は当社との関係を記載しており、改訂日時点のものです。資本関係は、保険業法等で規定される記載事項について、併せて人的関係は、当社職員の中でファンド関係者にて兼務している役職員を記載しております。なお、役員等は、取締役(社外取締役除く)、会計参与、監査役、執行役、会計監査役を表します。</p>
信託報酬	元本総額に対し、年0.088%(税抜0.08%)の率を乗じた金額とします。 (税抜:委託会社 年0.045% 販売会社 年0.005% 受託会社 年0.03%)
評価方法	<p>① 価格の算出方法 法令および一般社団法人投資信託協会規則等に従って時価評価を行います。有価証券等及びデリバティブ取引の評価は、基準価額計算日に知りうる直近の日の価格です。 当該ファンドは、参照指数の累積収益率を原資産とするコール・オプションに投資した場合と同等の経済効果を得ることを目標とし、時価の主な要素は参照指数の累積収益率およびハードルレート等となります。ここで、参照指数の累積収益率は次の式によって計算されます。 「参照指数の累積収益率=(モメンタムビルダー戦略指数の収益率-ハードルレート)の累積収益率」 ハードルレートとは、コール・オプションの価格を抑制する要素となります。当該レートは市場環境によって変動する可能性があります。ただし、運用開始後に変更されることは原則ありません。</p> <p>② 報告頻度・・・日次(営業日)</p> <p>③ 報告方法・・・株式会社野村総合研究所のFundWeb Transfer から自動配信</p>

※ 当資料の運用商品に関する記載は、確定給付企業年金保険特別勘定特約、厚生年金基金保険および厚生年金基金保険(Ⅱ)の特別勘定特約、ならびに新企業年金保険および新企業年金保険(Ⅱ)の特別勘定特約の概要を記載したものであり、ご契約にかかるすべての事項を記載したものではありません。ご契約の際には「ご契約のしおり」、「約款」を必ずお読みください。

第一生命保険株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-1
お問い合わせ: 特別勘定運用部 050(3780)1007(代表)
(登)C23S7146(2024.3.26)

「特別勘定HP」のご案内

<団体年金(特別勘定)トップページURL> https://www.dai-ichi-life.co.jp/legal/dantai_tokubetsu/index.html

または、第一生命トップページより「法人のお客さま」→「特別勘定 ディスクローズ」を選択

- 特別勘定の運用体制・方針、商品内容、運用実績等の情報がご覧になれます。
- 当ホームページによる情報提供サービスは、すべて無料でご覧になれます。
- 特別勘定特約をご採用されているお客さま専用の会員制ホームページもございます。

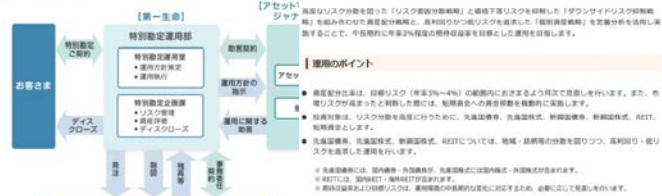
◆特別勘定HP◆

当社特別勘定の運用体制・方針、商品内容、運用実績等をご確認いただけます。

運用体制・方針

第一生命は、アセットマネジメントOne（特）（以下、「アセットマネジメントOne」といいます）およびシヤアス・ヘンダーソン・インベストメント・ジャパン（特）（以下、「シヤアス・ヘンダーソン」といいます）との間に投資信託業務（以下、「投資信託」といいます）を締結し、この投資信託に基づいて特別勘定運用の運用を行います。ただし、「ヘッジ外債種別1型」、「グローバル債券種別1型」は、高頻的にもかつ常に運用を行います。

※ 投資信託などの運用・販売は、(株)日本カストディ銀行（以下、「日本カストディ」）委託契約を締結しています。



運用実績がご覧になれます。

運用実績

特別勘定運用のご報告 2021年度

特別勘定運用のご報告1Q
(PDF形式: 4,415KB)



◆特別勘定のディスクローズサービス◆ (お客さま専用ページ)

- ・ユニット価格速報(毎月2回更新)
お客さまの残高、利回りなどの運用実績をご提供します。
- ・積立金運用実績総括表(毎月更新)
お客さまの残高、利回りなどの運用実績をご提供します。
- ・ユニット取引明細データ(毎月更新)
過去3ヶ月のお客さまの口(くち)取引の状況をご提供します。
- ・積立金残高データ(毎月更新)
お客さまの積立金残高状況をご提供します。

特別勘定のディスクローズサービスURL (お客さま専用ページ)

<https://www.dai-ichi-life.co.jp/legal/contractor/index.html>

法人の会員向け専用サイト

法人のお客さまにインターネットを活用した以下のサービスを提供し

団体年金保険

団体年金 資産運用報告書・年金資産額報告書
ご提供サービス

ログイン 詳しくはこちら

クリックいただくと
お客さま専用ページの
ID入力画面に移動します。

特別勘定のディスクローズサービス

ログイン 詳しくはこちら

お客さま専用ページ

第一特約

● ユニット価格速報

契約サイトから（月1回）毎月1日、10日更新のサービス
※ 行先の確認は必須です。

● データ開示

● 積立金運用実績総括表データ
契約サイトから（月1回）毎月1日更新のサービス
※ 行先の確認は必須です。

● ユニット取引明細データ

契約サイトから（月1回）毎月1日更新のサービス

● 積立金残高データ

契約サイトから（月1回）毎月1日更新のサービス
※ 行先の確認は必須です。

第二特約

● データ開示

● 積立金運用実績総括表データ
契約サイトから（月1回）毎月1日更新のサービス
※ 行先の確認は必須です。

特別勘定特約「総合口下方リスク限定型」のご案内

総合口下方リスク限定型の商品コンセプト

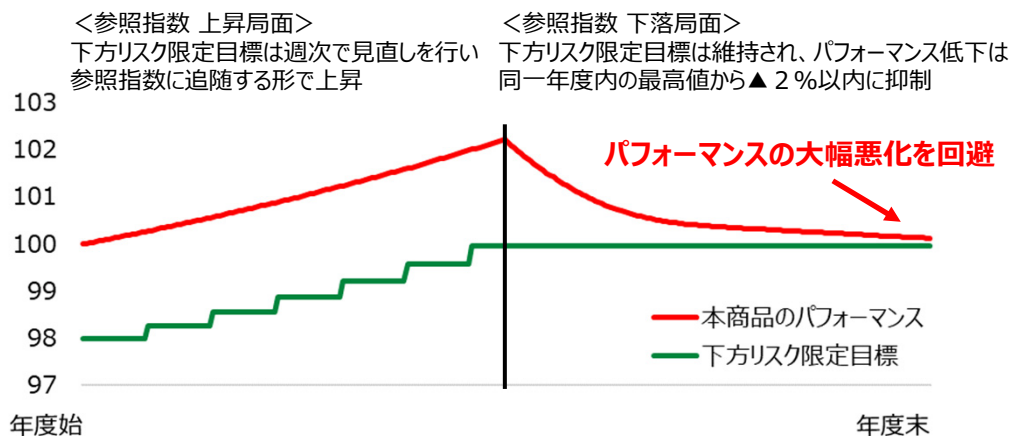
年度内での基準価額の最大下落幅が抑制された※1低リスクマルチアセット

- ① リスクを2%程度に抑えつつ、中長期的に年率1.5~2.0%程度の“**安定的なプラス収益の確保**”を目指します。
- ② 本ファンドは“**年度内の基準価額の最高値からの下落を2%以内に抑制する**”ことを目指します。（**下方リスク限定目標**）
- ③ “**徹底的な資産分散**”と市場環境に応じた“**運用戦略の選択・分散**”により“**全天候型**”のリターン確保を目指します。

下方リスク限定目標

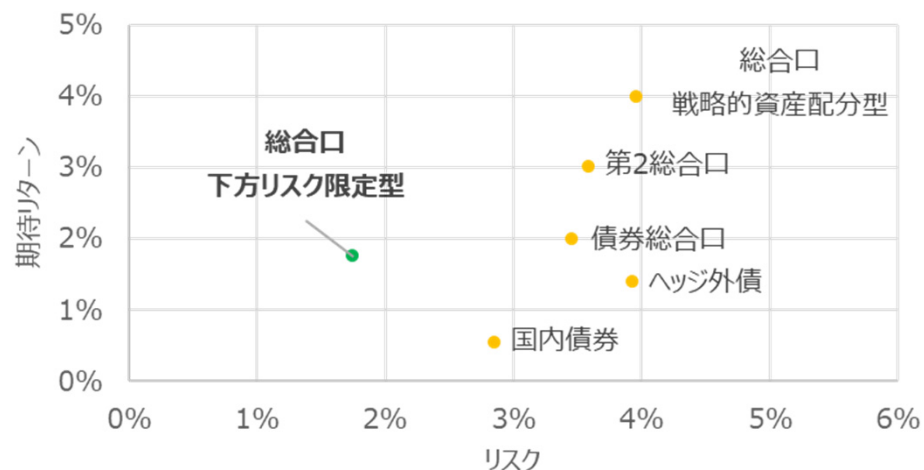
- 本ファンドは参照指数※2が下落しても、年度内での基準価額の最大下落幅が2%以内になることを目指した運用を行います。※3

運用のイメージ



リスク・リターンの特性※4,5

- 下方リスク限定目標の設定により大幅な下落を抑え、安定したパフォーマンスが期待できます。
- 安全性資産である国内債券や為替ヘッジ外債と比較してもリスク水準は低位であり、中長期的に高いリスク・リターン効率が期待できます。



※1 最大下落幅は目標であり保証しているものではありません。年度とは4月開始の1年間のことを指します。

※2 本ファンドの運用成果は、参照しているマルチアセット指数の運用実績に連動します。

※3 下方リスク限定目標の更新は週次で判定します。ただし年度末（3月末）直前の14日間は更新しません。

※4 上図の期待リターンは2023年3月における当社の市場環境見直し等に基づく期待リターンを使用しており、今後変更となる可能性があります。また、各資産クラスのデータには次の指数を使用しています。

国内債券：NOMURA-BPI総合、ヘッジ外債：FTSE-WGBI（除く日本、円ヘッジ・円ベース）

NOMURA-BPI総合は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。（登）C23S7145(2024.3.26)

なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスを用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

※5 リスクの推計は月次収益率の標準偏差から年率化を行っています。なお、リスクの計測期間は国内債券・ヘッジ外債は1988/1~2023/1、第2総合口・債券総合口は2003/4~2023/1、総合口戦略的資産配分型は2004/4~2023/1です（ただし、以下の期間はバックテストのデータを使用しています。第2総合口は2003/4~2014/3、債券総合口は2003/4~2015/12、総合口戦略的資産配分型は2004/4~2022/9）。

Dai-ichi Life Investment Report

第一生命保険株式会社

〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1 TEL 050-3780-1007

<https://www.dai-ichi-life.co.jp/>
